

川越地区消防組合
消防・救急・防災に関する住民意識調査
報告書

平成26年2月
川越地区消防組合

目 次

第 1 章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査設計	3
3. 調査項目	3
4. 回収結果	3
5. 調査結果を見る上での注意事項	3
第 2 章 調査結果の詳細	5
1. 回答者の属性	7
(1) 性別	7
(2) 年齢	7
(3) 家族構成	7
(4) 居住地区	8
(5) 居住年数	9
(6) 住居形態	10
(7) 職業	10
2. 住まいの火災予防について	12
(1) 自宅での火災予防対策	12
(2) 自宅に消火器を備えていない理由	15
(3) 自宅で火災予防対策をしていない理由	18
(4) 防火性の高い製品の認知	19
(5) 放火を防ぐために実施していること	21
(6) 住宅用火災警報器設置義務の認知	24
(7) 住宅用火災警報器設置義務化の情報源	27
(8) 住宅用火災警報器（自宅）設置の有無	30
(9) 住宅用火災警報器（自宅）の設置場所	33
(10) 住宅用火災警報器（自宅）の定期点検状況	35
(11) 住宅用火災警報器（自宅）を設置していない理由	37
3. 救急救命・救急講習について	38
(1) 救急車の予想到着時間	38
(2) 救急車を呼ぶ際に心配なこと	41
(3) 救急車を要請するケース	43
(4) 救急・救命講習会または応急手当講習会への参加経験	45
(5) 救急・救命講習会または応急手当講習会に参加したことがない理由	49
(6) 学んでみたい救急救命・応急手当の方法	52
4. 災害への備えについて	54
(1) いざというときの119番通報の可否	54
(2) 119番通報ができない理由	56

(3) 不安に思う事故や災害	57
(4) 参加したい訓練や体験	59
(5) 参加したことがある防災訓練	62
(6) 防災訓練に参加したことがない理由	64
(7) 大地震等による被害発生時の助け合いや協力の可否	66
(8) 消防団の認知	73
(9) 消防団活動への参加意向	76
(10) 活動に積極的でない理由	80
5. 消防・救急・防災情報について	83
(1) 興味のある情報の分野	83
(2) 川越地区消防組合の公式ホームページの閲覧経験	85
(3) ホームページを見た感想	87
(4) 川越地区消防組合の広報紙の閲読経験	88
(5) 広報紙を読んだ感想	90
(6) 望ましい情報提供手段	91
6. 消防組合の取り組みなどについて	94
(1) 消防職員に対するイメージ	94
(2) 導入してほしい行政サービス	98
(3) 消防・救急・防災面での安全・安心の実感度	101
(4) 安全・安心を実感できる理由	105
(5) 充実すべき施策	108
7. 自由記述	112
第3章 使用した調査票	115

第1章 調査の概要

1. 調査実施の目的

この調査は、川越地区消防組合の管轄する地域（川越市・川島町）居住者の、消防や救急、防災に関する意識や要望を把握し、地域の安全と安心をより一層充実していくための基礎資料として活用するために実施した。

2. 調査設計

調査地域：川越地区消防組合管内（川越市及び川島町）

調査対象：川越市及び川島町の満20歳以上の男女個人3,000人

抽出方法：住民基本台帳に基づく地区層化無作為抽出

調査方法：郵送法（郵送配布－郵送回収）（期間中督促状1回）

調査期間：平成25年10月1日（火）～10月25日（金）

3. 調査項目

1. 回答者の属性
2. 住まいの火災予防
3. 救命救急・救急講習
4. 災害への備え
5. 消防・救急・防災情報
6. 消防組合の取り組みなど

4. 回収結果

配布票数：3,000件

有効回収数：1,606件

有効回収率：53.5%

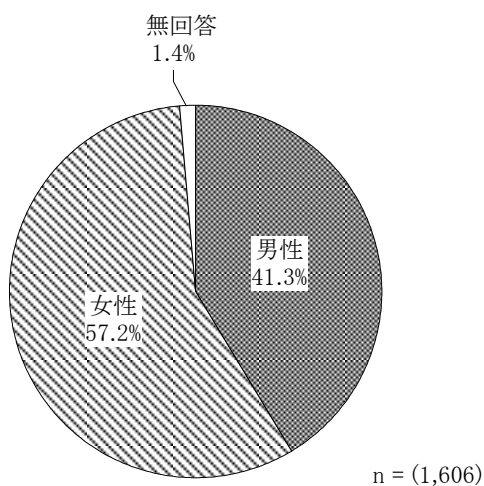
5. 調査結果を見る上での注意事項

- ・表、グラフ中の「n」は、各設問に対する回答者数を示している。
- ・百分率（%）の計算は、「n」を分母とし、小数第2位を四捨五入して表示している。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフ中は、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

第2章 調査結果の詳細

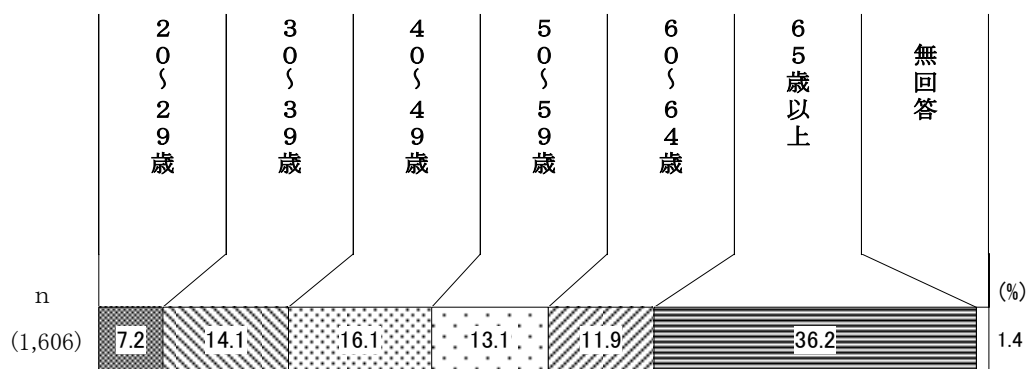
1. 回答者の属性

(1) 性別



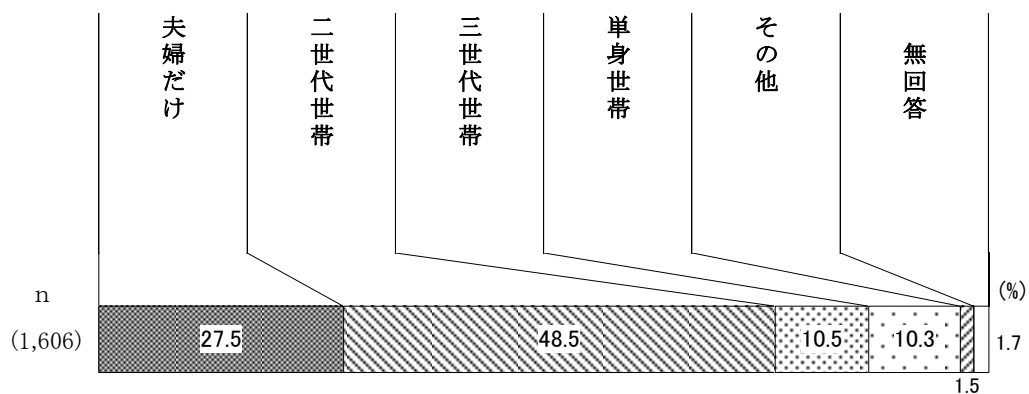
性別は、「男性」が41.3%、「女性」が57.2%を占めている。

(2) 年齢



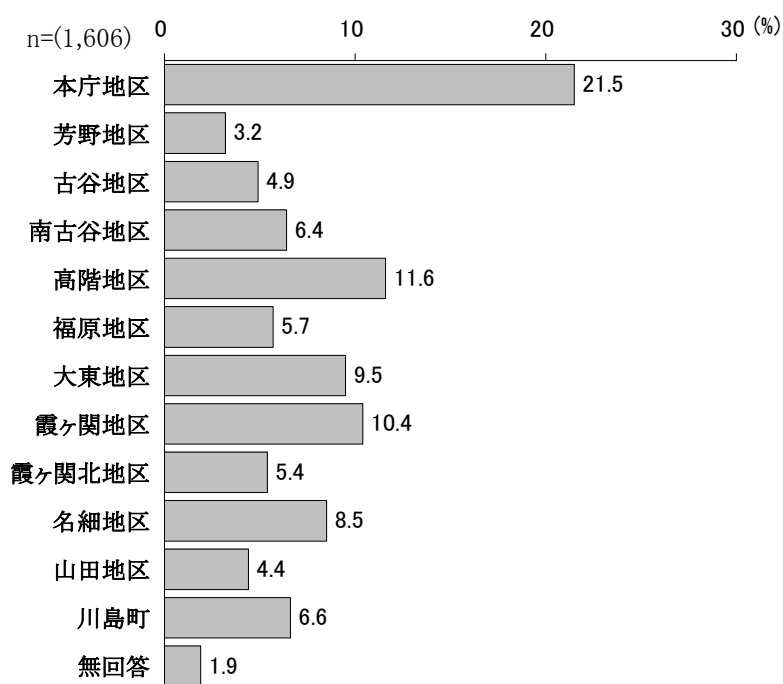
年齢は、「65歳以上」が36.2%を占めている。

(3) 家族構成



家族構成は、「二世帯世帯」が48.5%と多く、「夫婦だけ」が27.5%で続いている。

(4) 居住地区



居住地区は、「本庁地区」が21.5%となっている。

地区別の性別構成をみると、すべての地区で女性が男性より多く、本庁地区、芳野地区、南古谷地区、霞ヶ関北地区、名細地区、山田地区で6割前後となっている。

地区別一性別構成

(%)

	調査数	男性	女性	無回答
全 体	1,606	41.3	57.2	1.4
本庁地区	346	38.4	61.6	-
芳野地区	51	41.2	58.8	-
古谷地区	79	48.1	51.9	-
南古谷地区	103	36.9	62.1	1.0
高階地区	186	42.5	57.0	0.5
福原地区	91	45.1	54.9	-
大東地区	153	47.1	52.3	0.7
霞ヶ関地区	167	44.3	55.7	-
霞ヶ関北地区	87	39.1	60.9	-
名細地区	137	39.4	60.6	-
山田地区	70	41.4	58.6	-
川島町	106	44.3	55.7	-

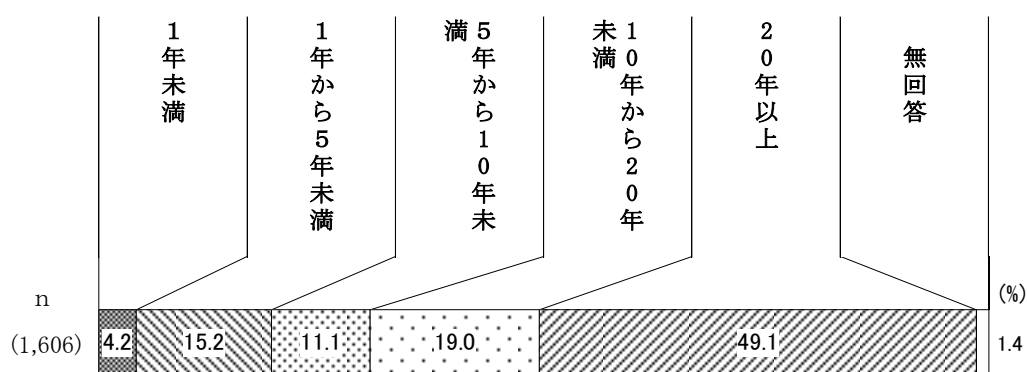
地区別の年代構成をみると、芳野地区、南古谷地区、山田地区は20～29歳や30～39歳が3割前後を占めており、比較的若年層が多くなっている。他の地区では60歳以上の占める割合が4割から5割程度と多くなっているが、霞ヶ関北地区では6割以上と特に多くなっている。

地区別一年代構成

(%)

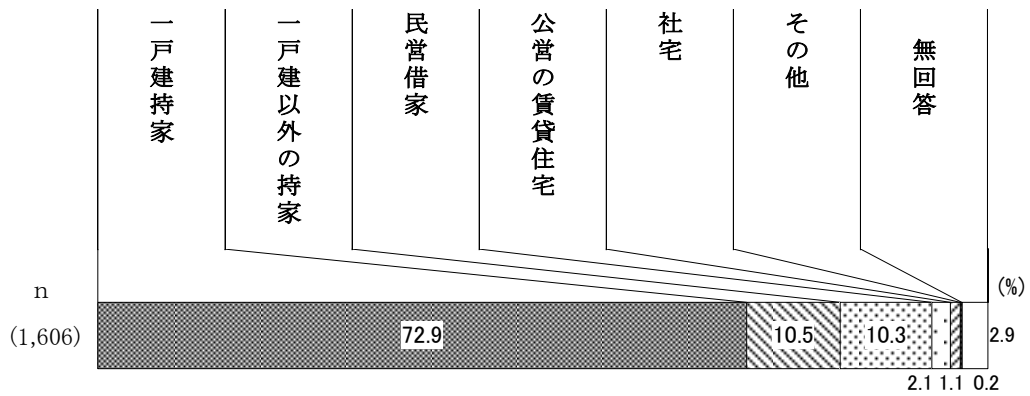
	調査数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	無回答
全体	1,606	7.2	14.1	16.1	13.1	11.9	36.2	1.4
本庁地区	346	7.2	15.3	17.9	13.9	10.4	35.3	-
芳野地区	51	17.6	15.7	11.8	17.6	7.8	29.4	-
古谷地区	79	8.9	12.7	12.7	19.0	15.2	31.6	-
南古谷地区	103	10.7	19.4	21.4	7.8	13.6	27.2	-
高階地区	186	7.5	12.4	17.7	12.9	9.1	39.8	0.5
福原地区	91	6.6	14.3	14.3	12.1	16.5	36.3	-
大東地区	153	9.8	13.1	17.0	13.1	14.4	32.7	-
霞ヶ関地区	167	6.6	15.0	15.0	13.8	12.0	37.7	-
霞ヶ関北地区	87	4.6	9.2	11.5	13.8	9.2	51.7	-
名細地区	137	5.1	14.6	14.6	12.4	9.5	43.8	-
山田地区	70	7.1	21.4	12.9	8.6	14.3	35.7	-
川島町	106	1.9	10.4	18.9	16.0	18.9	34.0	-

(5) 居住年数



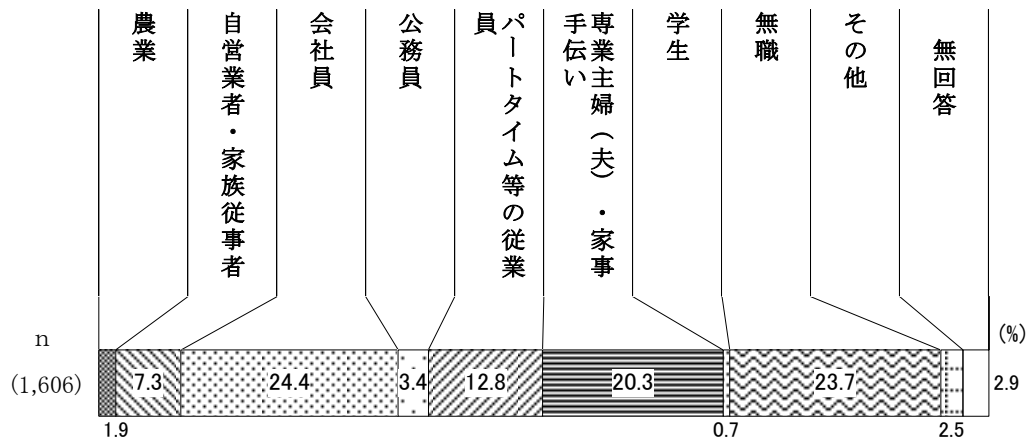
居住年数は、「20年以上」が49.1%と約半数を占めている。

(6) 住居形態



住居形態は、「一戸建持家」が72.9%となっている。

(7) 職業

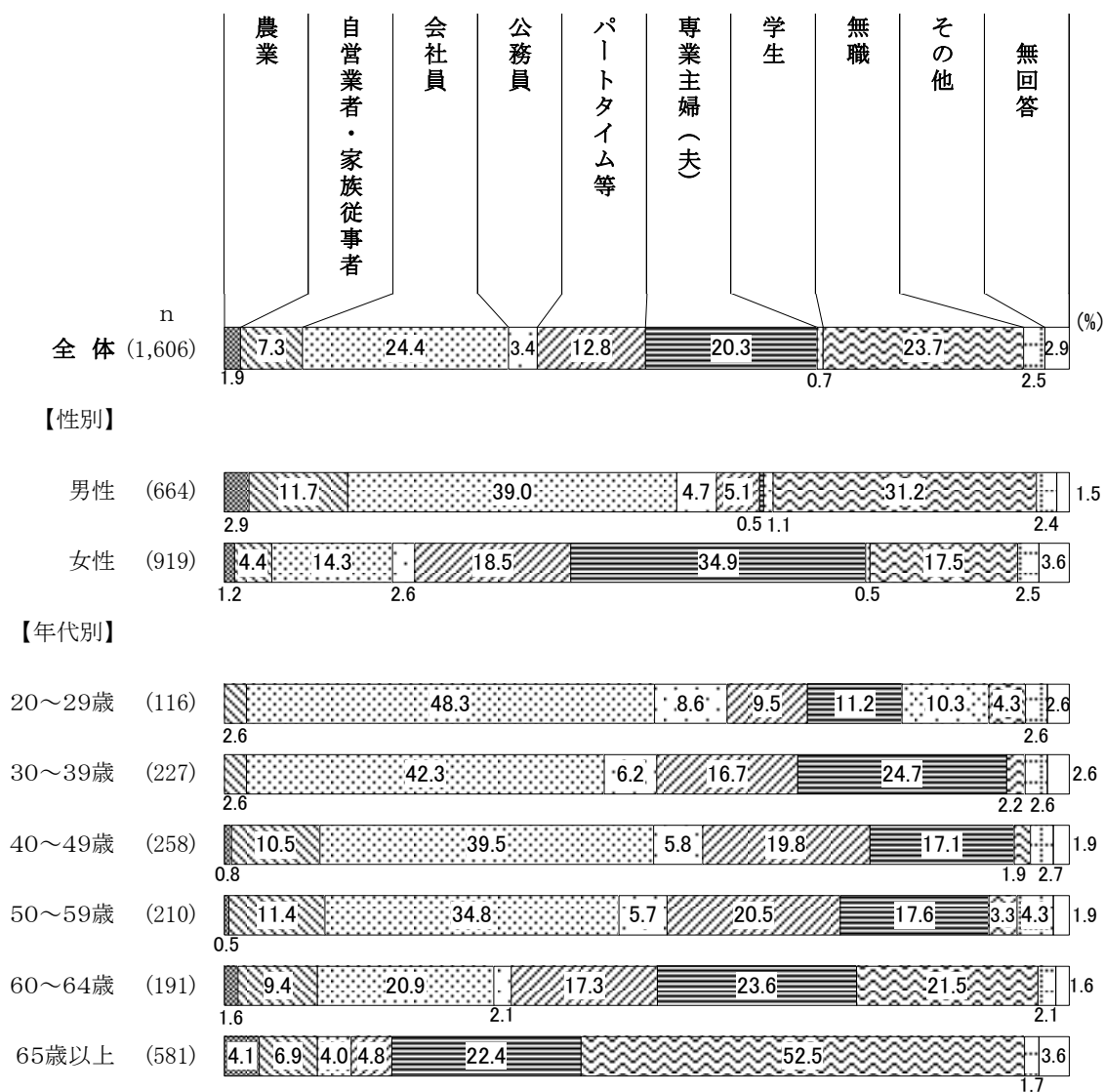


職業は、「会社員」が24.4%、「専業主婦(夫)・家事手伝い」が20.3%、「無職」が23.7%となっている。

職業を性別にみると、男性は「会社員」が39.0%で最も多く、有業者の割合は63.4%となっている。女性は「専業主婦」が34.9%で最も多く、「パートタイム等」(18.5%)、「会社員」(14.3%)が1割台となり、有業者の割合は41.0%となっている。

年代別にみると、59歳以下の年代では「会社員」が多く、有業者割合が6割以上を占める。60歳以上は無職の割合が増えている。

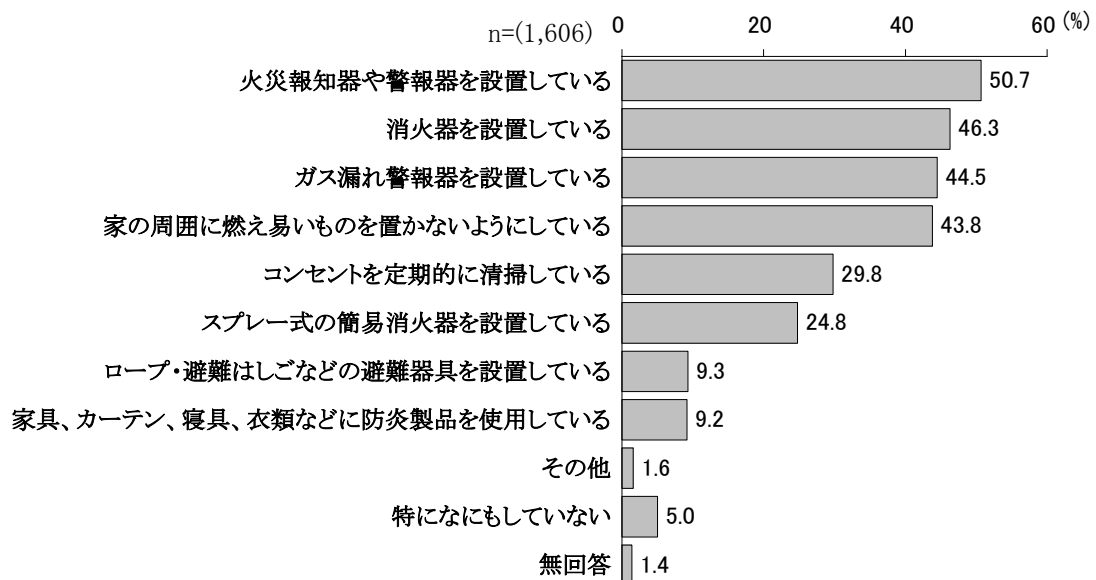
性別／年代別



2. 住まいの火災予防について

(1) 自宅での火災予防対策

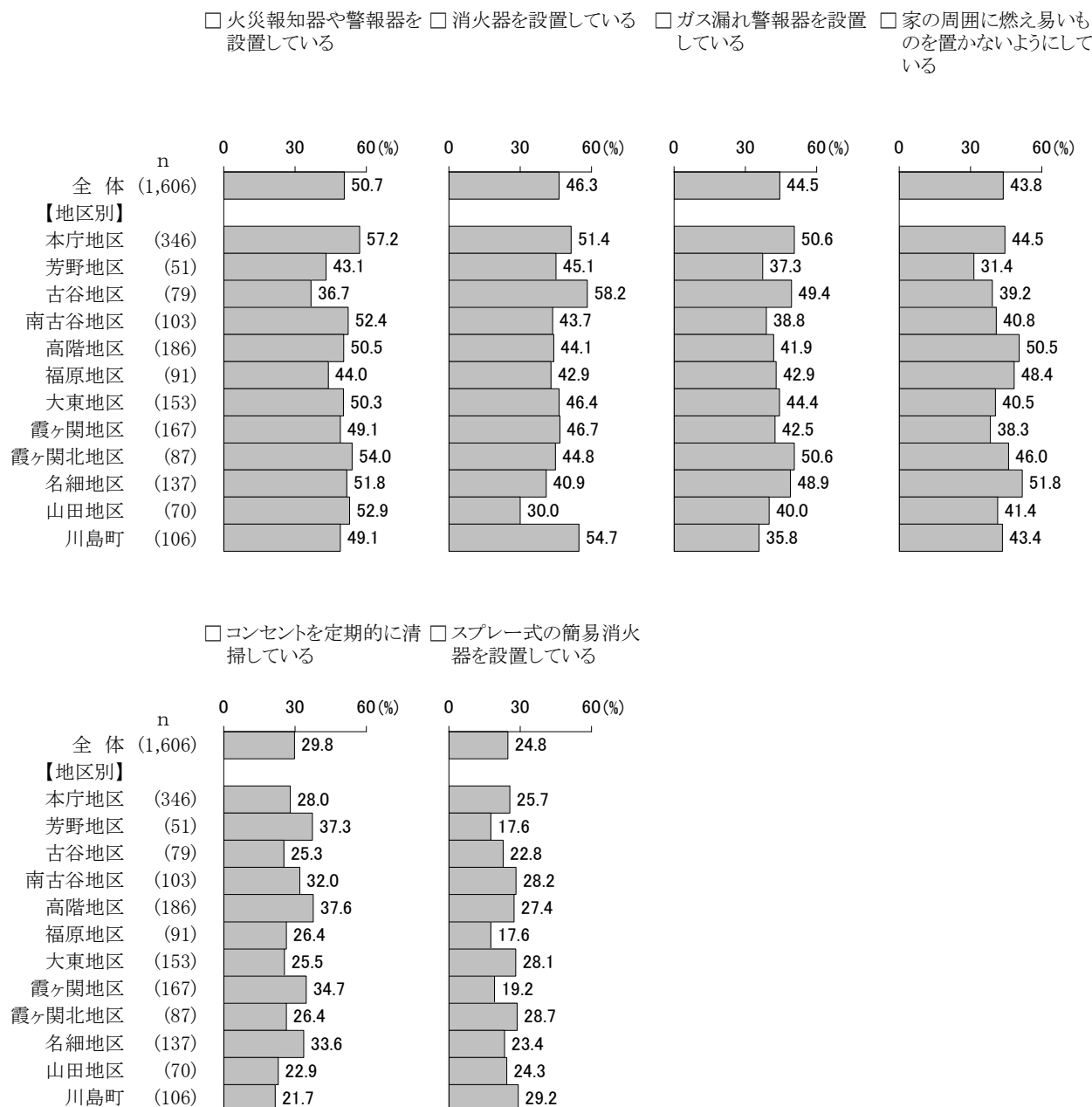
問1 あなたのお住まいでは、火災への備えとしてどのような対策をしていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(集合住宅等で管理会社により設置されている場合等も含めてお答えください。)(○はあてはまるものすべて)



自宅での火災予防対策としては、「火災報知器や警報器を設置している」が50.7%で最も多く、「消火器を設置している」(46.3%)、「ガス漏れ警報器を設置している」(44.5%)、「家の周囲に燃えやすいものを置かないようにしている」(43.8%)が4割台で続いている。

地区別にみると、「火災報知器や警報器を設置している」は多くの地区で4割から5割台と多くなっているが、古谷地区では36.7%と他の地区より少ない。「消火器を設置している」は本庁地区、古谷地区、川島町で5割台、他の地区でも4割台となっているが、山田地区では30.0%と少なくなっている。「ガス漏れ警報器を設置している」は本庁地区、古谷地区、霞ヶ関北地区、名細地区で、「家の周囲に燃え易いものを置かないようにしている」は高階地区、福原地区、名細地区でそれぞれ5割前後と多くなっている。

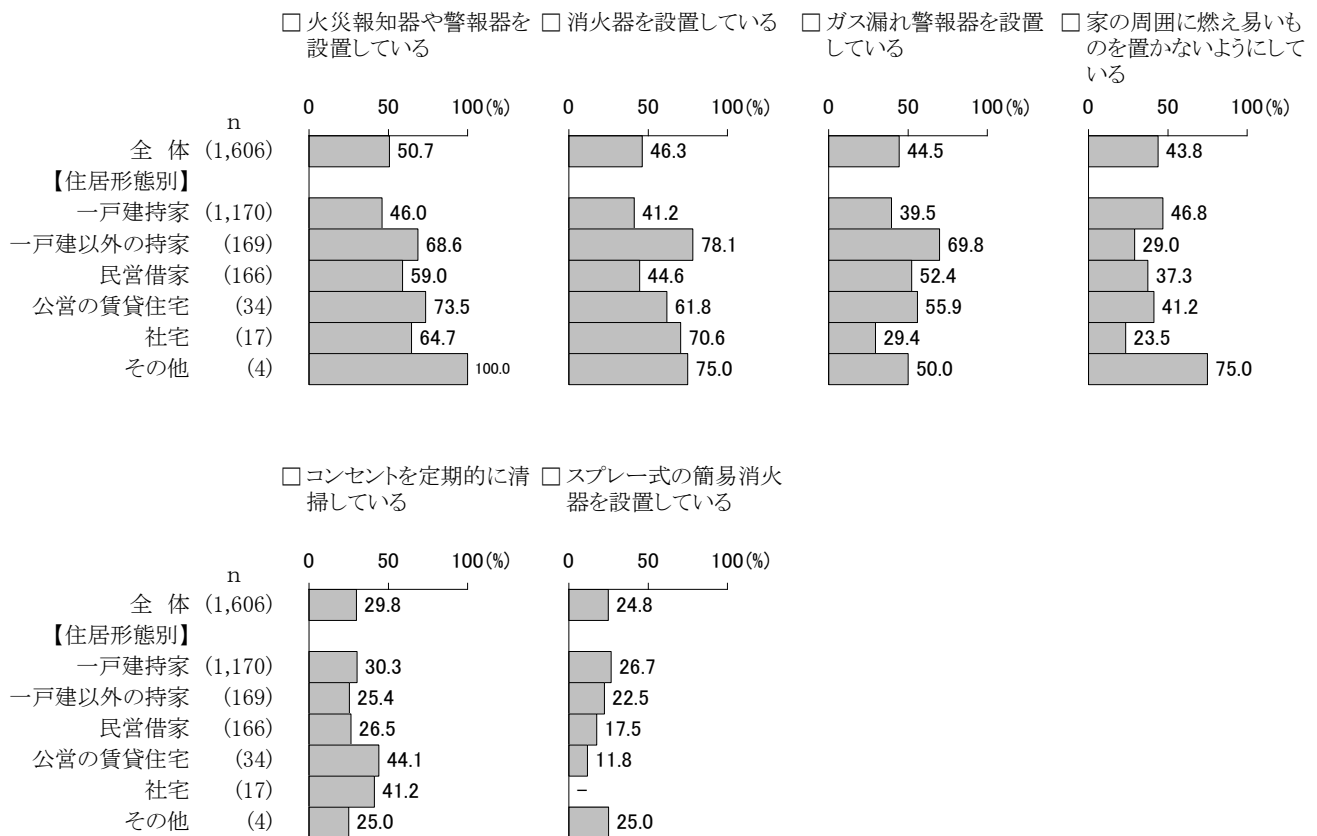
地区別（上位6項目）



第2章 調査結果の詳細

住居形態別にみると、「火災報知器や警報器を設置している」は公営の賃貸住宅で73.5%、一戸建以外の持家でも68.6%と多くなっている。一戸建以外の持家では「消火器を設置している」(78.1%)や「ガス漏れ警報器を設置している」(69.8%)も多くなっている。

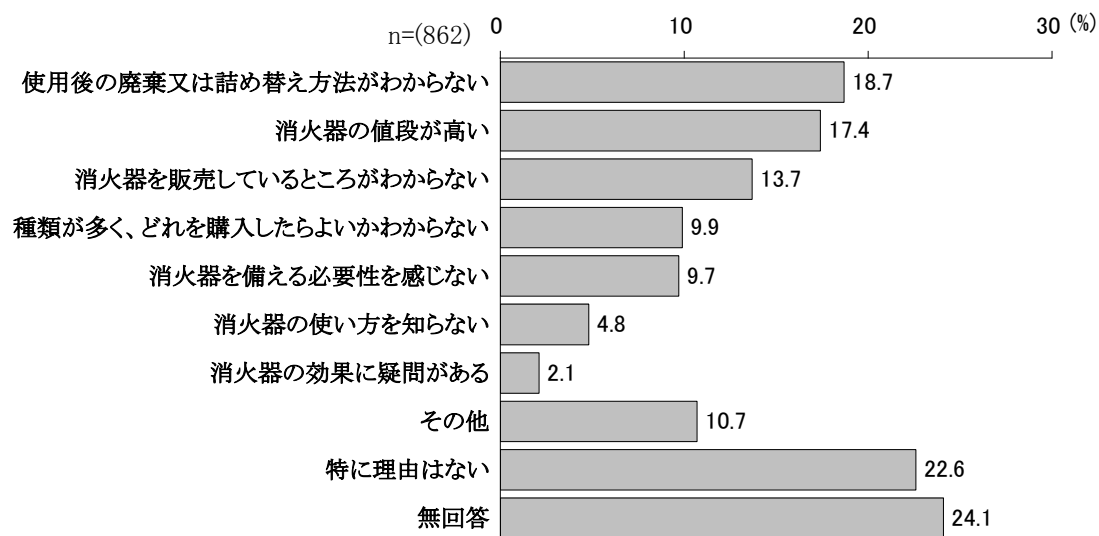
住居形態別（上位6項目）



(2) 自宅に消火器を備えていない理由

【問1で「消火器を設置している」を選ばなかった方におたずねします。】

問1-1 あなたの家に消火器を備えていない理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。(〇は3つまで)

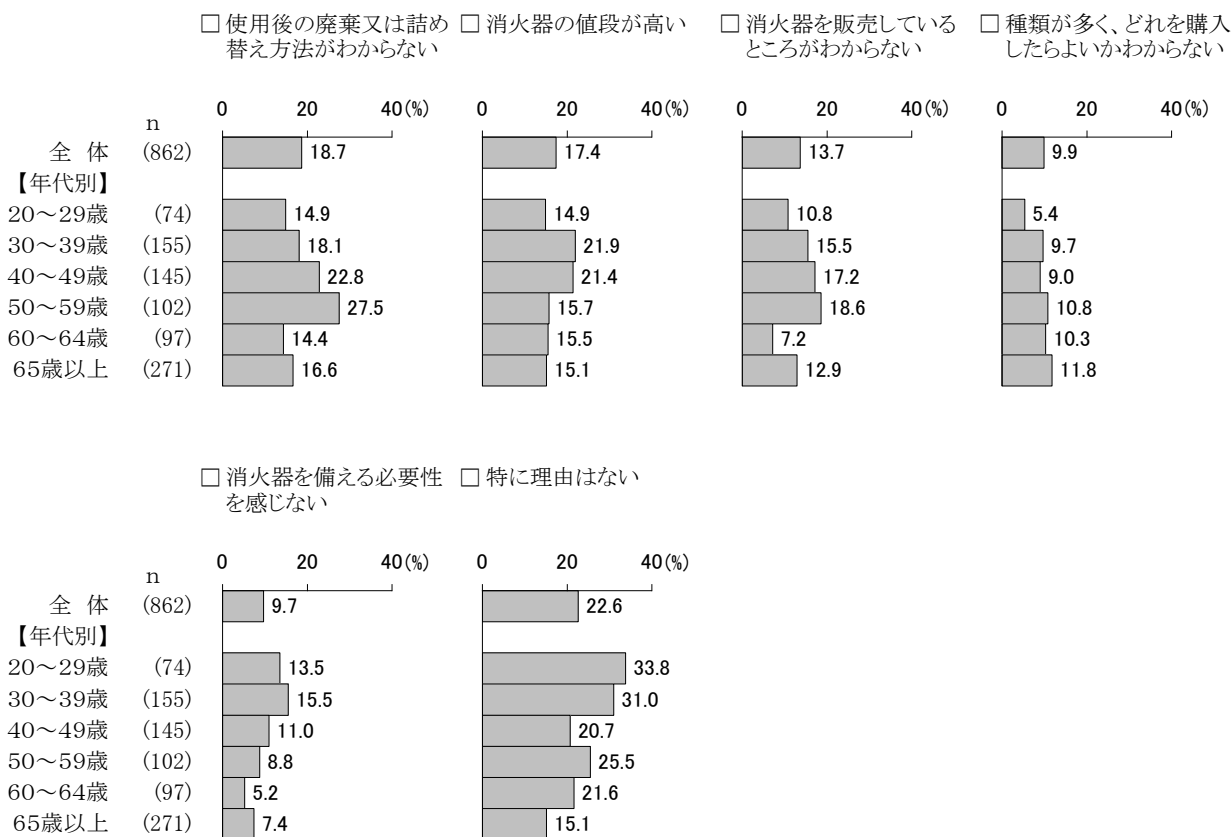


自宅に消火器を備えていない理由は、「使用後の廃棄又は詰め替え方法がわからない」(18.7%)や「消火器の値段が高い」(17.4%)が比較的多く、これに「消火器を販売しているところがわからない」(13.7%)が続いている。また、「特に理由はない」も22.6%と多くなっている。

第2章 調査結果の詳細

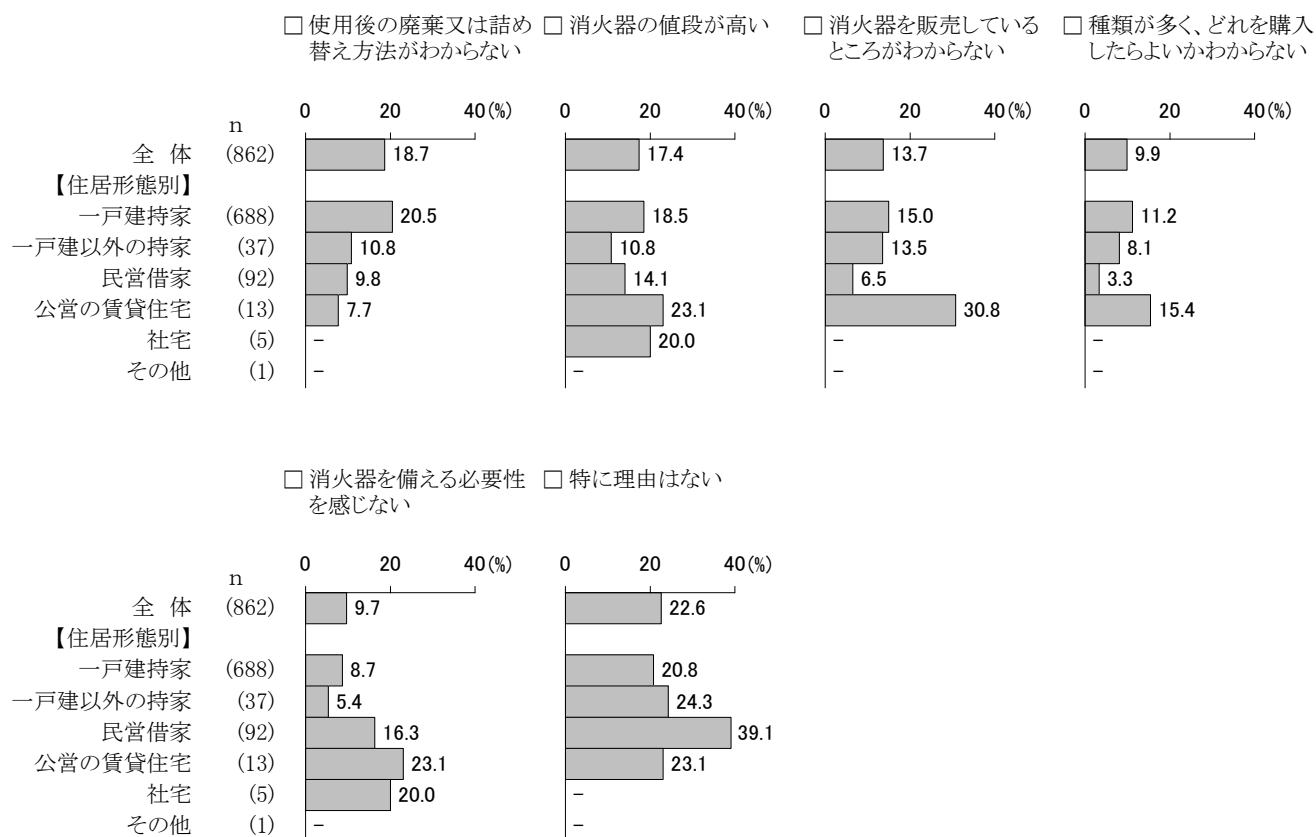
年代別にみると、「使用後の廃棄又は詰め替え方法がわからない」は50～59歳、40～49歳で、「消火器の値段が高い」は30～39歳、40～49歳でそれぞれ2割台となっている。また、「特に理由はない」は20～29歳、30～39歳で3割台と比較的多くなっている。

年代別（上位5項目＋特に理由はない）



住居形態別にみると、一戸建持家では「使用後の廃棄又は詰め替え方法がわからない」(20.5%)や「消火器の値段が高い」(18.5%)が比較的多くなっている。また、民営借家では「消火器を備える必要性を感じない」(16.3%)や「特に理由はない」(39.1%)が比較的多くなっている。

住居形態別（上位5項目+特に理由はない）

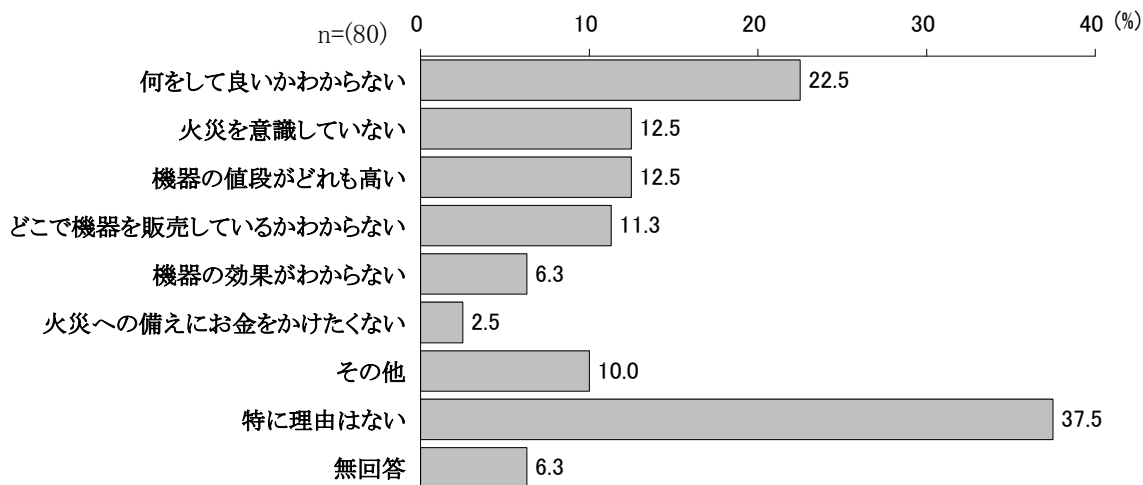


(3) 自宅で火災予防対策をしていない理由

【問1で「特になにもしていない」と答えた方におたずねします。】

問1-2 なにもしていない理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。

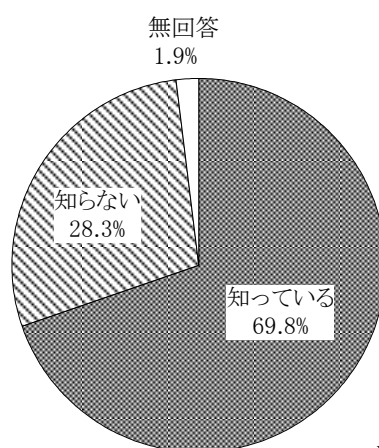
(○は3つまで)



火災への備えを特になにもしていない理由としては、「何をして良いかわからない」が22.5%で最も多く、以下、「火災を意識していない」、「機器の値段がどれも高い」（ともに12.5%）、「どこで機器を販売しているかわからない」（11.3%）などが続いている。また、「特に理由はない」も37.5%と多くなっている。

(4) 防災性の高い製品の認知

問2 あなたは、家具、カーテン、寝具、衣類などに「防災」または「防災製品」の表示が添付してある防災性の高い製品があることを知っていますか。(○は1つ)



n = (1,606)

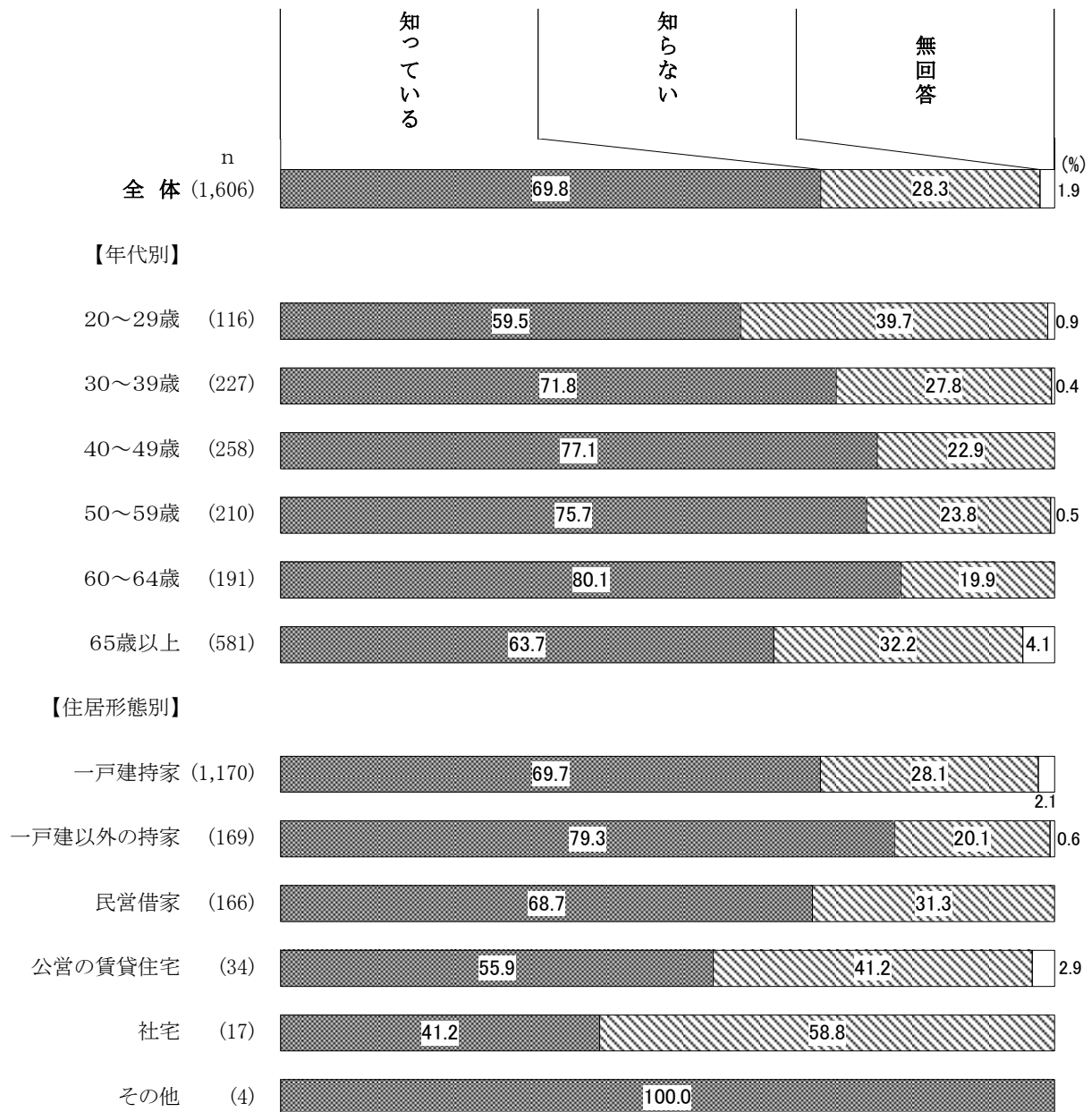
防災性の高い製品があることを「知っている」は69.8%、「知らない」は28.3%となっている。

第2章 調査結果の詳細

年代別にみると、「知っている」は30歳から64歳まででは7割を超え、60～64歳では80.1%と特に多くなっている。

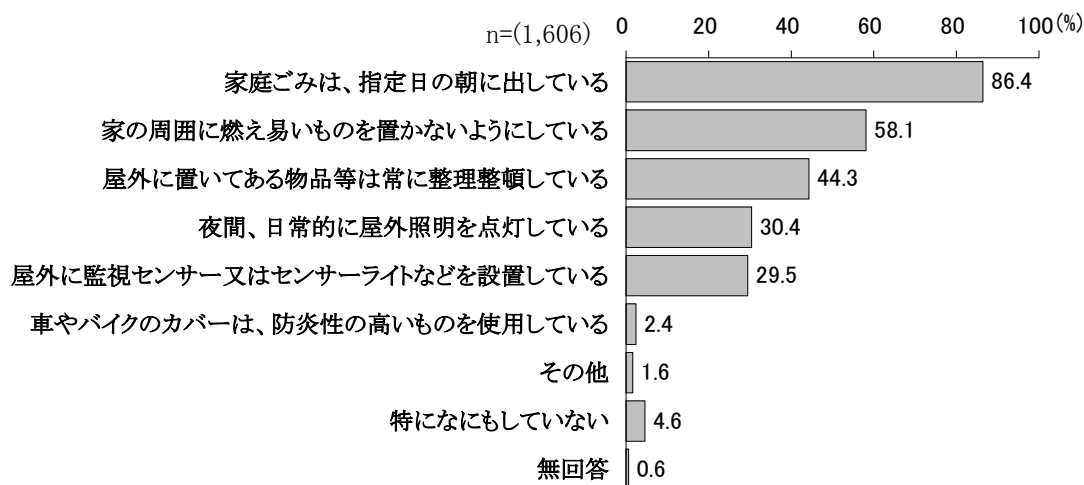
住居形態別にみると、「知っている」は一戸建以外の持家で79.3%と多い。

年代別／住居形態別



(5) 放火を防ぐために実施していること

問3 あなたのお宅では、放火を防ぐために何か実施していることはありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(〇はあてはまるものすべて)

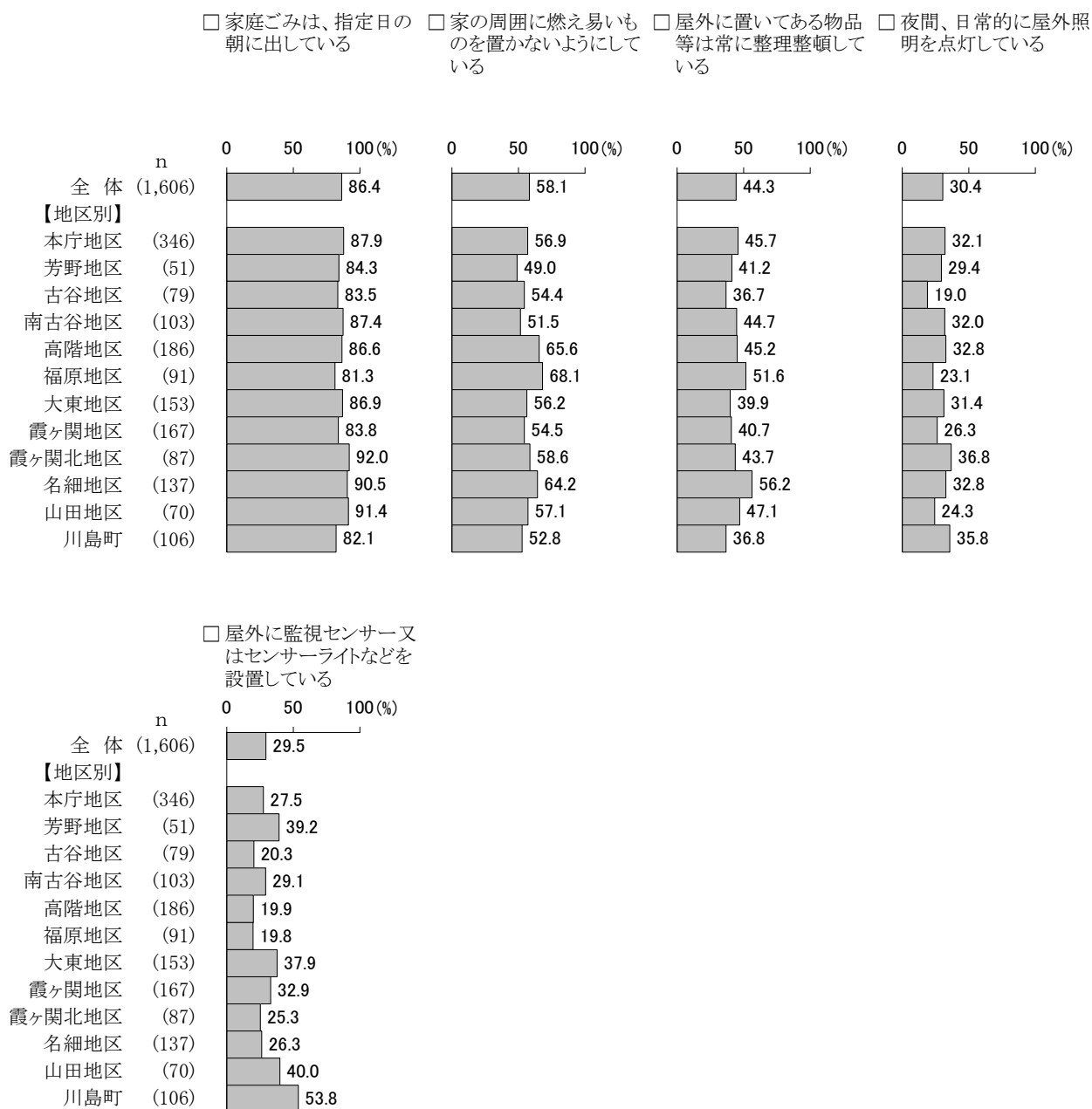


自宅で放火を防ぐために実施していることは、「家庭ごみは、指定日の朝に出している」が86.4%で最も多く、以下、「家の周囲に燃えやすいものを置かないようにしている」(58.1%)、「屋外に置いてある物品等は常に整理整頓している」(44.3%)、「夜間、日常的に屋外照明を点灯している」(30.4%)、「屋外に監視センサー又はセンサーライトなどを設置している」(29.5%)などが続いている。

第2章 調査結果の詳細

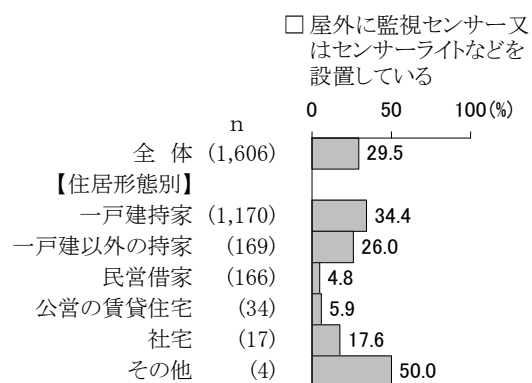
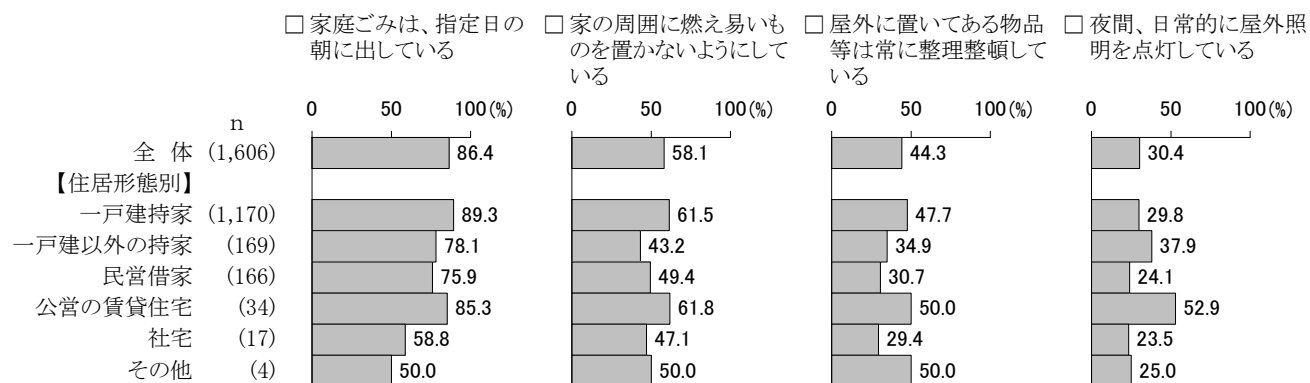
地区別にみると、「家庭ごみは、指定日の朝に出している」と「家の周囲に燃えやすいものを置かないようにしている」は各地区共通であげられている。特に「家庭ごみは、指定日の朝に出している」はいずれの地区でも8割から9割に達し、最も多くなっている。一方、「屋外に置いてある物品等は常に整理整頓している」は名細地区（56.2%）と古谷地区（36.7%）、川島町（36.8%）では20ポイント近くの開きがある。また、「屋外に監視センサー又はセンサーライトなどを設置している」は川島町では53.8%と多くなっているが、2割前後の地区もみられ、地区による違いも生じている。

地区別（上位5項目）



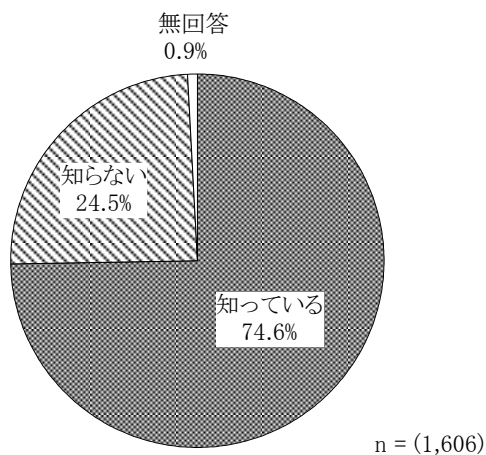
住居形態別にみると、「家庭ごみは、指定日の朝に出している」、「家の周囲に燃えやすいものを置かないようにしている」、「屋外に置いてある物品等は常に整理整頓している」では一戸建持家と公営の賃貸住宅の割合が比較的多くなっている。また、「夜間、日常的に屋外照明を点灯している」は公営の賃貸住宅で5割台と他の住居形態より多くなっている。

住居形態別（上位5項目）



(6) 住宅用火災警報器設置義務の認知

問4 あなたは、消防法及び川越地区消防組合火災予防条例により、川越地区消防組合管内（川越市及び川島町）のすべての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務づけられていることを知っていますか。（○は1つ）

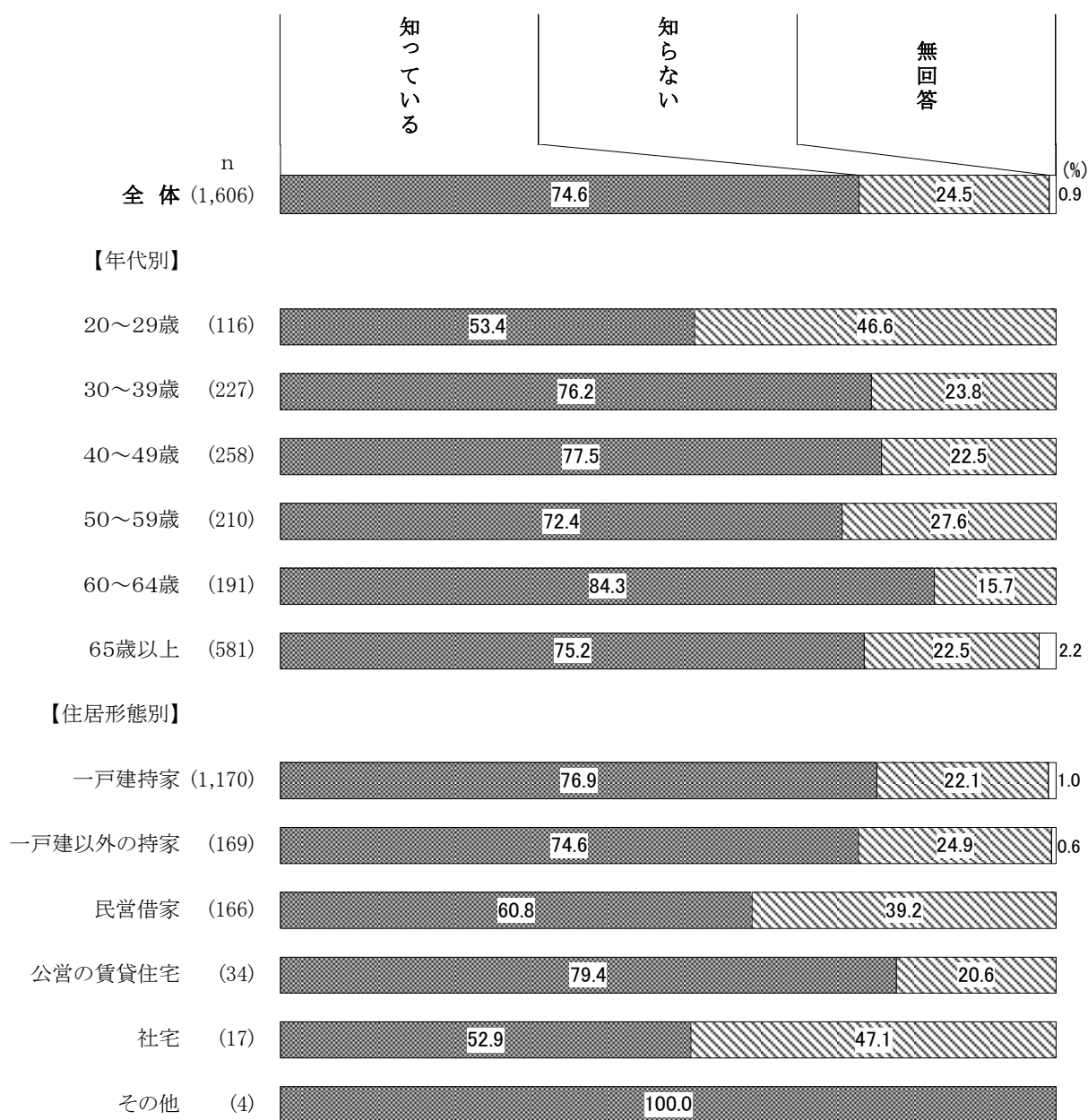


住宅に住宅用火災警報器の設置が義務づけられていることを「知っている」は74.6%、「知らない」は24.5%となっている。

年代別にみると、「知っている」は20～29歳では53.4%にとどまるが、30歳代以上の年代では7割台と多く、特に60～64歳では84.3%となっている。

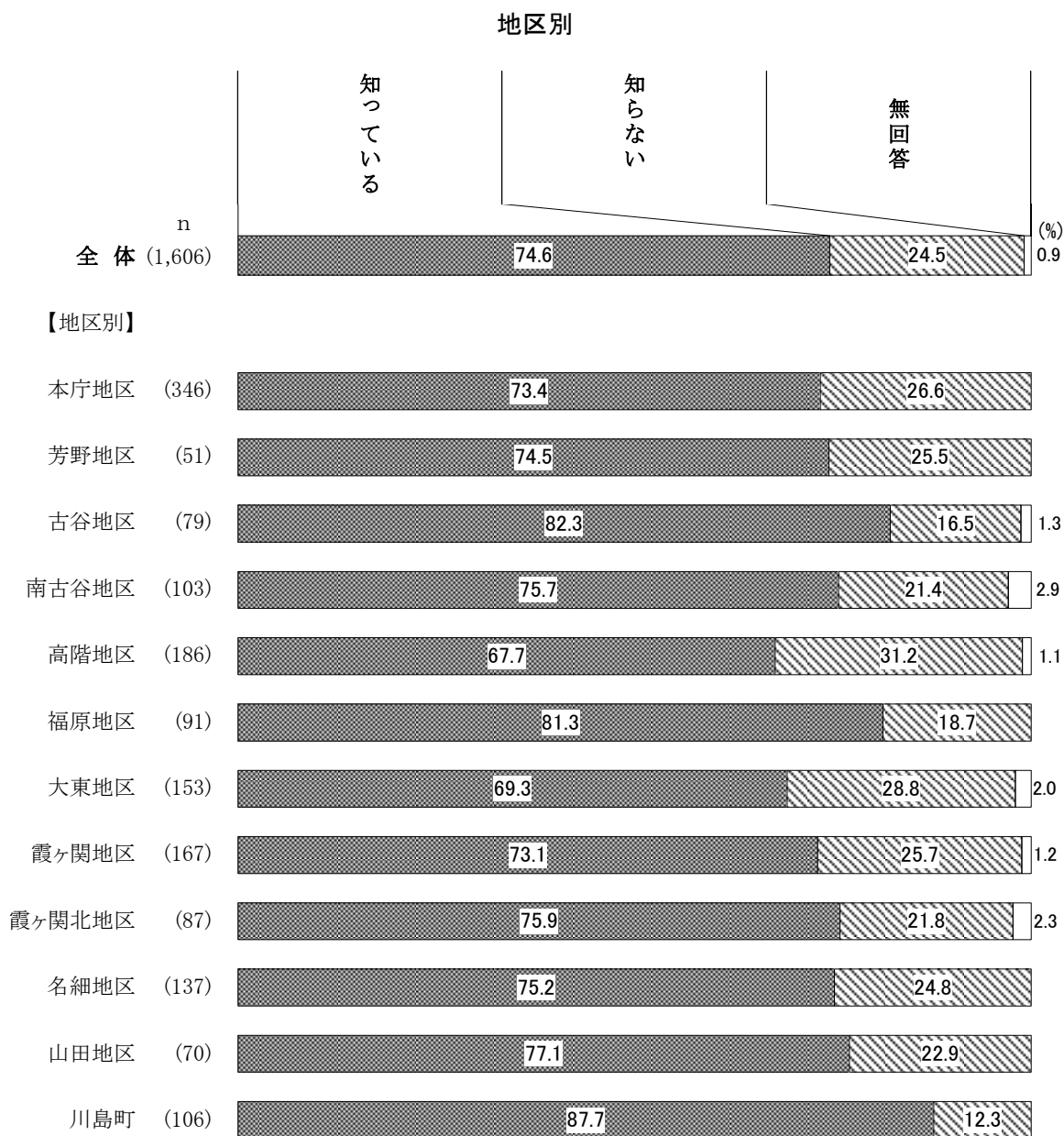
住居形態別にみると、「知っている」は公営の賃貸住宅、一戸建持家、一戸建以外の持家が7割台と多くなっている。一方、民営借家では60.8%と他の住居形態に比べて少ない。

年代別／住居形態別



第2章 調査結果の詳細

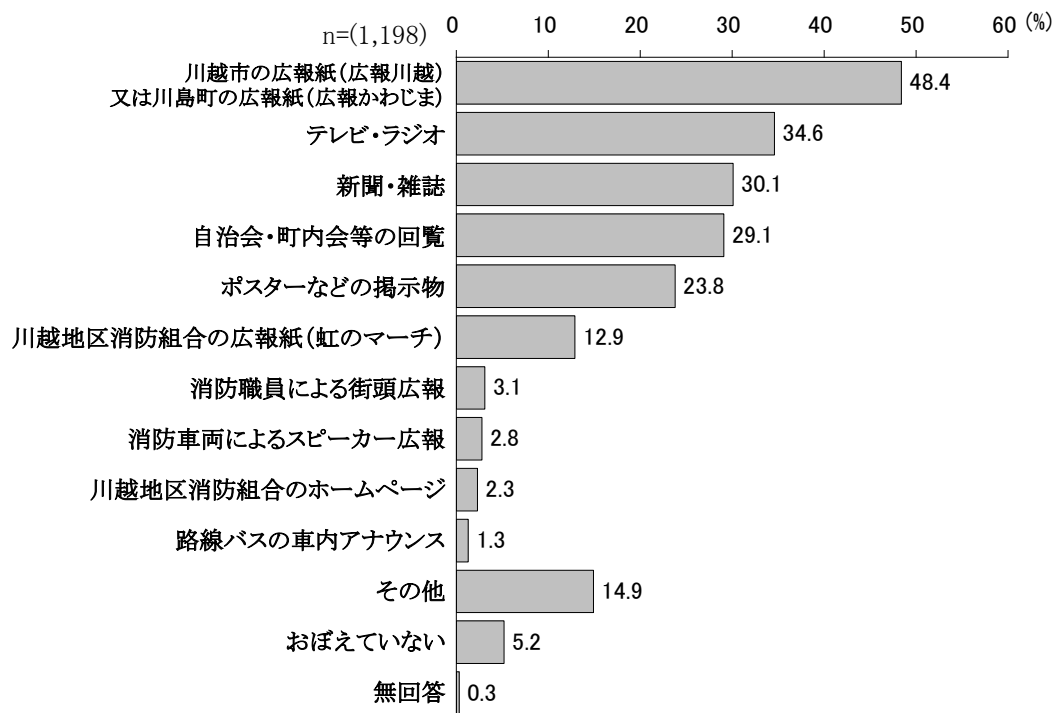
地区別にみると、「知っている」は、古谷地区、福原地区、川島町で8割台を占めて多くなっている。一方、高階地区と大東地区では7割に満たず、「知らない」が3割前後と比較的多くなっている。



(7) 住宅用火災警報器設置義務化の情報源

【問4で「知っている」と答えた方におたずねします。】

問4-1 どのような方法で住宅用火災警報器の設置が義務化されたことを知りましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(〇はあてはまるものすべて)

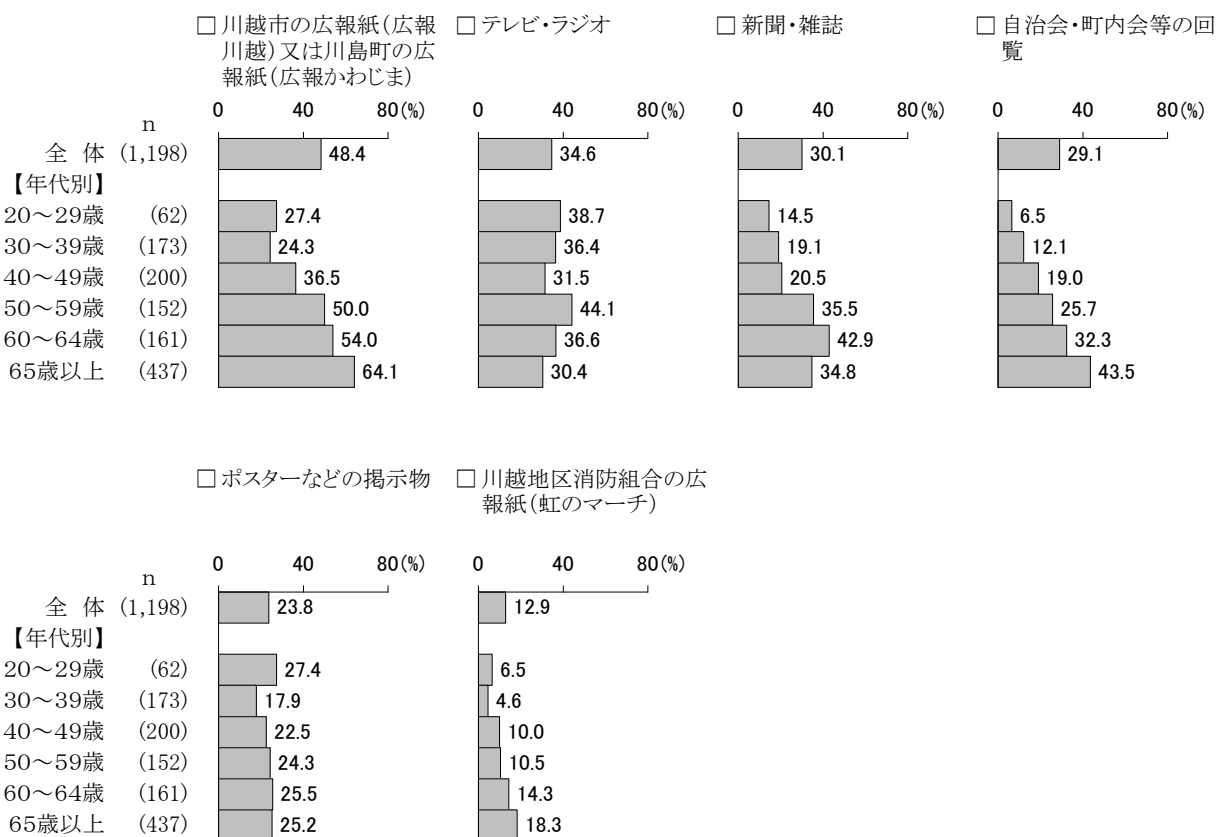


住宅用火災警報器の設置が義務化されたことを知った方法は、「川越市の広報紙（広報川越）又は川島町の広報紙（広報かわじま）」が48.4%で最も多く、以下、「テレビ・ラジオ」（34.6%）、「新聞・雑誌」（30.1%）が3割台、「自治会・町内会等の回覧」（29.1%）、「ポスターなどの掲示物」（23.8%）が2割台が続いている。

第2章 調査結果の詳細

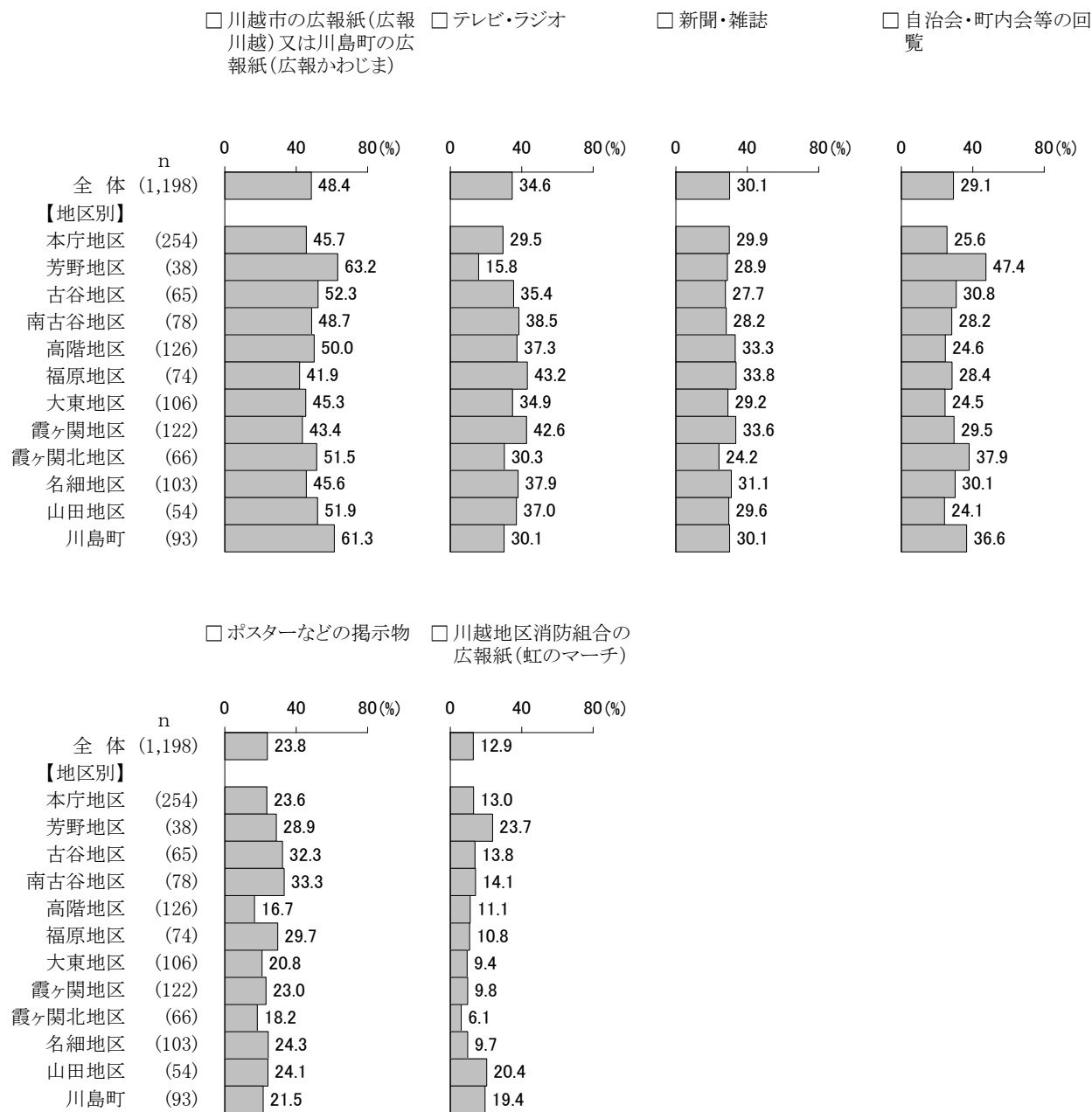
年代別にみると、「川越市の広報紙（広報川越）又は川島町の広報紙（広報かわじま）」は20～29歳、30～39歳では2割台と少ないが、以降年代が上がるにつれて多くなり、65歳以上では64.1%となっている。「自治会・町内会等の回覧」も同様の傾向で、65歳以上では43.5%となっている。一方、20～29歳、30～39歳では「テレビ・ラジオ」が3割台で最も多くなっている。

年代別（上位6項目）



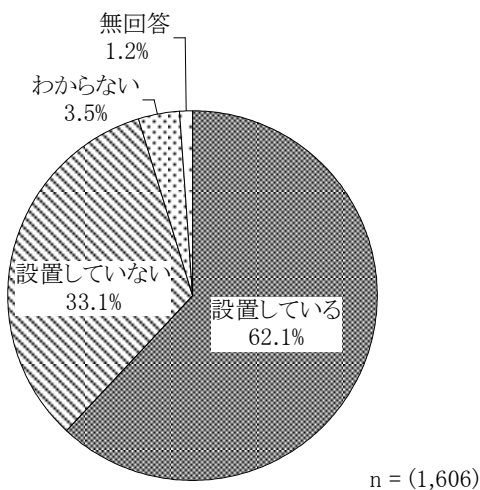
地区別にみると、「川越市の広報紙（広報川越）又は川島町の広報紙（広報かわじま）」は芳野地区、川島町で6割台と特に多くなっている。また、芳野地区では「自治会・町内会の回覧」や「川越地区消防組合の広報紙（虹のマーチ）」でも他の地区より多くなっている。

地区別 上位6項目



(8) 住宅用火災警報器（自宅）設置の有無

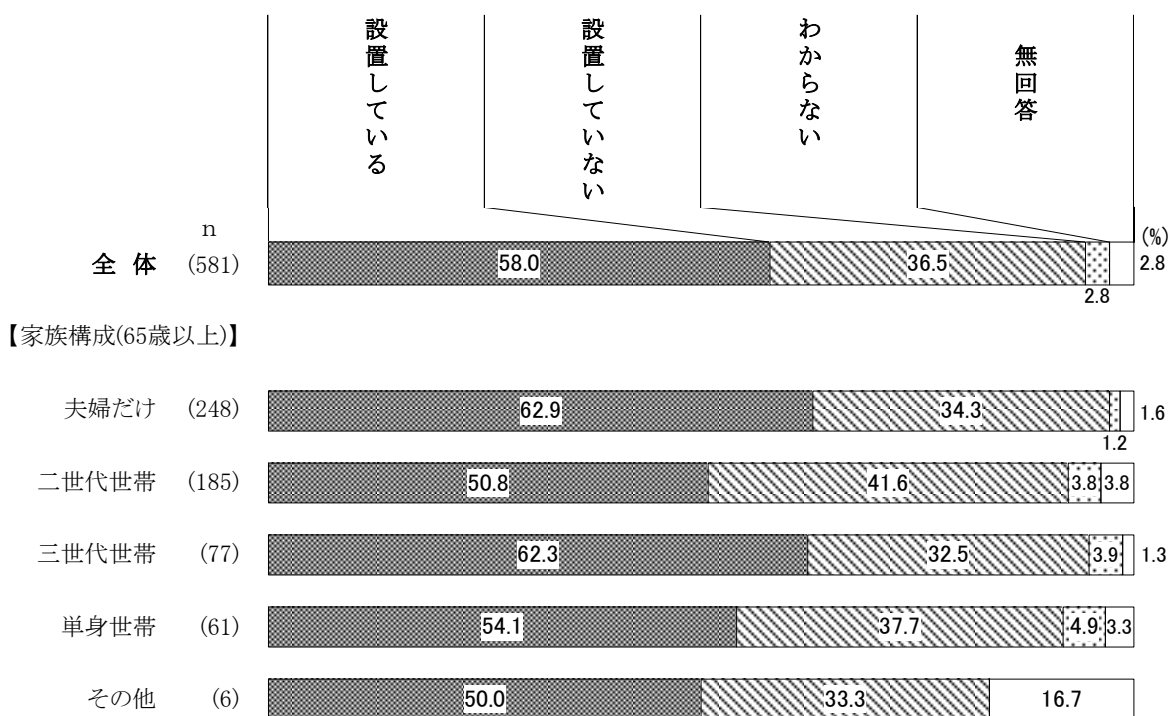
問5 現在、あなたのお住まいに住宅用火災警報器を設置していますか。（集合住宅等で管理会社により設置されている場合等も含めてお答えください。）（○は1つ）



現在居住している自宅に住宅用火災警報器を「設置している」は62.1%、「設置していない」は33.1%となっている。

65歳以上の家族構成別にみると、「設置している」は三世代世帯（62.3%）、夫婦だけ（62.9%）では6割台、単身世帯（54.1%）、二世代世帯（50.8%）では5割台となっている。一方、「設置していない」は二世代世帯で41.6%と多くなっている。

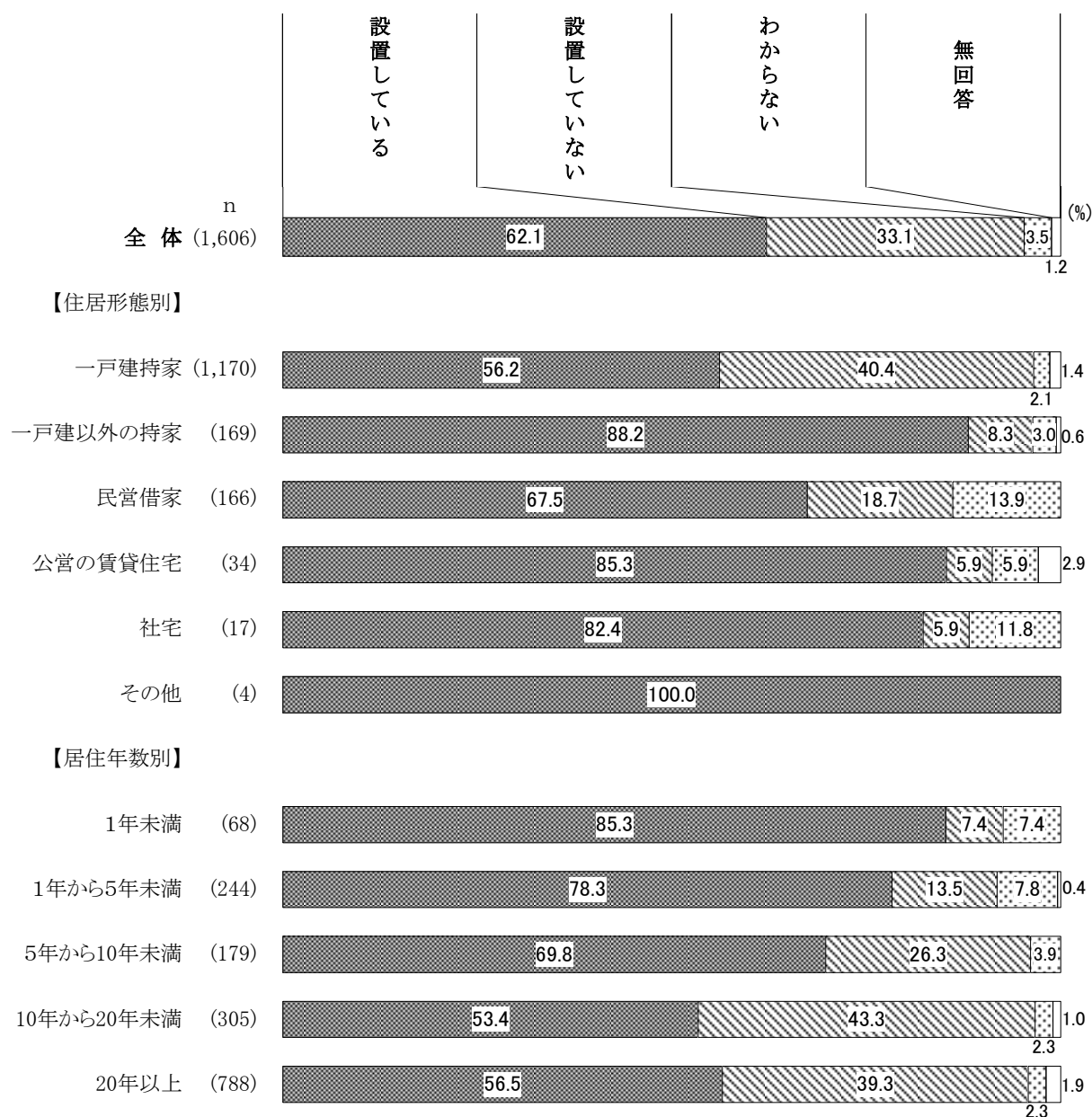
家族構成別（65歳以上）



住居形態別にみると、「設置している」は一戸建以外の持家、公営の賃貸住宅が8割台と多くなっている。一方、「設置していない」は一戸建持家で40.4%と他の住居形態より多くなっている。

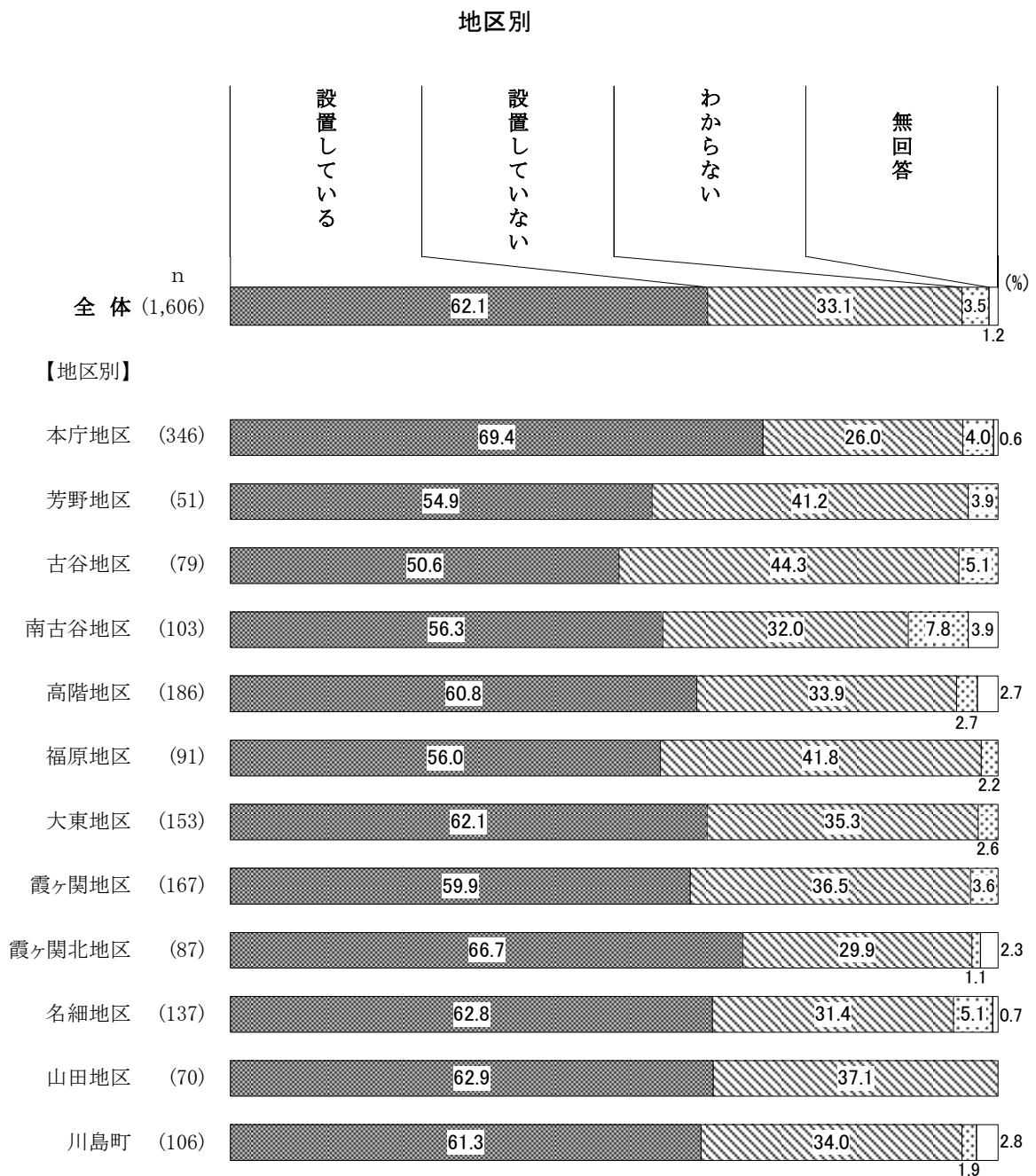
居住年数別にみると、「設置している」は10年未満で割合が多くなっているが、10年以上の居住年数では5割台となり、「設置していない」が4割前後を占めている。

住居形態別／居住年数別



第2章 調査結果の詳細

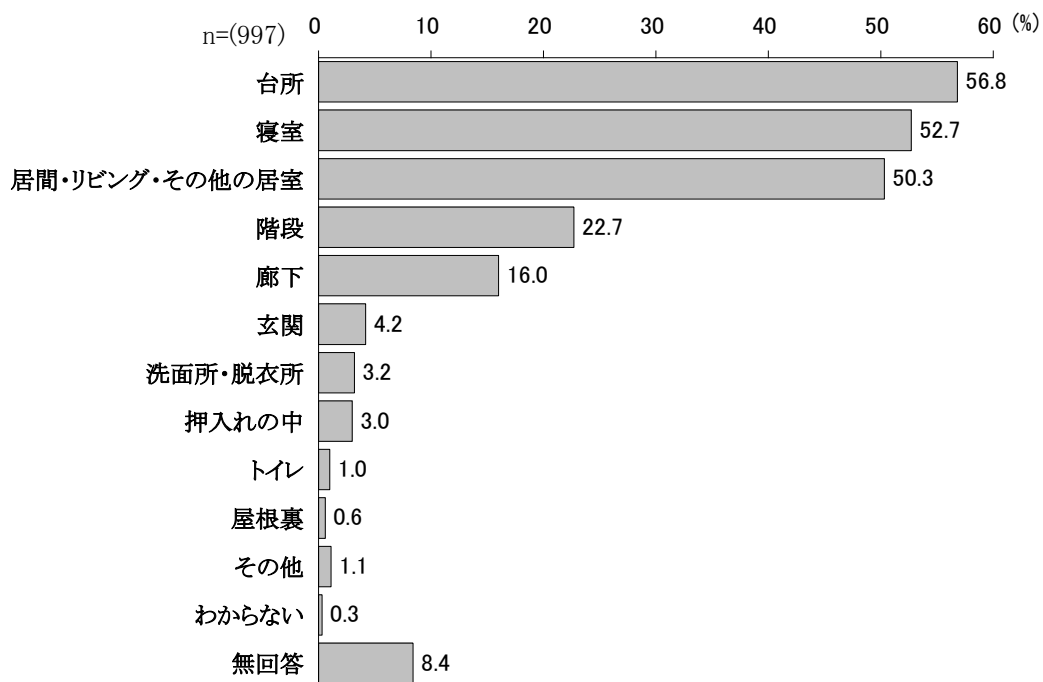
地区別にみると、「設置している」はいずれの地区でも5割から6割台となっている。一方、「設置していない」は古谷地区、福原地区、芳野地区で4割台と比較的多くなっている。



(9) 住宅用火災警報器（自宅）の設置場所

【問5で「設置している」と答えた方におたずねします。】

問5-1 住宅用火災警報器をどこに設置していますか。次の中から設置されている場所をすべて選んでください。（○はあてはまるものすべて）

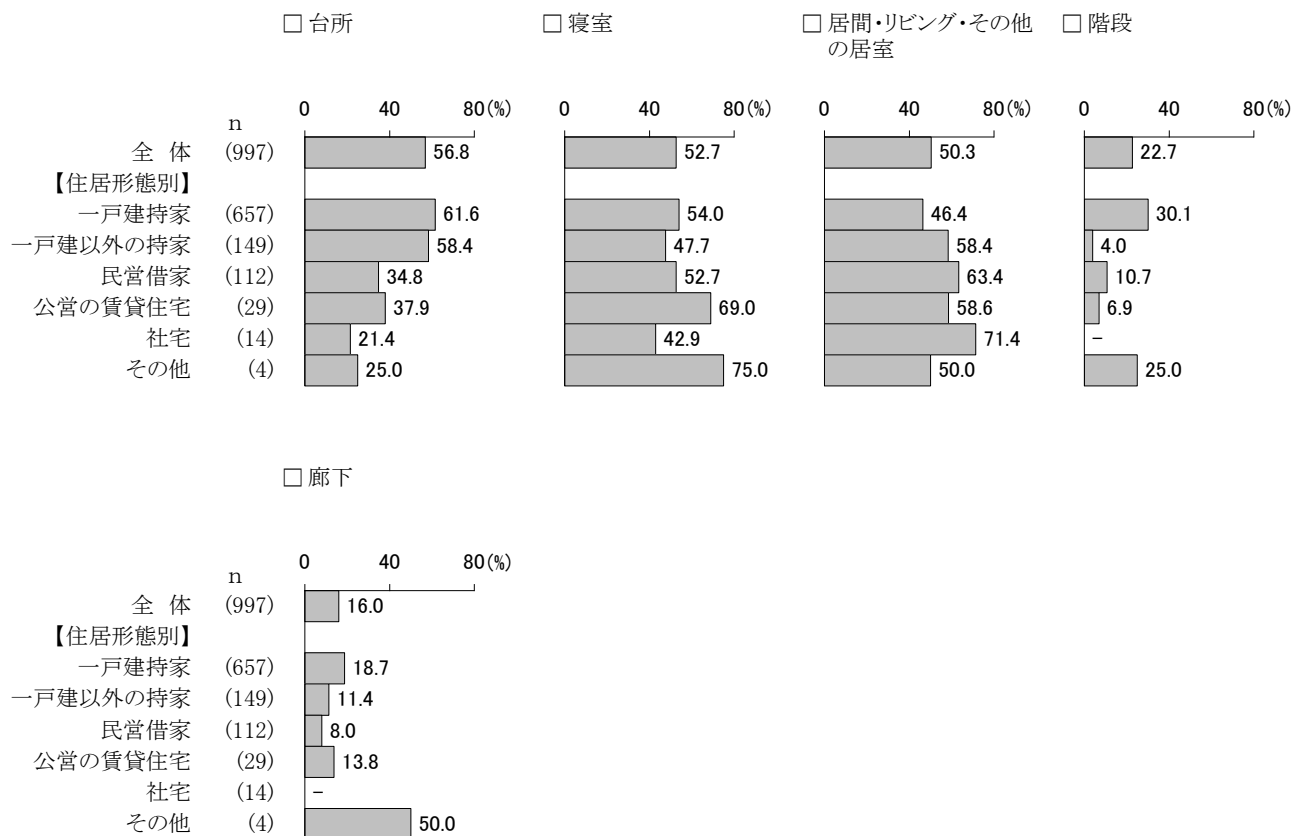


住宅用火災警報器の設置場所は、「台所」(56.8%)、「寝室」(52.7%)、「居間・リビング・その他の居室」(50.3%)が5割台で多く、以下、「階段」(22.7%)、「廊下」(16.0%)などが続いている。

第2章 調査結果の詳細

住居形態別にみると、一戸建持家、一戸建以外の持家では「台所」が6割前後で多く、「寝室」よりも多くなっている。「寝室」は公営賃貸で約7割となっているが、他の形態ではいずれも5割前後にとどまる。民営借家（63.4%）や公営の賃貸住宅（58.6%）、一戸建以外の持家（58.4%）では「居間・リビング・その他の居室」への設置が多くなっている。

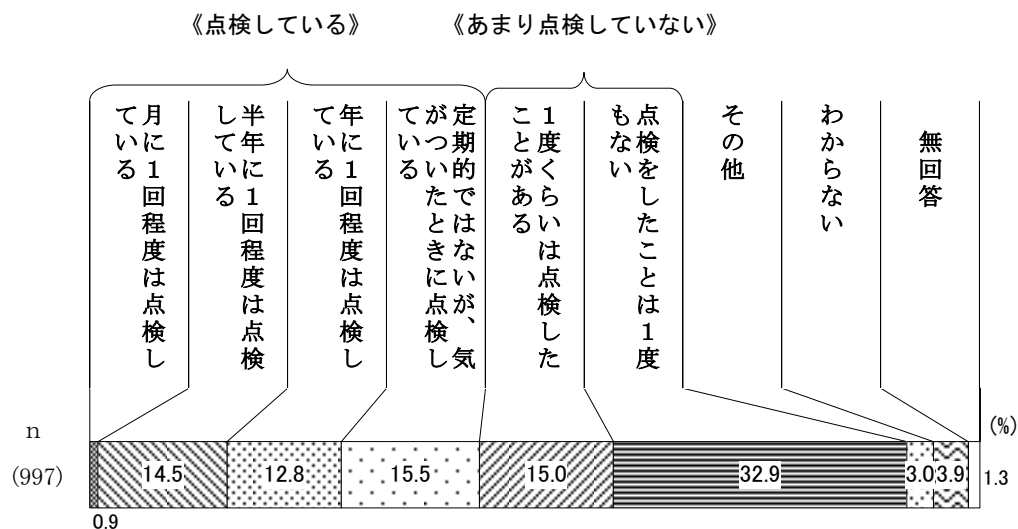
住居形態別（上位5項目）



(10) 住宅用火災警報器（自宅）の定期点検状況

【問5で「設置している」と答えた方におたずねします。】

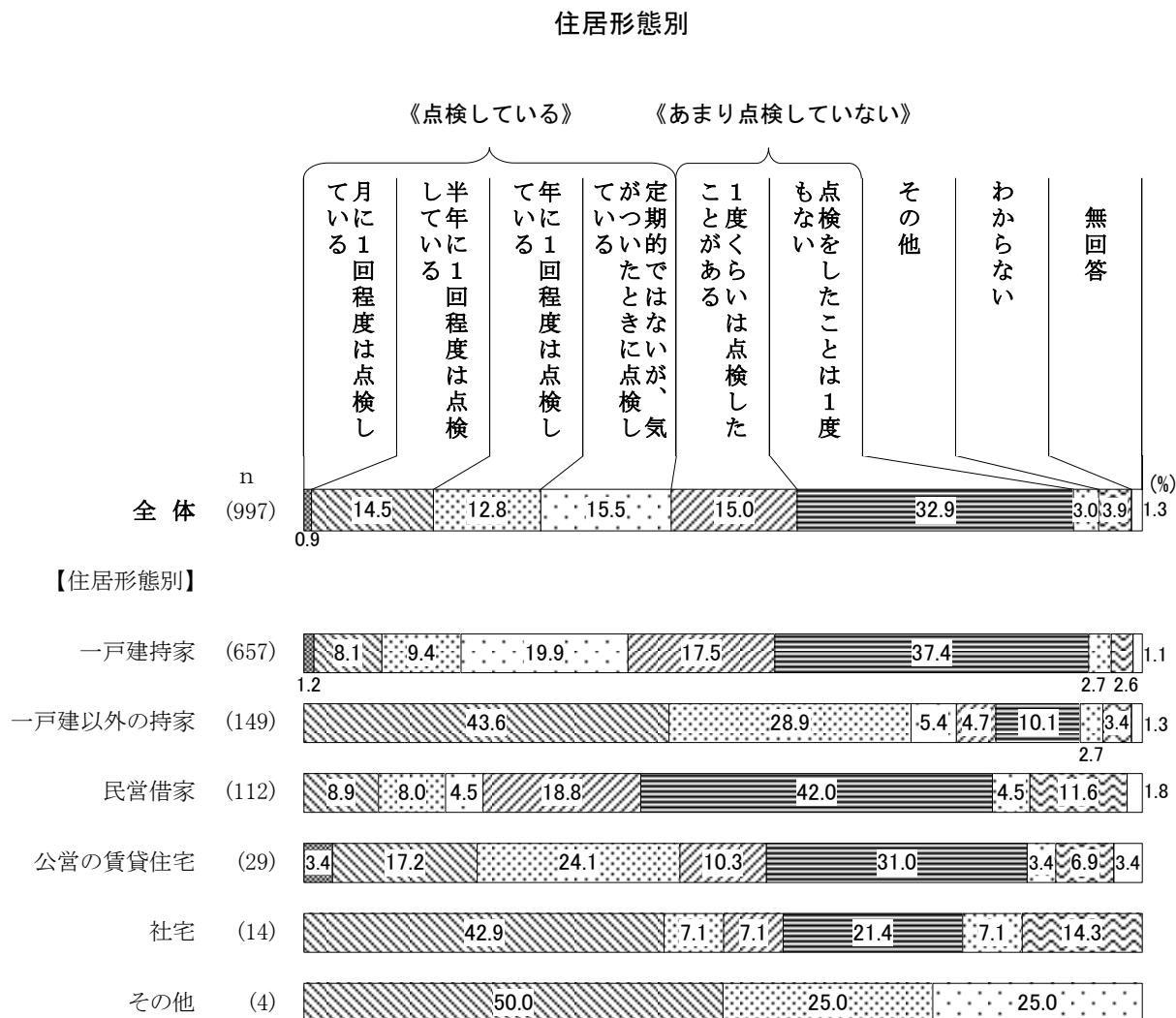
問5-2 住宅用火災警報器は、正常に作動するかどうかを点検ボタンを押したり、点検ひもを引いたりして、定期的に点検する必要がありますが、あなたのお宅に設置している住宅用火災警報器の定期点検の状況について、次の中からあてはまるものを1つ選んでください。（集合住宅等で管理会社により点検が行われている場合等も含めてお答えください。）（○は1つ）



住宅用火災警報器の定期的な点検をしているかどうかでは、月に1回程度から、気がついたときに点検しているまでを含めた《点検している》は43.7%となっている。一方、「点検をしたことは1度もない」が32.9%と最も多く、これに「1度くらいは点検したことがある」（15.0%）を含めた《あまり点検していない》は47.9%となっている。

第2章 調査結果の詳細

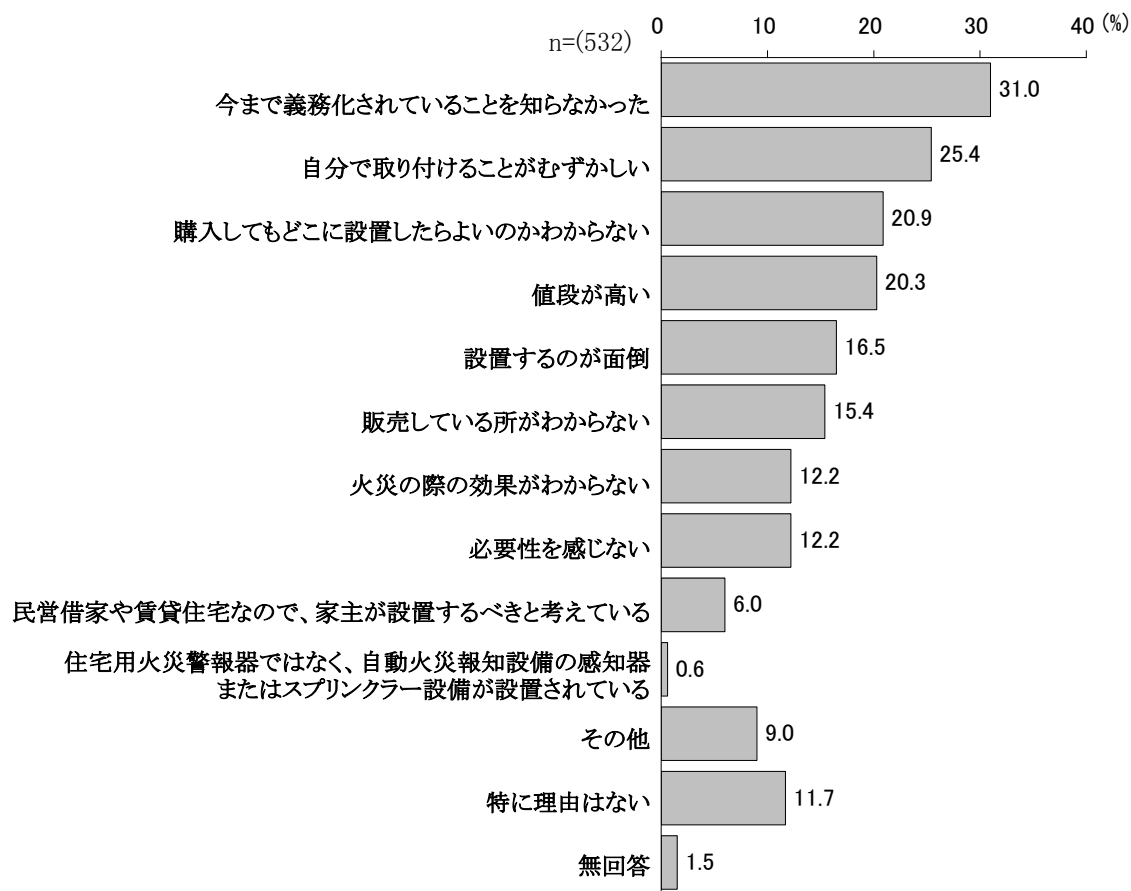
住居形態別にみると、一戸建以外の持家では「半年に1回程度は点検している」が43.6%と多くなっており、《点検している》が77.9%と多くなっている。一方、《あまり点検していない》は、民営借家で60.8%、一戸建持家で54.9%と半数を超えている。



(11) 住宅用火災警報器（自宅）を設置していない理由

【問5で「設置していない」と答えた方におたずねします。】

問5-3 住宅用火災警報器を設置していない理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。（○はあてはまるものすべて）

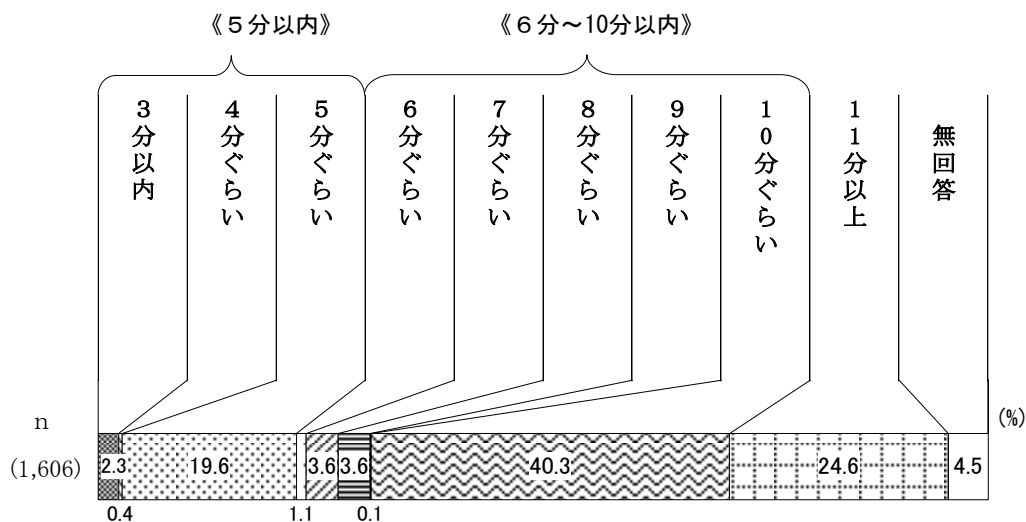


住宅用火災警報器を設置していない理由としては、「今まで義務化されていることを知らなかった」が31.0%で最も多く、以下、「自分で取り付けることがむずかしい」（25.4%）、「購入してもどこに設置したらよいかわからない」（20.9%）、「値段が高い」（20.3%）が2割台で続いている。

3. 救急救命・救急講習について

(1) 救急車の予想到着時間

問6 あなたがもし、119番通報で自宅に救急車を呼んだ場合、近くの消防署から救急車が何分くらいであなたのお宅へ到着すると思いますか。□の中に数字を記入してください。

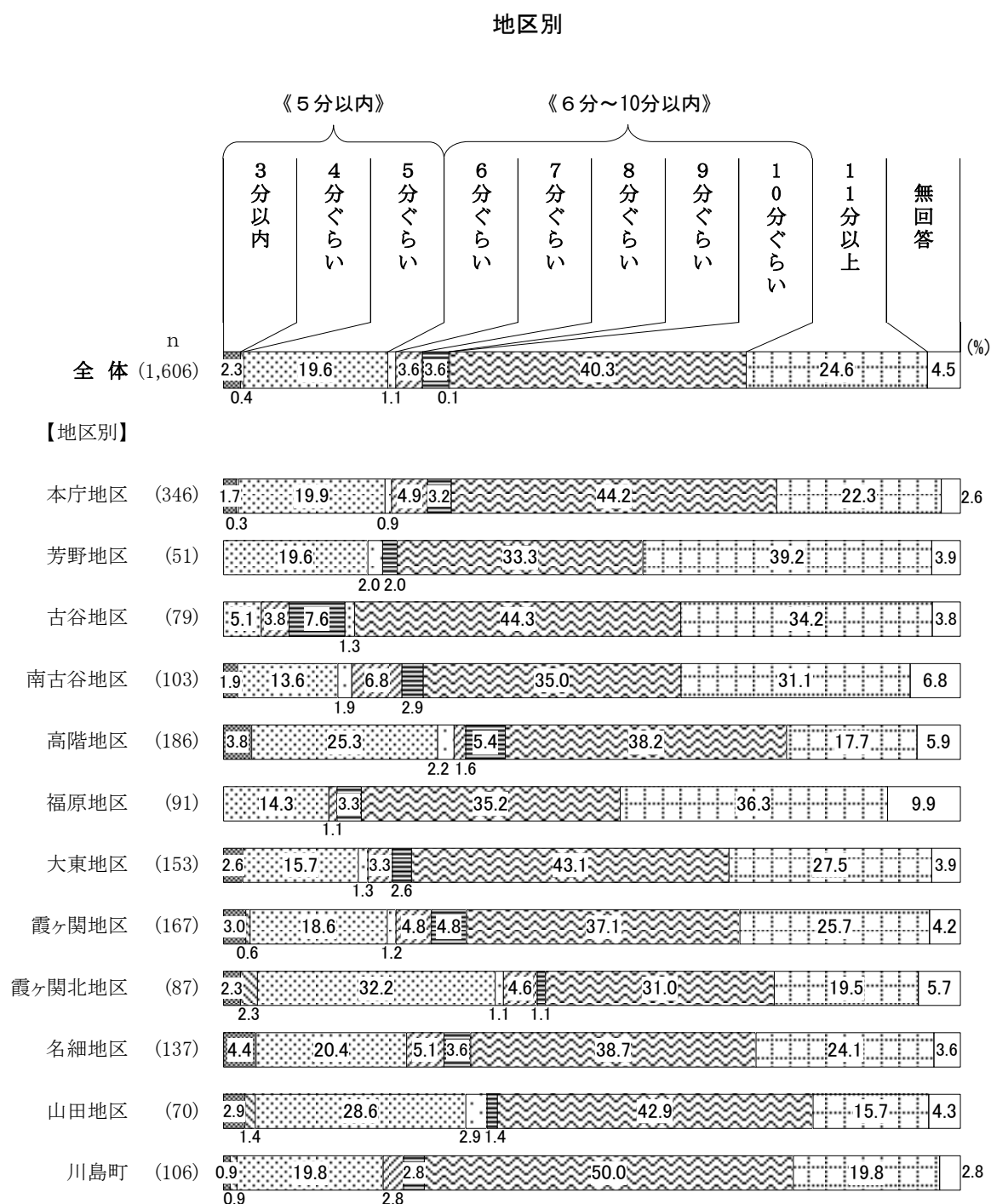


自宅に救急車を呼んだ場合、近くの消防署から救急車がどのくらいで到着すると思うかをまとめたのが上の図である。平均は約10分であった。

詳細にみると、「10分くらい」が40.3%と最も多く、「11分以上」が24.6%、「5分くらい」が19.6%の順となっている。

《5分以内》と整理した場合では22.3%、《6分~10分以内》は48.7%となっており、6分以上と考える人が多くなっている。

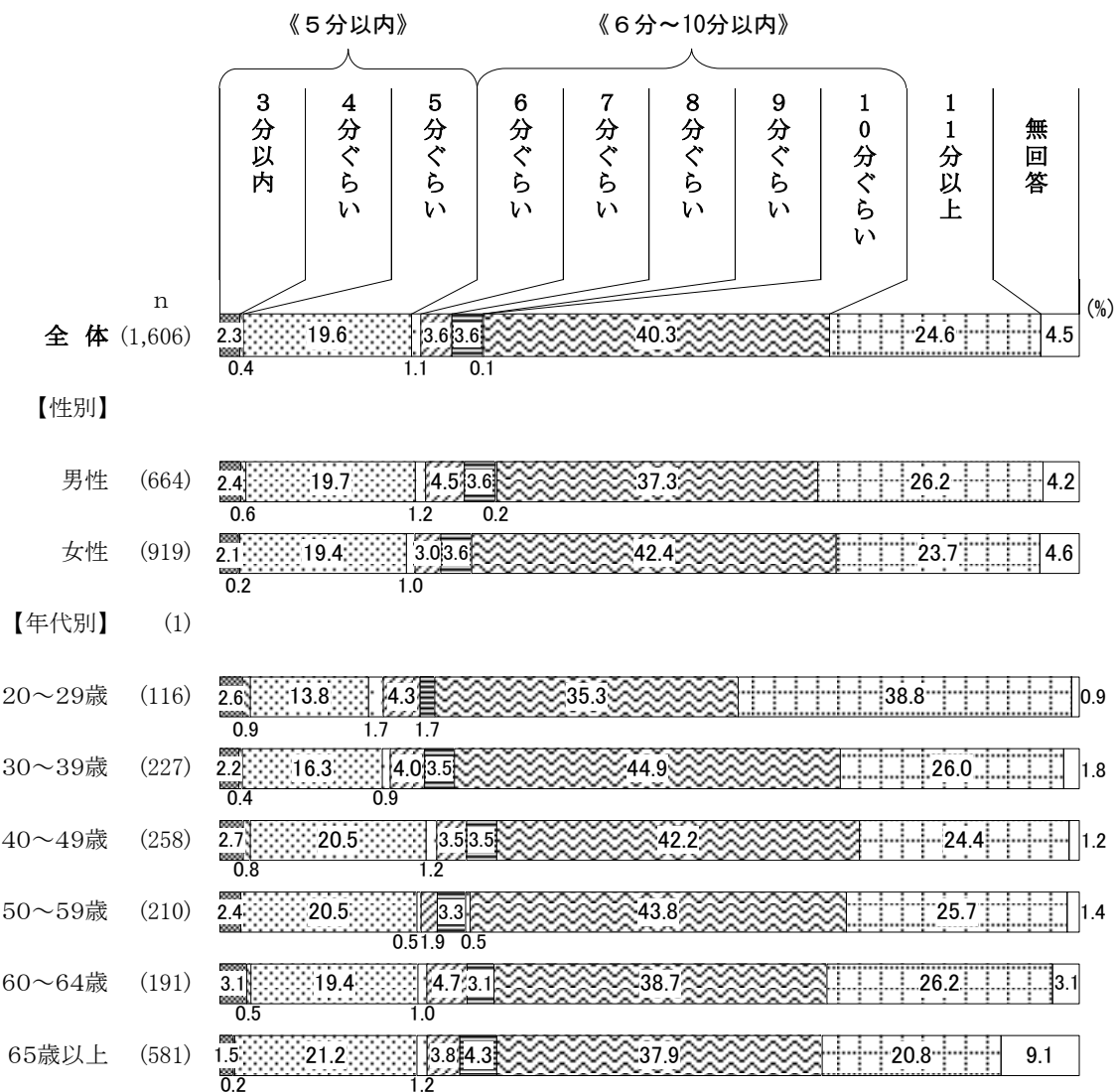
地区別にみると、ほとんどの地区で《6分～10分以内》が多くなっているが、霞ヶ関北地区（36.8%）と山田地区（32.9%）では《5分以内》が3割台と比較的多く、芳野地区では「11分以上」が4割近くと多くなっている。



第2章 調査結果の詳細

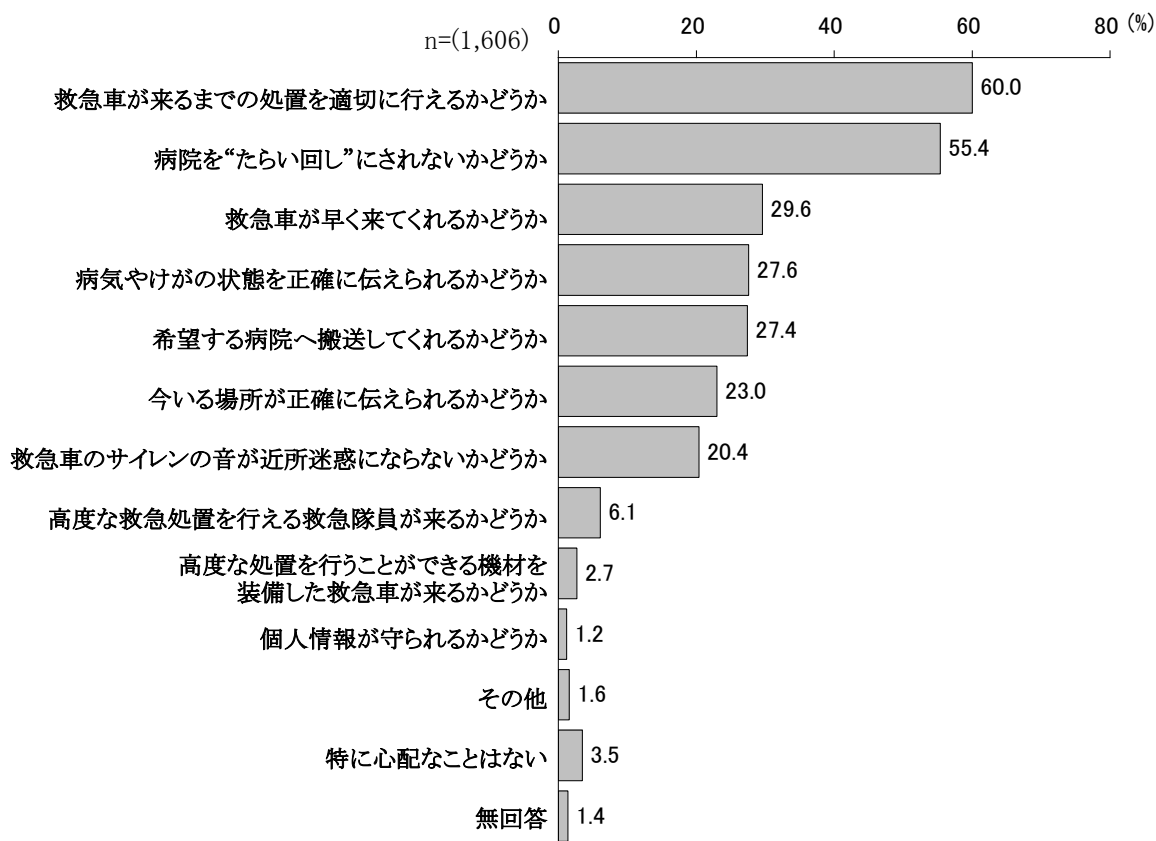
性別、年代別にみても大きな違いはなく、いずれも「10分ぐらい」が最も多くなっている。

性別／年代別



(2) 救急車を呼ぶ際に心配なこと

問7 あなたがもし、119番通報で救急車を呼ぶとした場合、心配なことは何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。(〇は3つまで)



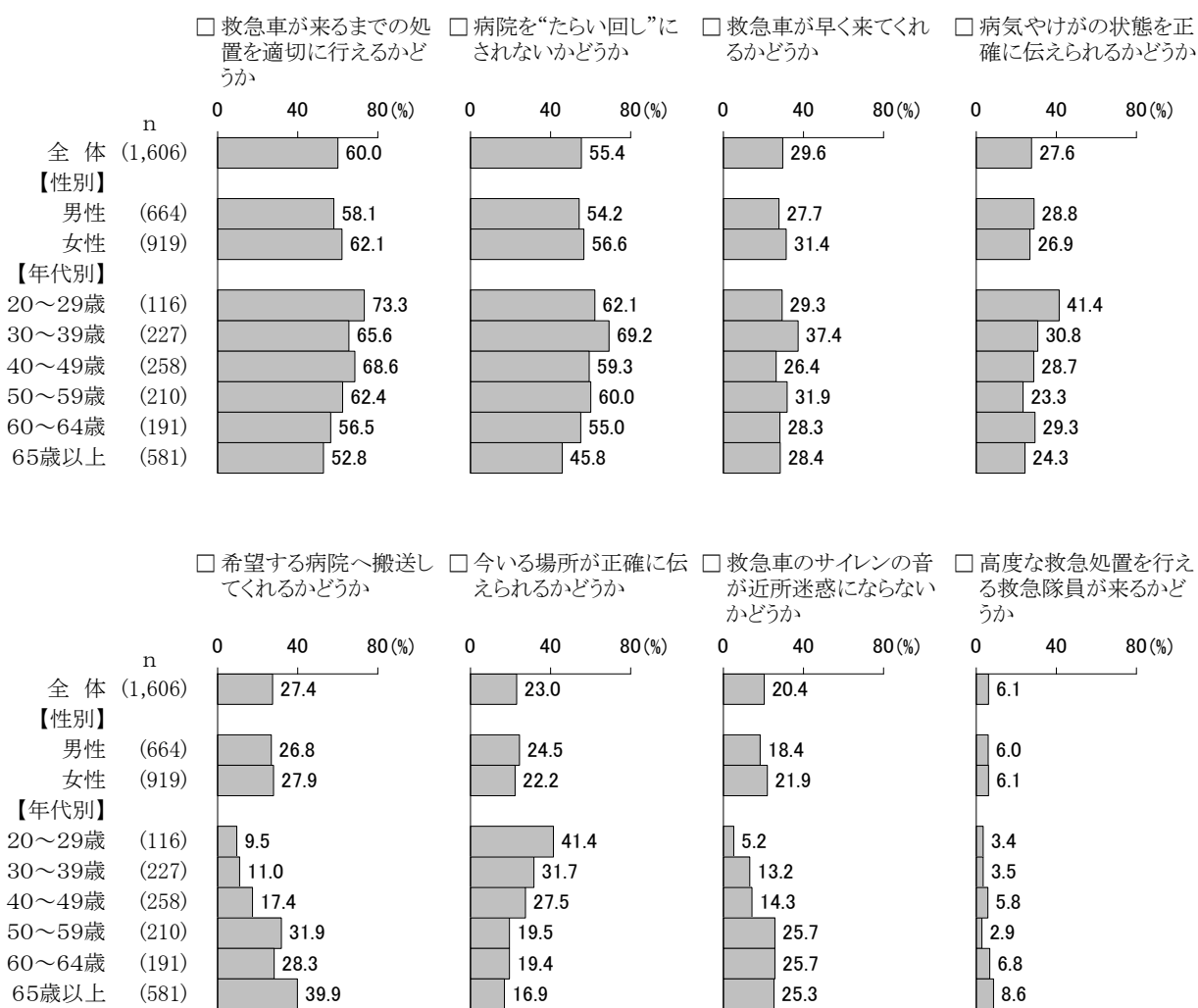
119番通報で救急車を呼ぶ際に心配なことは、「救急車が来るまでの処置を適切に行えるかどうか」が60.0%、「病院を“たらい回し”にされないかどうか」が55.4%でこの2項目が特に多くなっている。以下、「救急車が早く来てくれるかどうか」(29.6%)、「病院やけがの状態を正確に伝えられるかどうか」(27.6%)、「希望する病院へ搬送してくれるかどうか」(27.4%)、「今いる場所が正確に伝えられるかどうか」(23.0%)、「救急車のサイレンの音が近所迷惑にならないかどうか」(20.4%)が2割台で続いている。

第2章 調査結果の詳細

性別にみても大きな違いはみられない。

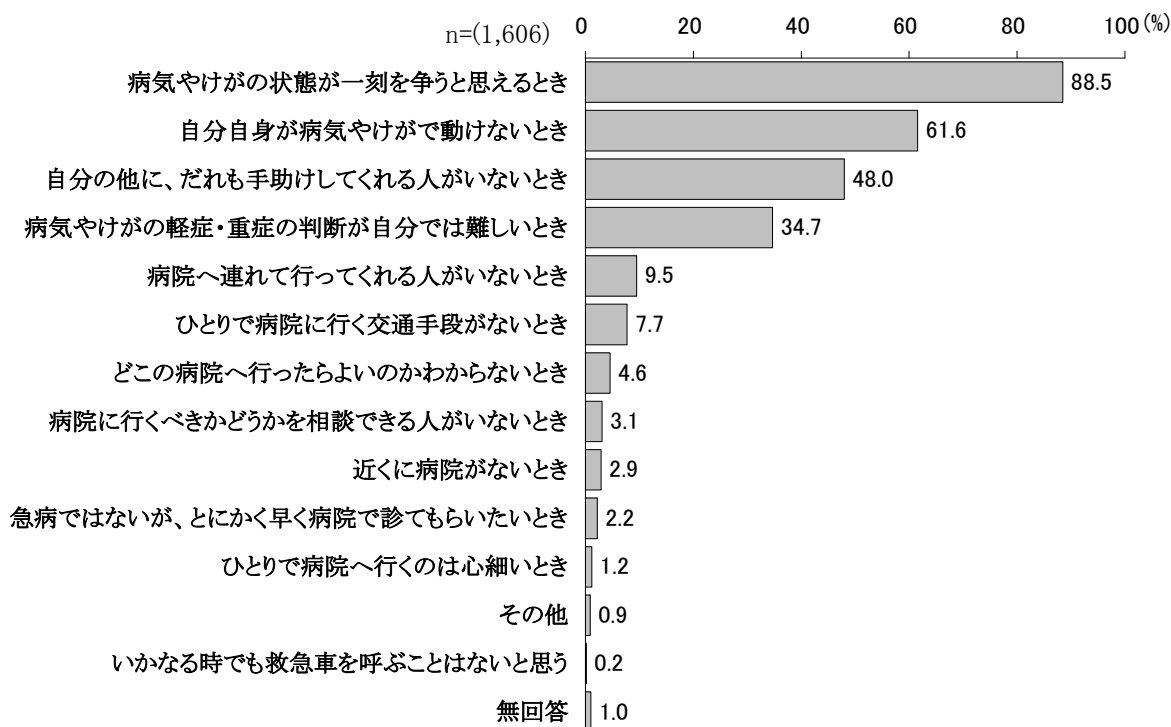
年代別にみても上位2項目への不安は変わらない。この他では、20～29歳、30～39歳では「救急車が早く来てくれるかどうか」、「病気やけがの状態を正確に伝えられるかどうか」、あるいは「今いる場所が正確に伝えられるかどうか」など、到着までの不安がより多くなっている。一方、50歳代以上では「希望する病院へ搬送してくれるかどうか」及び「救急車のサイレンの音が近所迷惑にならないかどうか」への不安がより多くみられる。

性別／年代別（上位8項目）



(3) 救急車を要請するケース

問8 急病やけがなど、いざという時には救急車を要請する必要があります。あなたが、救急車を呼ぶ「いざ」という時とは、どのような場合ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(〇はあてはまるものすべて)



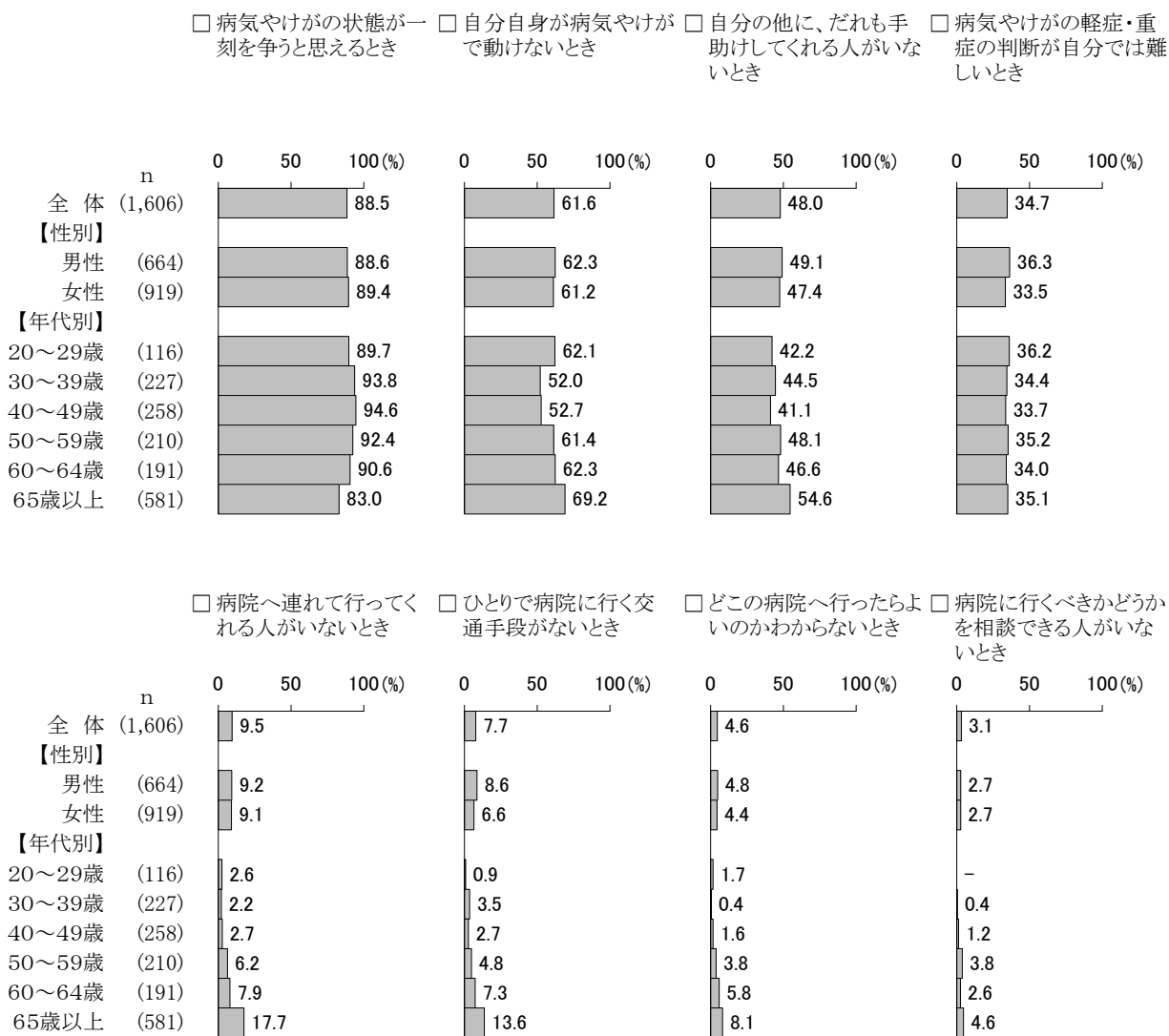
救急車を呼ぶような「いざ」という時としては、「病気やけがの状態が一刻を争うと思えるとき」が88.5%で特に多く、以下、「自分自身が病気やけがで動けないとき」(61.6%)、「自分の他に、だれも手助けしてくれる人がいないとき」(48.0%)、「病気やけがの軽症・重症の判断が自分では難しいとき」(34.7%)などが続いている。また、「病院へ連れて行ってくれる人がいないとき」、「ひとりで病院に行く交通手段がないとき」、「どこの病院へ行ったらよいかかわからないとき」など必ずしも緊急とは言えない場合も一定数あげられている。

第2章 調査結果の詳細

性別による大きな違いはみられない。

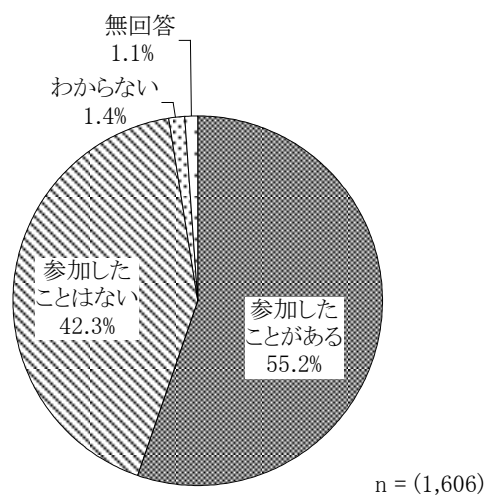
年代別にみても、上位4項目に大きな違いはみられない。この他では、65歳以上では「病院へ連れて行ってくれる人がいないとき」が17.7%、「ひとりで病院に行く交通手段がないとき」が13.6%と他の年代に比べて多くなっている。

性別／年代別（上位8項目）



(4) 救急・救命講習会または応急手当講習会への参加経験

問9 あなたはこれまでに、救急・救命講習会または応急手当講習会に参加したことがありますか。(地域で開催しているものや、お勤めの会社、学校などで行われたものも含みます。)(○は1つ)

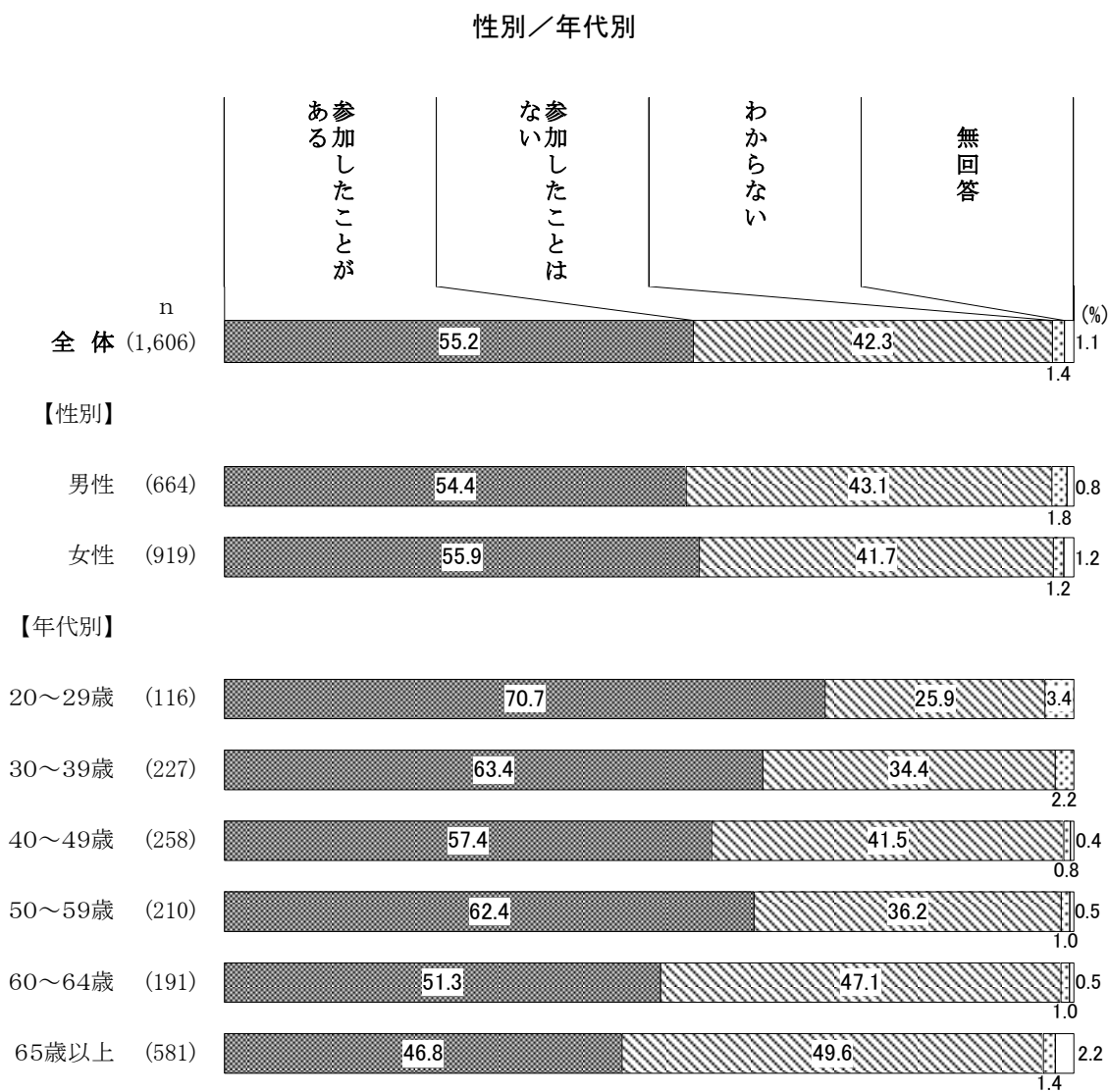


救急・救命講習会または応急手当講習会に「参加したことがある」は55.2%、「参加したことはない」は42.3%となっている。

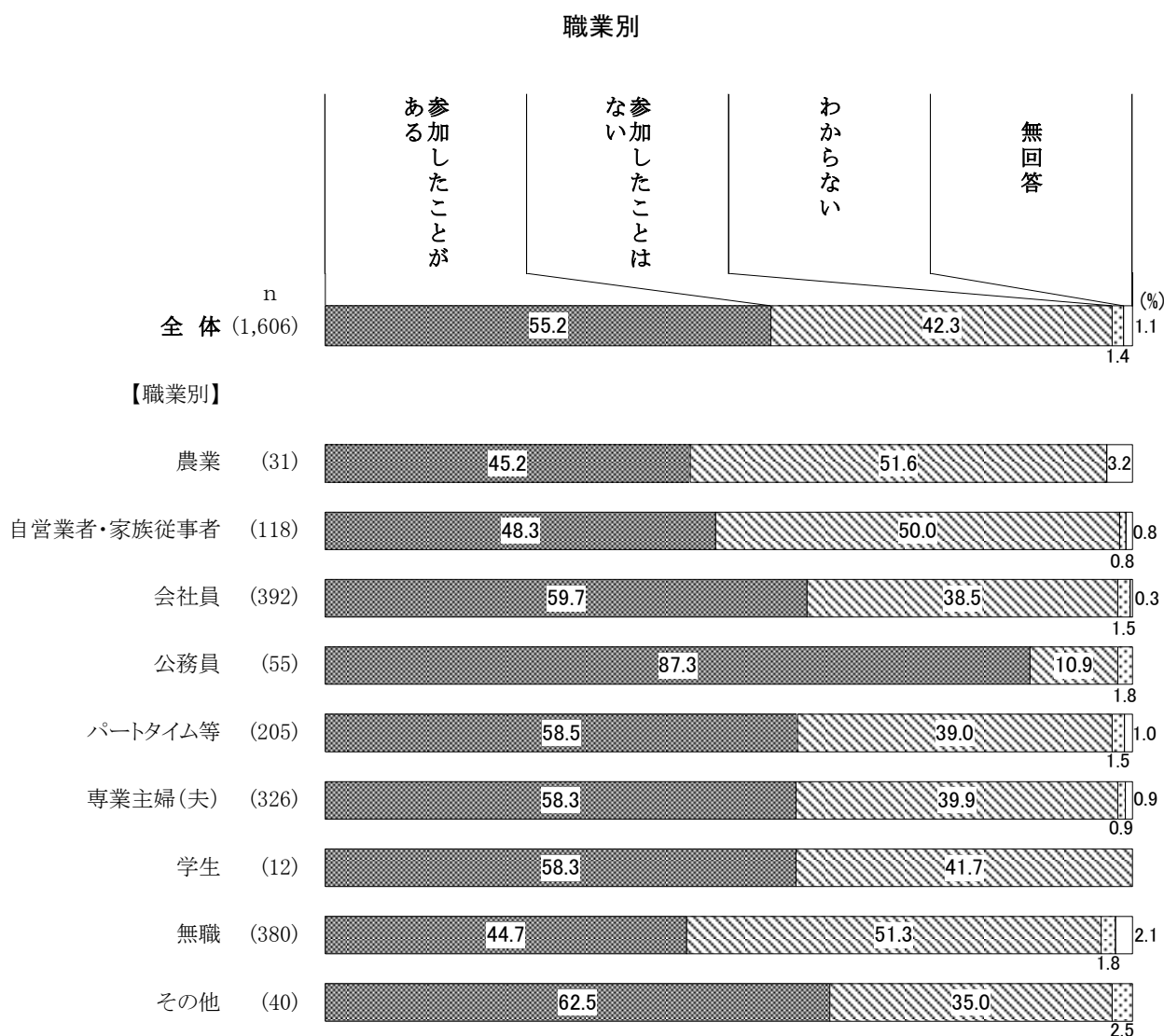
第2章 調査結果の詳細

性別による大きな違いはみられない。

年代別にみると、「参加したことがある」は20～29歳で70.7%と多く、30～39歳、50～59歳でも6割台と多くなっている。65歳以上では唯一「参加したことはない」(49.6%)が「参加したことがある」(46.8%)より多くなっている。

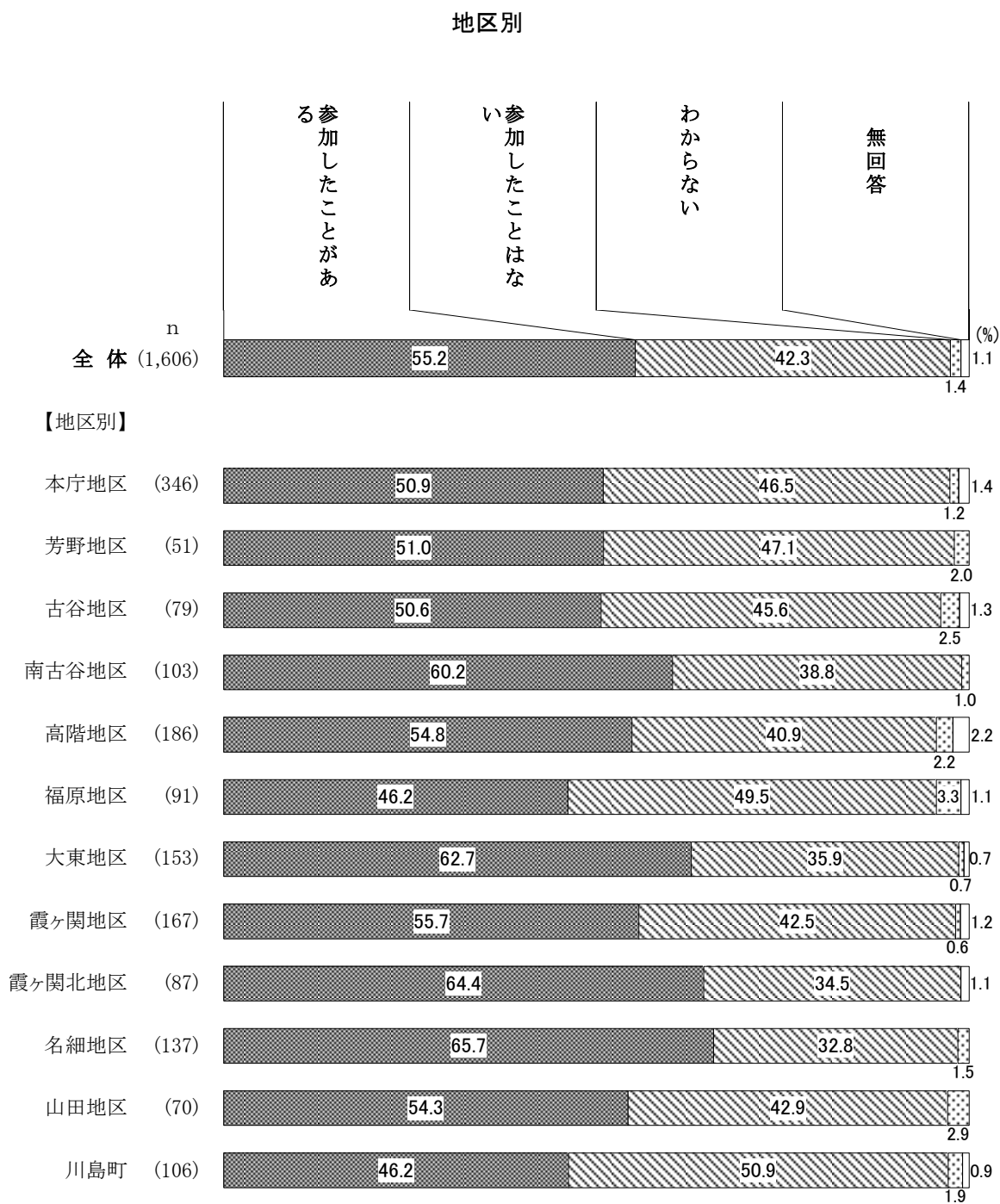


職業別にみると、「参加したことがある」は公務員が87.3%と特に多く、会社員、パートタイム等、専業主婦（夫）でも6割近くとなっている。一方、「参加したことはない」は、農業、自営業者・家族従事者、無職で5割台と多くなっている。



第2章 調査結果の詳細

地区別にみると、「参加したことがある」は名細地区、霞ヶ関北地区、大東地区、南古谷地区で6割台と多くなっている。一方、「参加したことはない」は川島町、福原地区で5割前後と多くなっている。

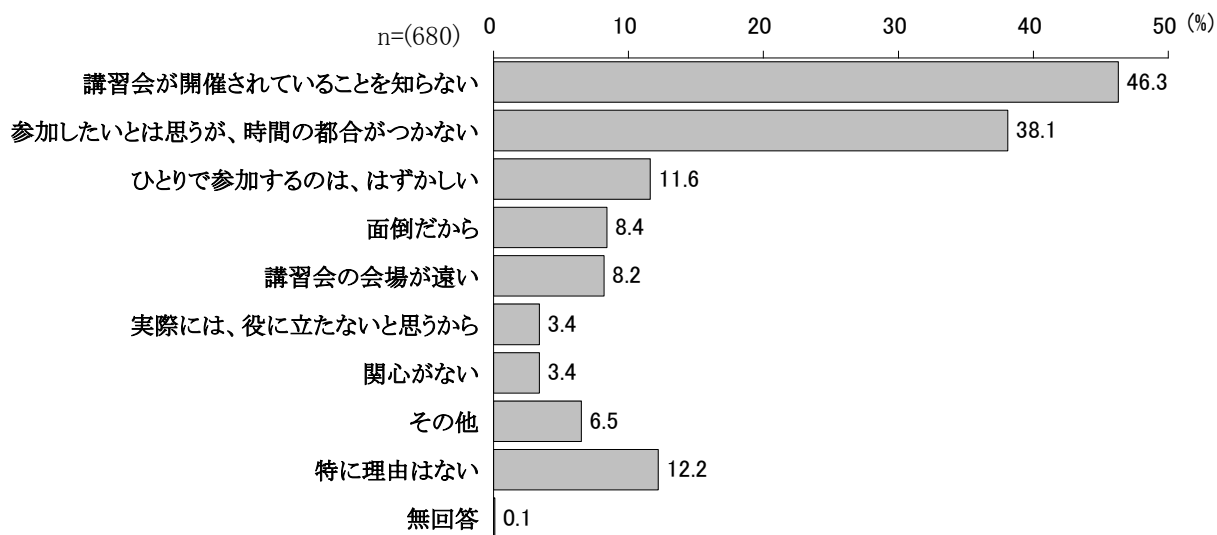


(5) 救急・救命講習会または応急手当講習会に参加したことがない理由

【問9で「参加したことはない」と答えた方におたずねします。】

問9-1 参加したことがない理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。

(○は3つまで)



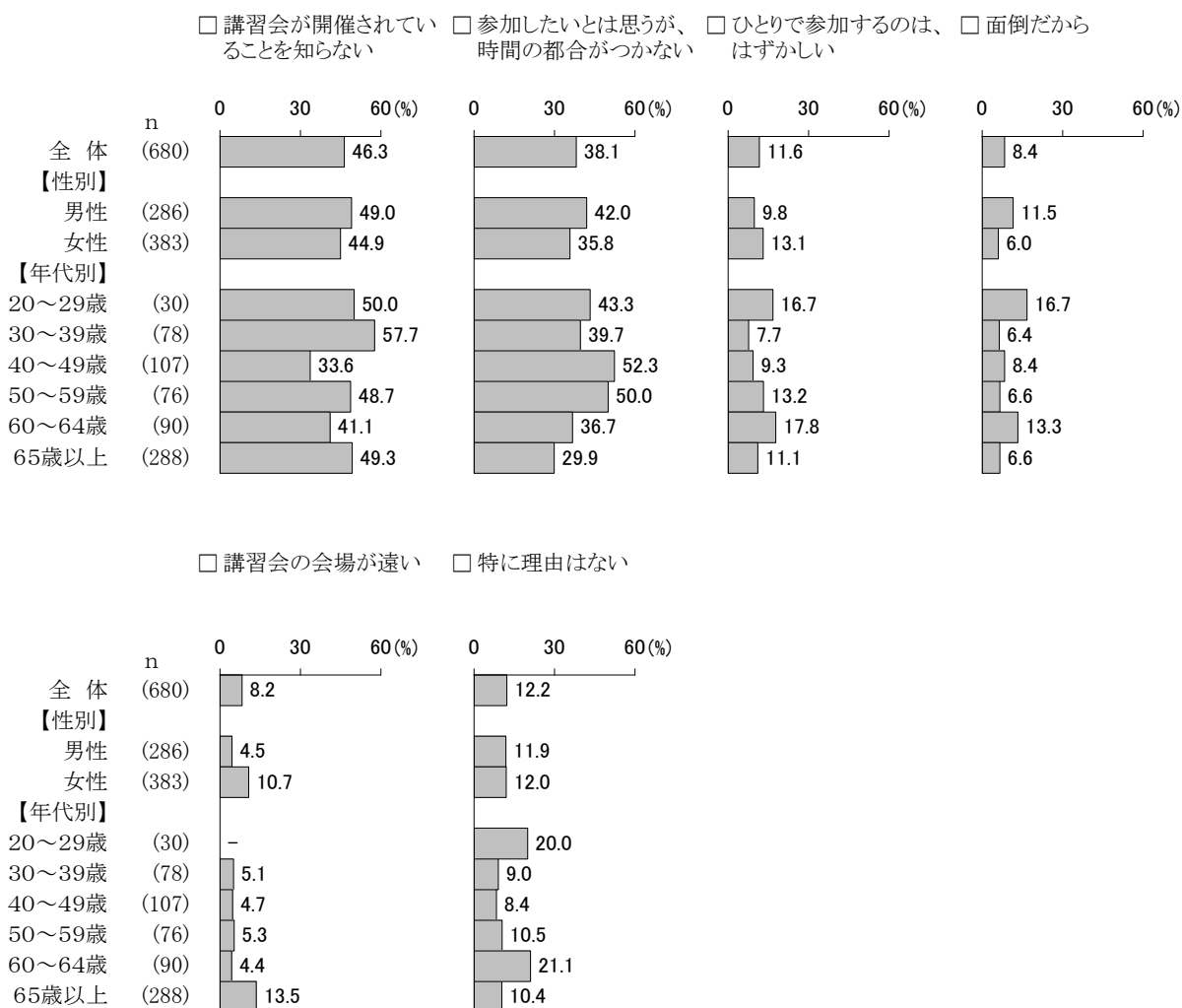
救急・救命講習または応急手当講習会に参加したことがない理由としては、「講習会が開催されていることを知らない」が46.3%、「参加したいと思うが、時間の都合がつかない」が38.1%とこの2項目が特に多くなっている。以下、「ひとりで参加するのは、はずかしい」(11.6%)などが続いている。

第2章 調査結果の詳細

性別にみると、「講習会が開催されていることを知らない」（男性：49.0%、女性：44.9%）と「参加したいと思うが、時間の都合がつかない」（男性：42.0%、女性：35.8%）は男性でより多く、「ひとりで参加するのは、はずかしい」（男性：9.8%、女性：13.1%）、「講習会の会場が遠い」（男性：4.5%、女性：10.7%）は女性でより多くなっている。

年代別にみると、「参加したいと思うが、時間の都合がつかない」は40～49歳、50～59歳でそれぞれ5割台と多くなっている。また、「特に理由はない」は20～29歳、60～64歳で2割台と他の年代より多くなっている。

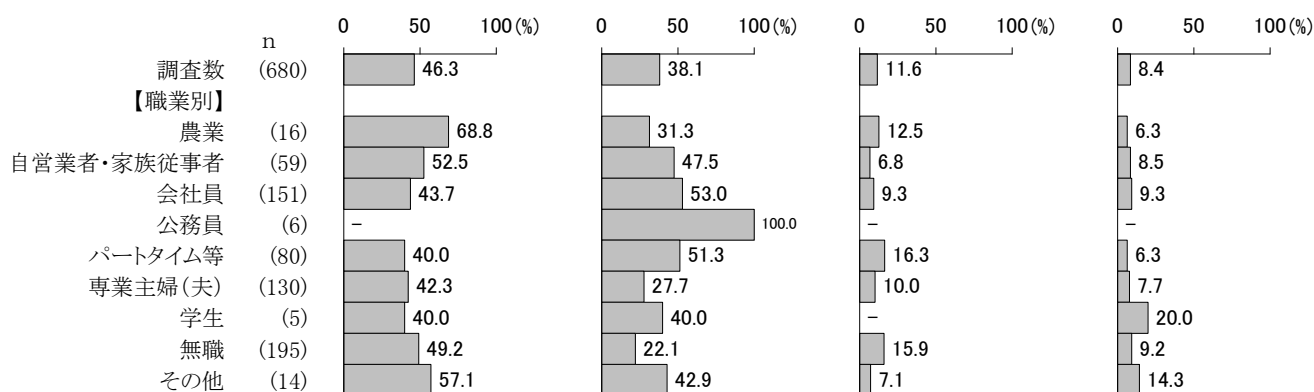
性別／年代別 （上位5項目＋特に理由はない）



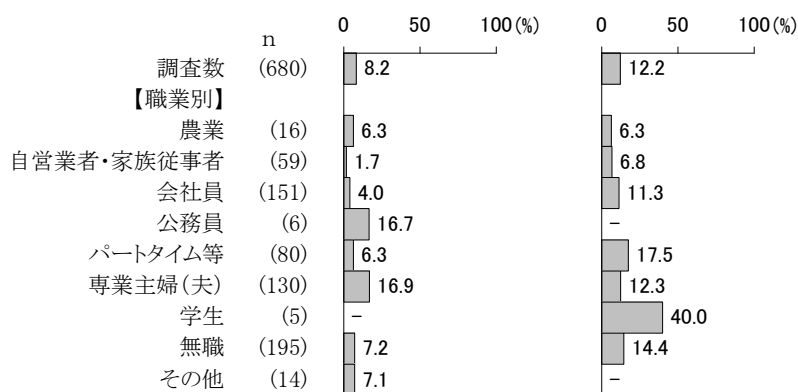
職業別にみると、「講習会が開催されていることを知らない」は自営業者・家族従事者で、「参加したいと思うが、時間の都合がつかない」は会社員、パートタイム等で5割台と多くなっている。「講習会の会場が遠い」は専業主婦で16.9%と他の職業より多くなっている。

職業別 (上位5項目+特に理由はない)

□ 講習会が開催されていることを知らない □ 参加したいと思うが、時間の都合がつかない □ ひとりで参加するのは、はずかしい □ 面倒だから

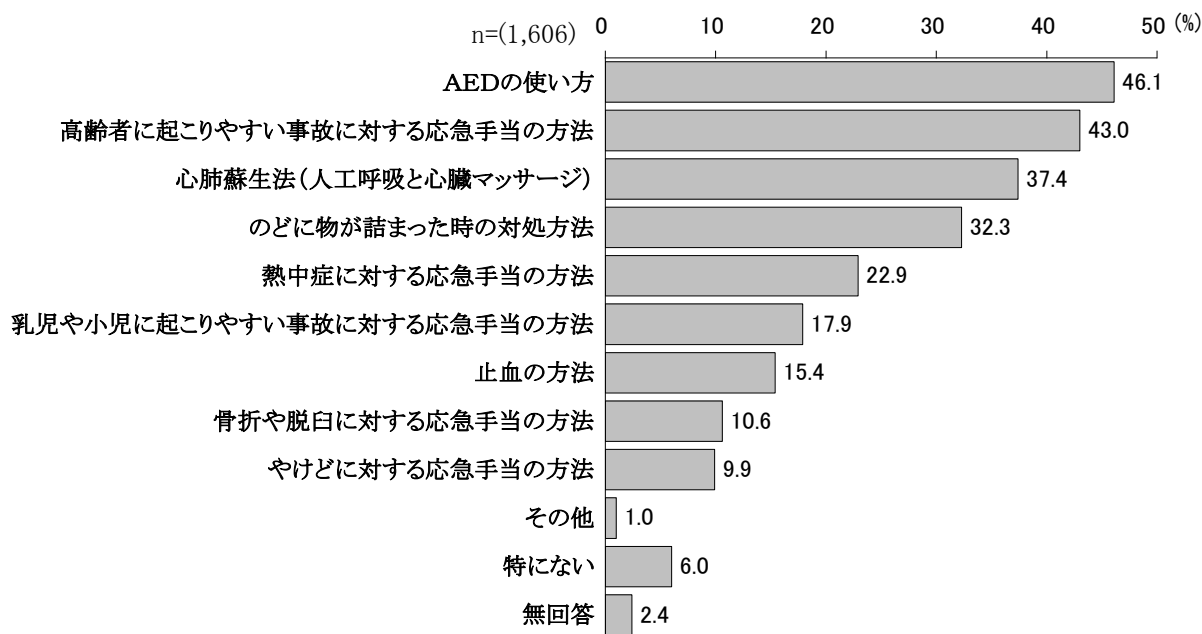


□ 講習会の会場が遠い □ 特に理由はない



(6) 学んでみたい救急救命・応急手当の方法

問10 あなたは、今後、どのような救急救命・応急手当の方法を学んでみたいと思いますか。
次の中から3つ以内で選んでください。(〇は3つまで)

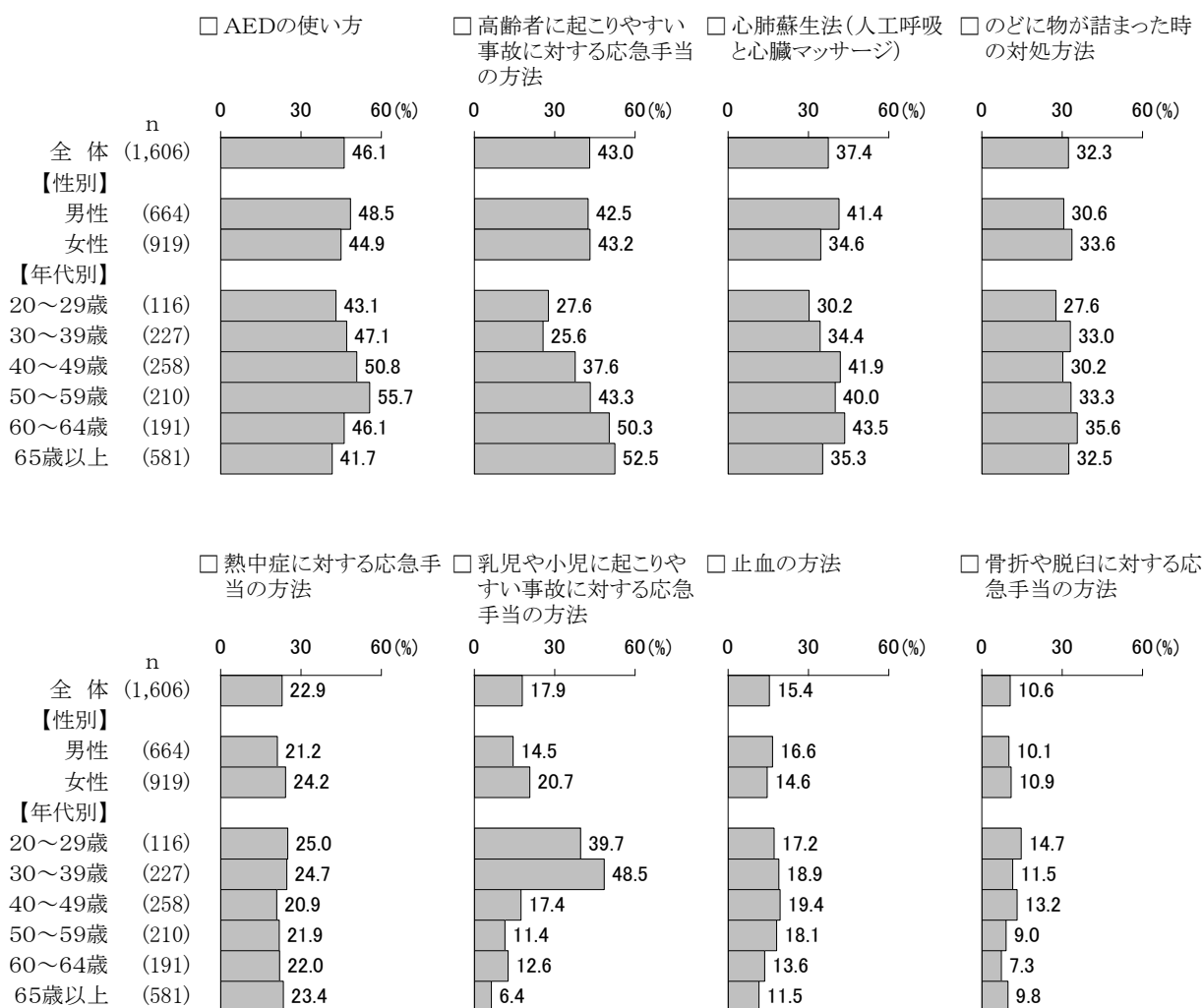


今後、どのような救命救急・応急手当の方法を学んでみたいかでは、「AEDの使い方」(46.1%)、「高齢者に起こりやすい事故に対する応急手当の方法」(43.0%)が4割台、「心肺蘇生法(人工呼吸と心臓マッサージ)」(37.4%)、「のどに物が詰まった時の対処方法」(32.3%)が3割台となっている。この他、「熱中症に対する応急手当の方法」が22.9%、「乳児や小児に起こりやすい事故に対する応急手当の方法」が17.9%となっている。

性別にみても大きな違いはみられないが、「AEDの使い方」(男性：48.5%、女性：44.9%)、「心肺蘇生法(人工呼吸と心臓マッサージ)」(男性：41.4%、女性：34.6%)は男性で、「乳児や小児に起こりやすい事故に対する応急手当の方法」(男性：14.5%、女性：20.7%)は女性でより多くあげられている。

年代別にみると、「AEDの使い方」は40～49歳、50～59歳で5割台と特に多くなっている。「高齢者に起こりやすい事故に対する応急手当の方法」は40歳代以上で比較的多く、「乳児や小児に起こりやすい事故に対する応急手当の方法」は20～29歳、30～39歳で比較的多くなっている。

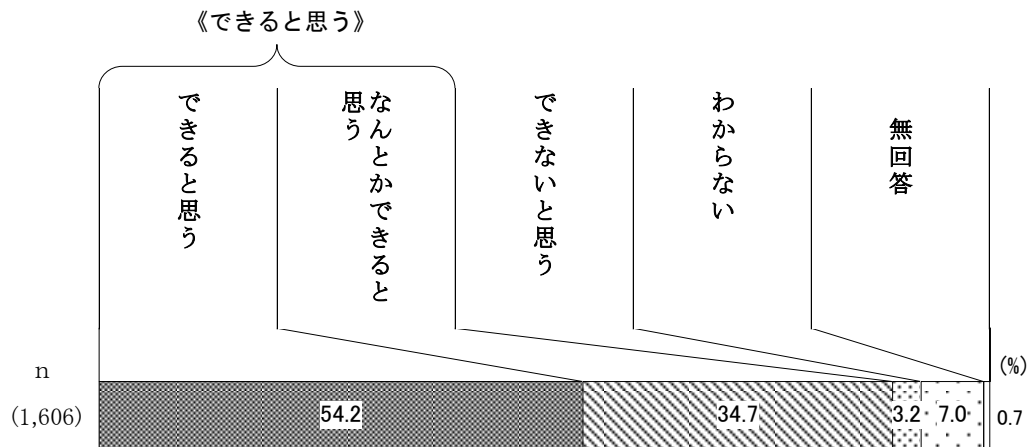
性別／年代別 上位8項目



4. 災害への備えについて

(1) いざというときの119番通報の可否

問11 あなたは、いざというときに119番通報ができると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(〇は1つ)

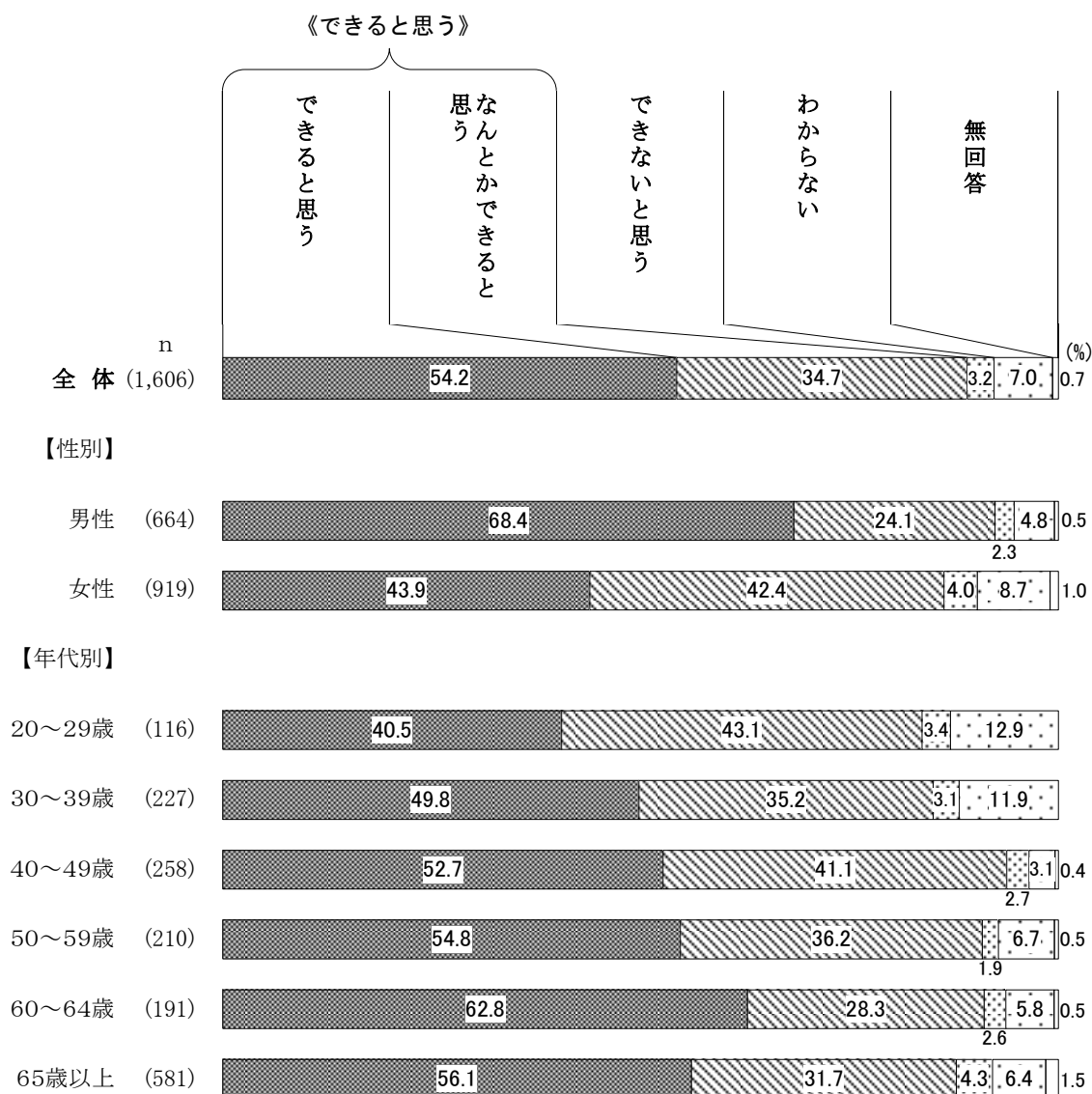


いざというときに119番通報を「できると思う」は54.2%と半数を超え、これに「なんとかできると思う」(34.7%)を合わせた《できると思う》は88.9%を占めている。

性別にみると、《できると思う》は男性で92.5%、女性で86.3%となっている。

年代別にみると、《できると思う》はいずれも8割を超え、特に40～49歳、50～59歳、60～64歳で9割台となっている。

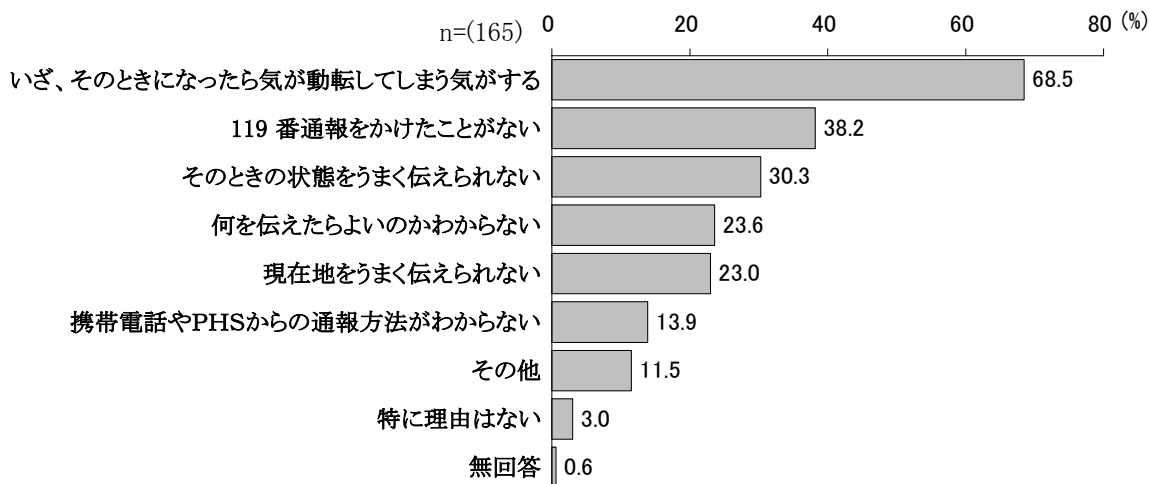
性別／年代別



(2) 119番通報ができない理由

【問11で「できないと思う」または「わからない」と答えた方におたずねします。】

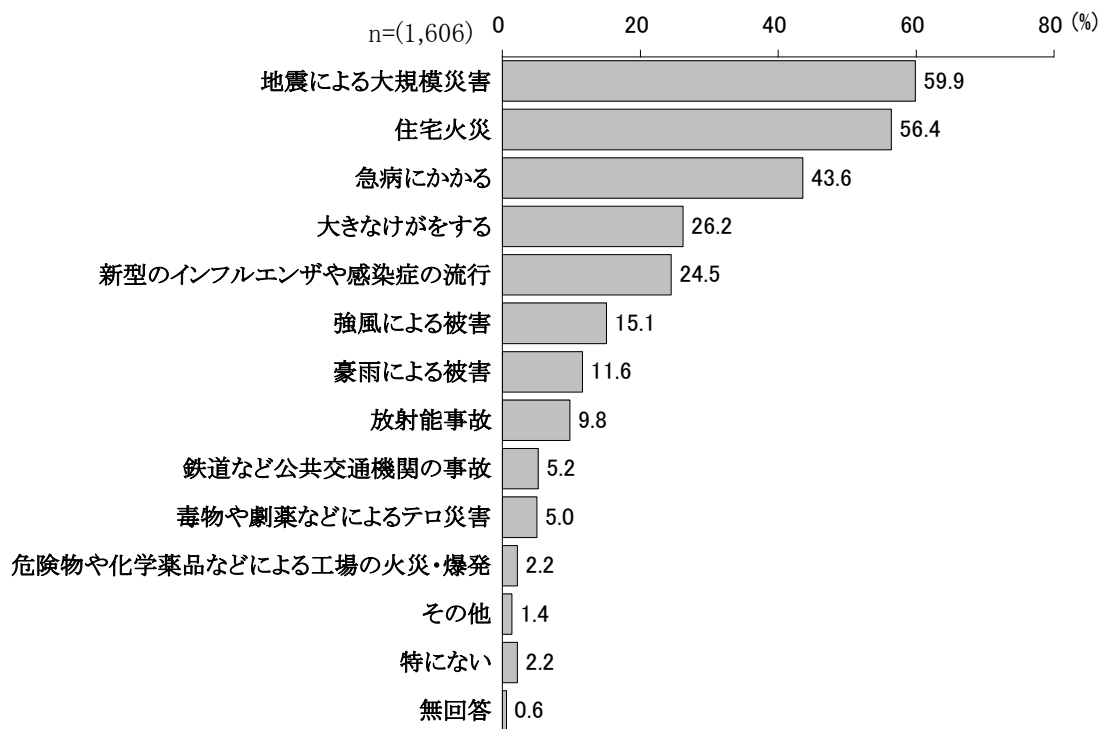
問11-1 「できない」または「わからない」と思う理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(○はあてはまるものすべて)



119番通報ができない、または通報できるかどうかわからない人の理由としては、「いざ、そのときになったら気が動転してしまう気がする」が68.5%と特に多く、以下、「119番通報をかけたことがない」(38.2%)、「そのときの状態をうまく伝えられない」(30.3%)が3割台、「何を伝えたらよいのかわからない」(23.6%)、「現在地をうまく伝えられない」(23.0%)が2割台で続いている。

(3) 不安に思う事故や災害

問12 あなたが普段の生活において、不安に思うことのある事故や災害は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。(〇は3つまで)

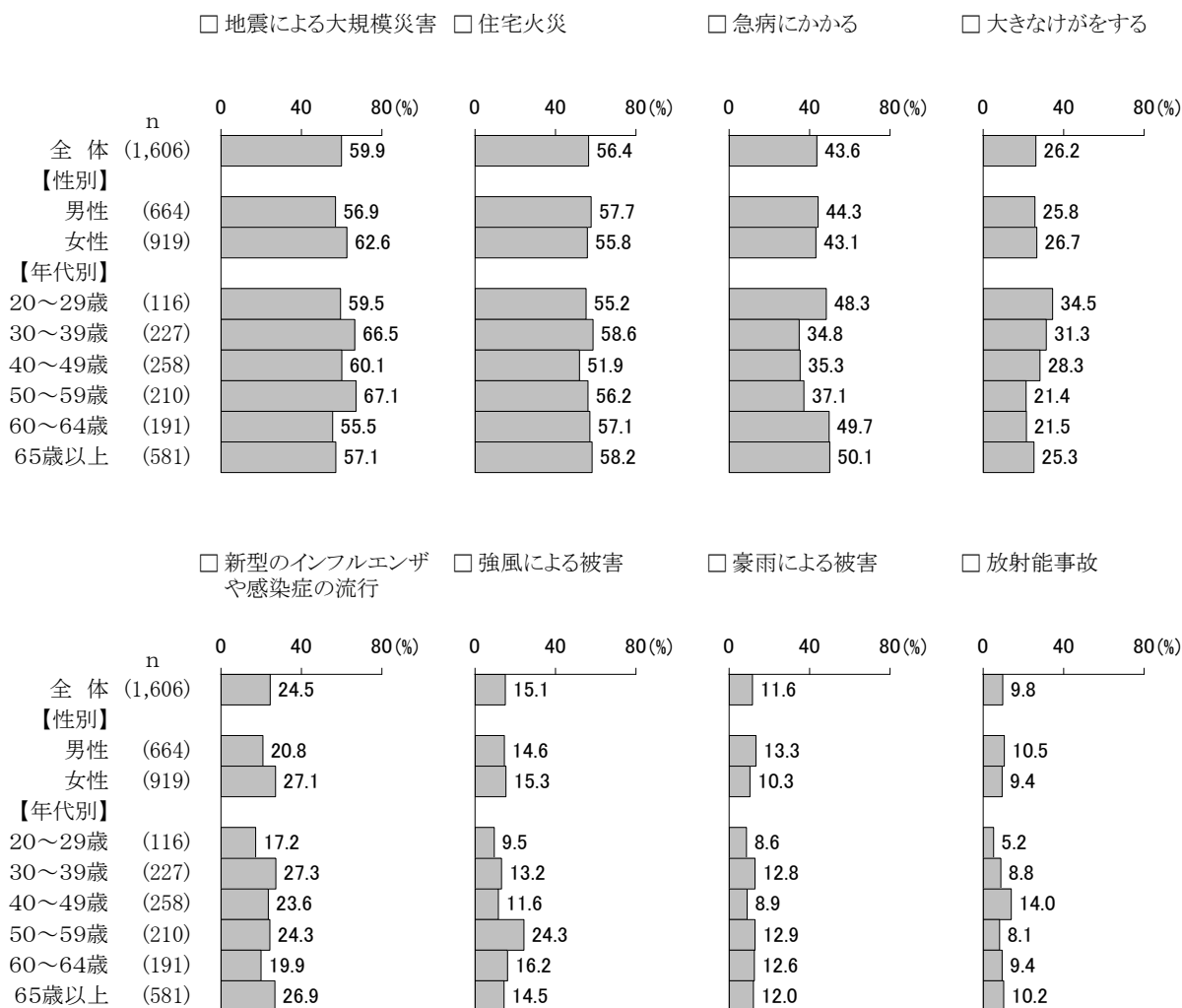


普段の生活において、不安に思うことのある事故や災害は、「地震による大規模災害」(59.9%)と「住宅火災」(56.4%)の2項目が5割台で多く、これに「急病にかかる」が43.6%で続いている。

第2章 調査結果の詳細

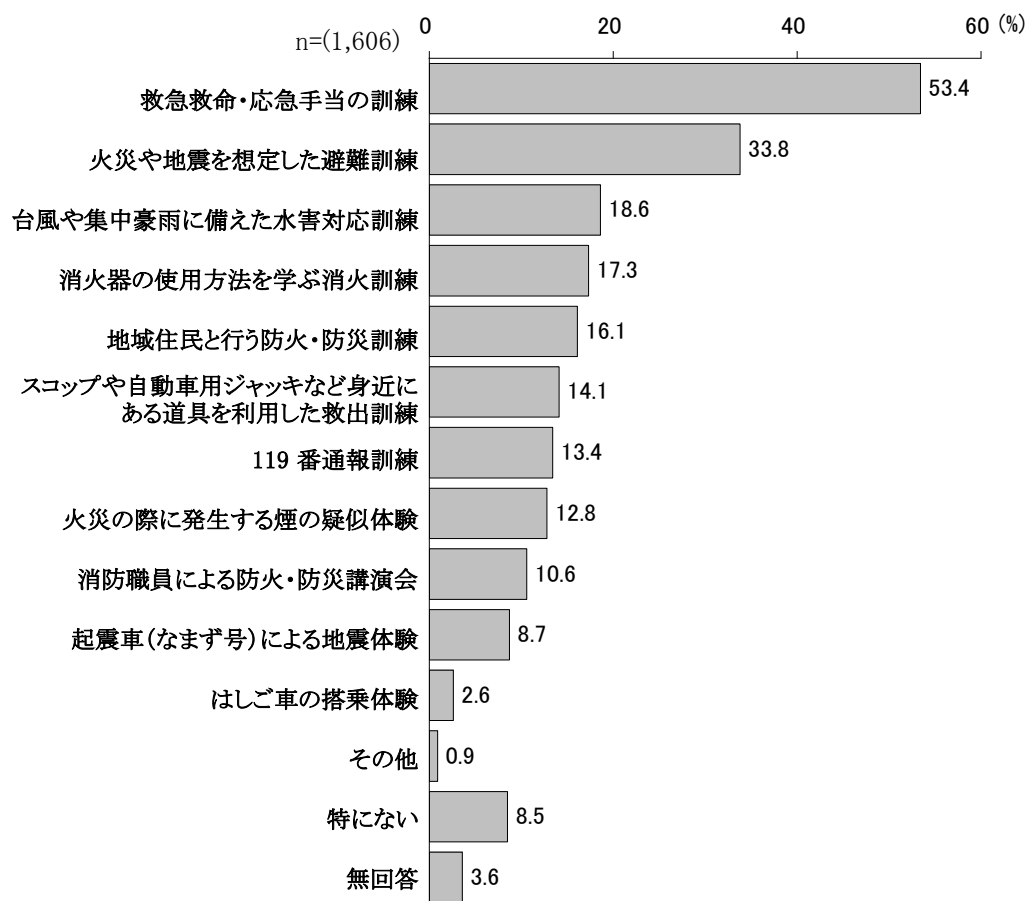
性別や年代別にみると、いずれの層でも「地震による大規模災害」と「住宅火災」が5割から6割台と多く、これに「急病にかかる」が続くという傾向は共通している。この他、20～29歳、30～39歳では「大きなけがをする」が3割台と他の年代より多くなっている。

性別／年代別（上位8項目）



(4) 参加したい訓練や体験

問13 あなた自身やあなたの周りの方の身に起こり得る万一の事態に備えて、参加しておきたいと思う訓練や体験はどのようなものですか。次の中から3つ以内で選んでください。
(○は3つまで)



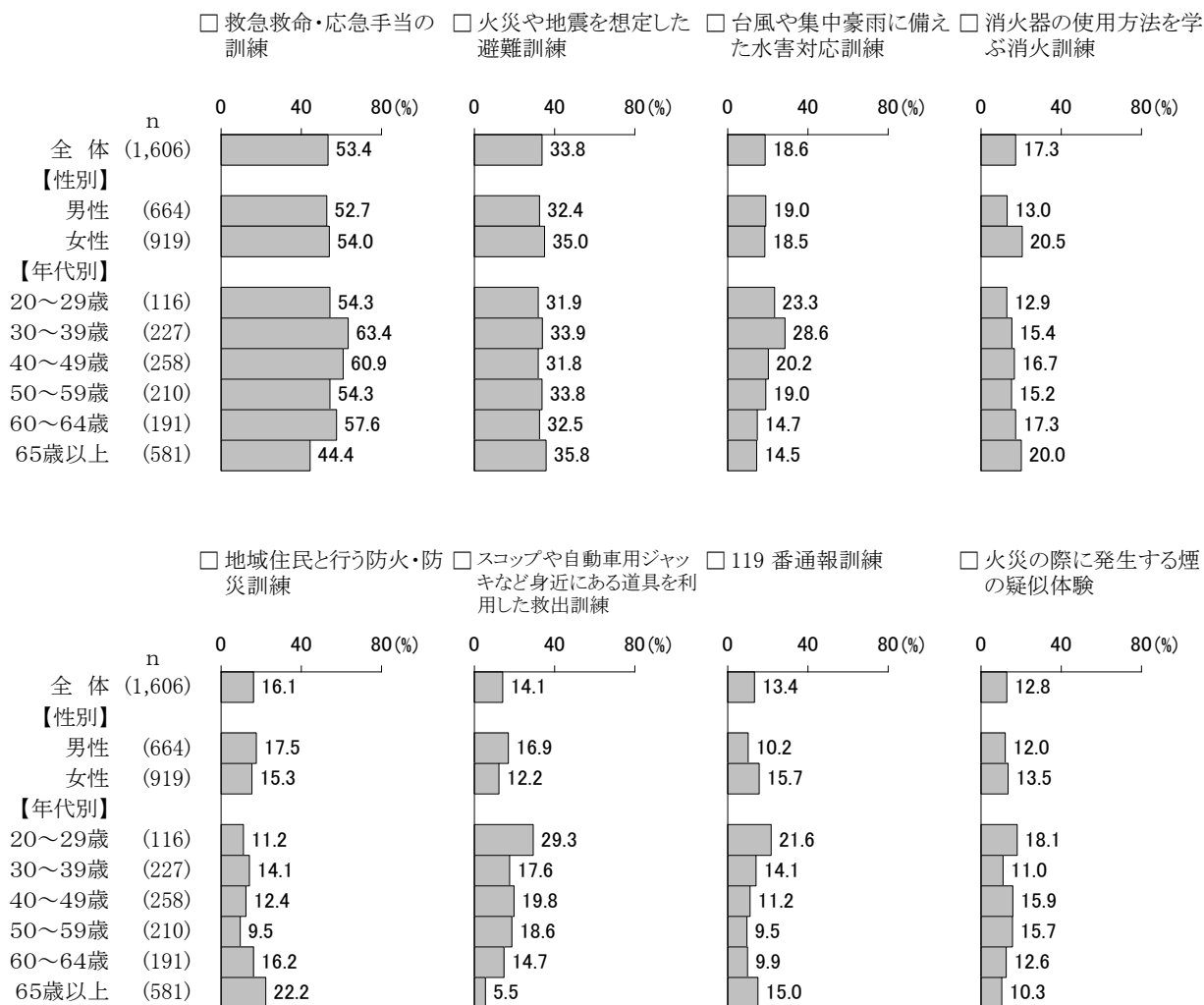
自分自身や周りの方の身に起こり得る万一の事態に備えて、参加しておきたいと思う訓練や体験は、「救急救命・応急手当の訓練」が53.4%で最も多く、「火災や地震を想定した避難訓練」が33.8%でこれに次いでいる。以下、「台風や集中豪雨に備えた水害対応訓練」(18.6%)、「消火器の使用方法を学ぶ消火訓練」(17.3%)、「地域住民と行う防火・防災訓練」(16.1%)などが1割台で続いている。

第2章 調査結果の詳細

性別にみても上位3項目は違いがみられない。「消火器の使用方法を学ぶ消火訓練」(男性：13.0%、女性：20.5%)は女性でより多くあげられている。

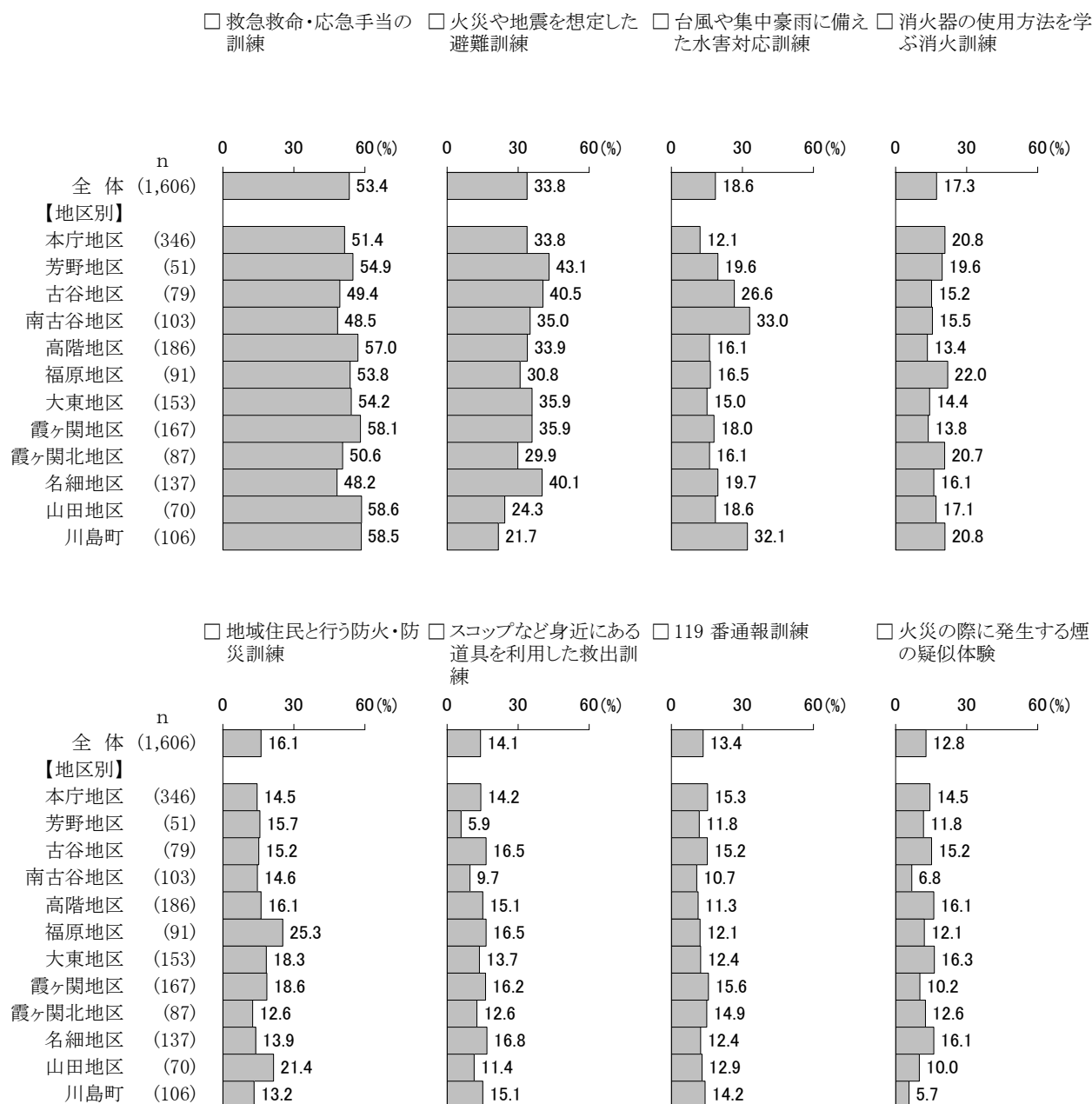
年代別にみても大きな違いはみられないが、「台風や集中豪雨に備えた水害対応訓練」は30～39歳で28.6%、「スコップや自動車用ジャッキなど身近にある道具を利用した救出訓練」、「119番通報訓練」は20～29歳で2割台と比較的多くなっている。

性別／年代別（上位8項目）



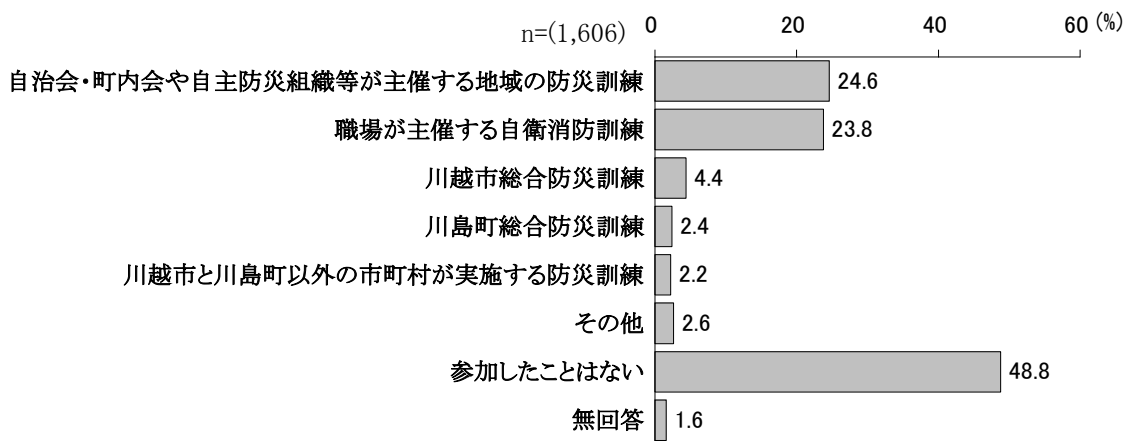
地区別にみると、「救急救命・応急手当の訓練」はいずれの地区でも4割から5割台と多くなっている。多くの地区ではこれに「火災や地震を想定した避難訓練」が続いているが、川島町では「台風や集中豪雨に備えた水害対応訓練」が32.1%で続いている。また、南古谷地区、古谷地区でも「台風や集中豪雨に備えた水害対応訓練」は比較的多くなっている。この他、「地域住民と行う防火・防災訓練」は福原地区、山田地区で2割台と他の地区より多くなっている。

地区別（上位8項目）



(5) 参加したことがある防災訓練

問14 あなたが過去5年以内に参加したことがある防災訓練をすべて選んでください。
(○はあてはまるものすべて)

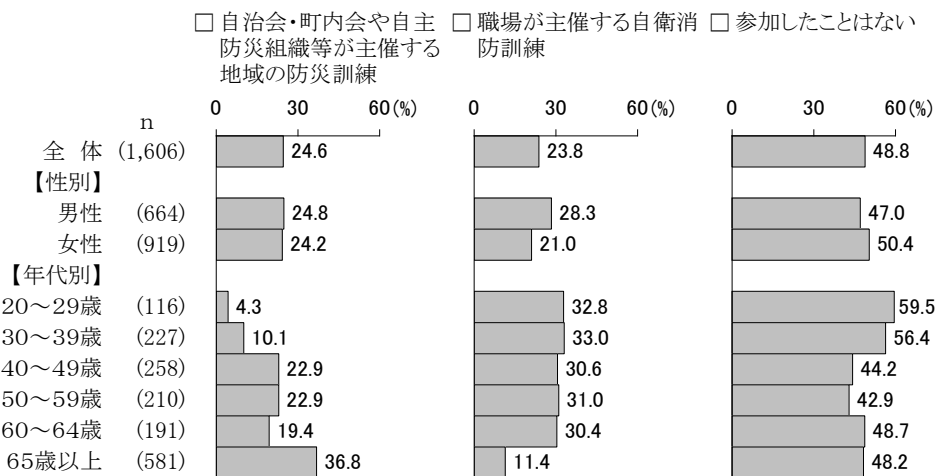


過去5年以内に参加したことがある防災訓練は、「自治会・町内会や自主防災組織等が主催する地域の防災訓練」(24.6%)と「職場が主催する自衛消防訓練」(23.8%)が2割台となっている。これ以外は小数であり、「参加したことはない」が48.8%となっている。

性別にみると、「職場が主催する自衛消防訓練」は男性(28.3%)が女性(21.0%)を7.3ポイント上回っている。

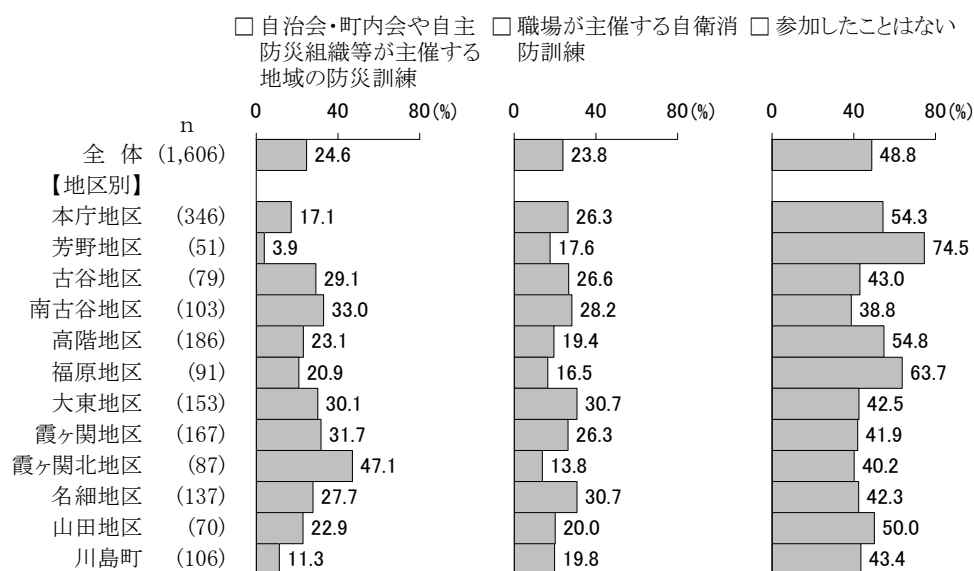
年代別にみると、64歳以下の年代では「職場が主催する自衛消防訓練」がいずれも3割台となっている。一方、65歳以上では「自治会・町内会や自主防災組織等が主催する地域の防災訓練」が36.8%と多くなっている。また、「参加したことはない」は20~29歳、30~39歳で5割台を占めている。

性別／年代別 (上位2項目+参加したことはない)



地区別にみると、「自治会・町内会や自主防災組織等が主催する地域の防災訓練」は霞ヶ関北地区では47.1%を占めるが、芳野地区では3.9%、川島町では11.3%と少なく、地区による違いが大きい。また、「参加したことはない」は芳野地区が74.5%、福原地区で63.7%と多く、本庁地区、高階地区、山田地区でも5割台と多くなっている。

地区別（上位2項目+参加したことはない）

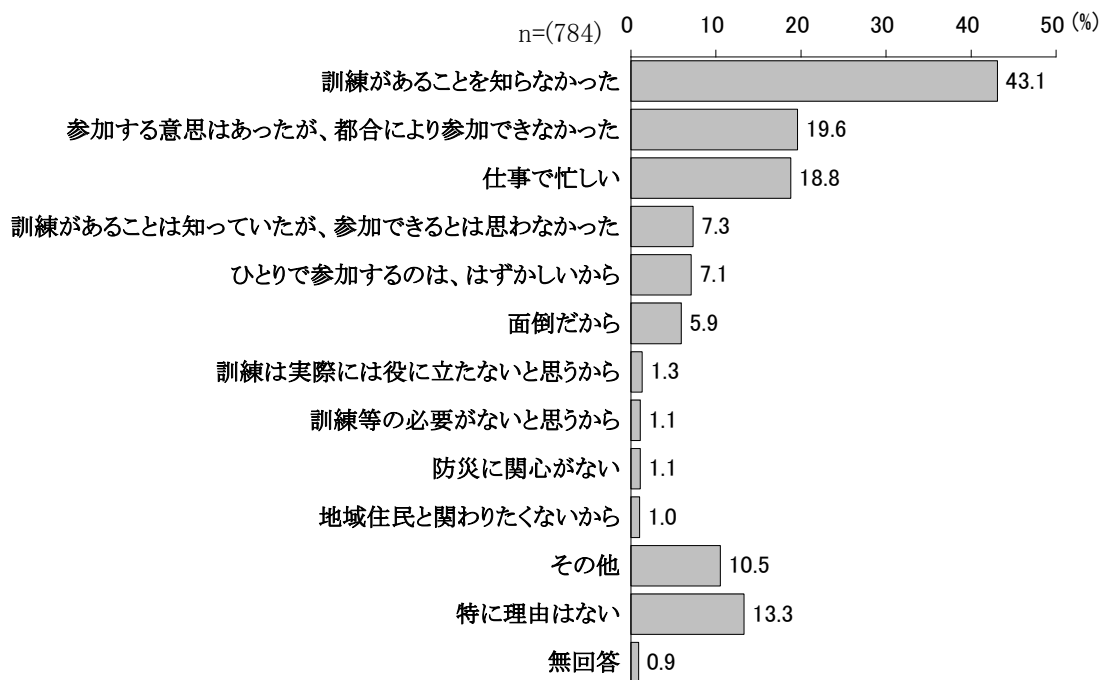


(6) 防災訓練に参加したことがない理由

【問14で「参加したことはない」と答えた方におたずねします。】

問14-1 参加したことがない理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。

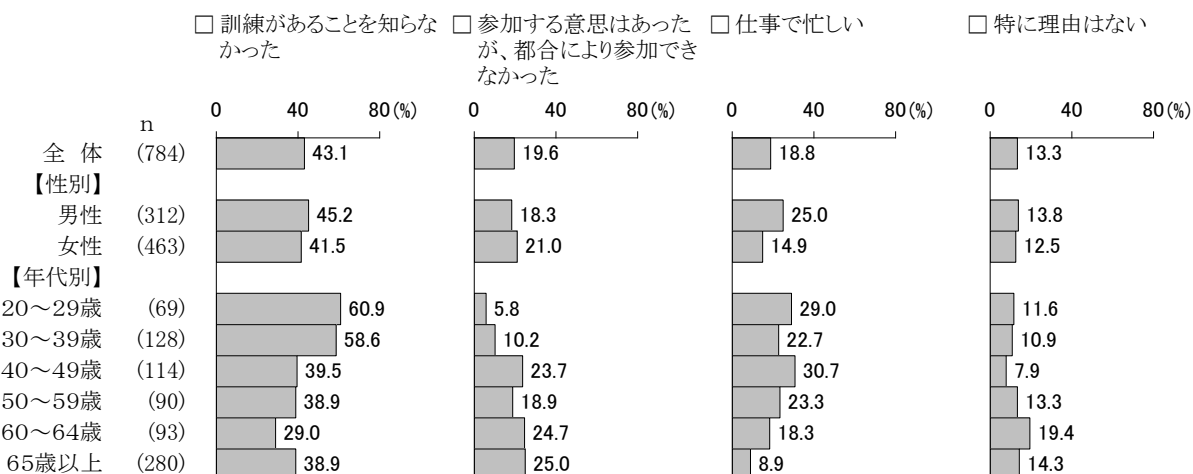
(○は3つまで)



防災訓練に参加したことがない理由としては、「訓練があることを知らなかった」が43.1%で最も多く、以下、「参加する意思はあったが、都合により参加できなかった」(19.6%)、「仕事で忙しい」(18.8%)が1割台で続いている。

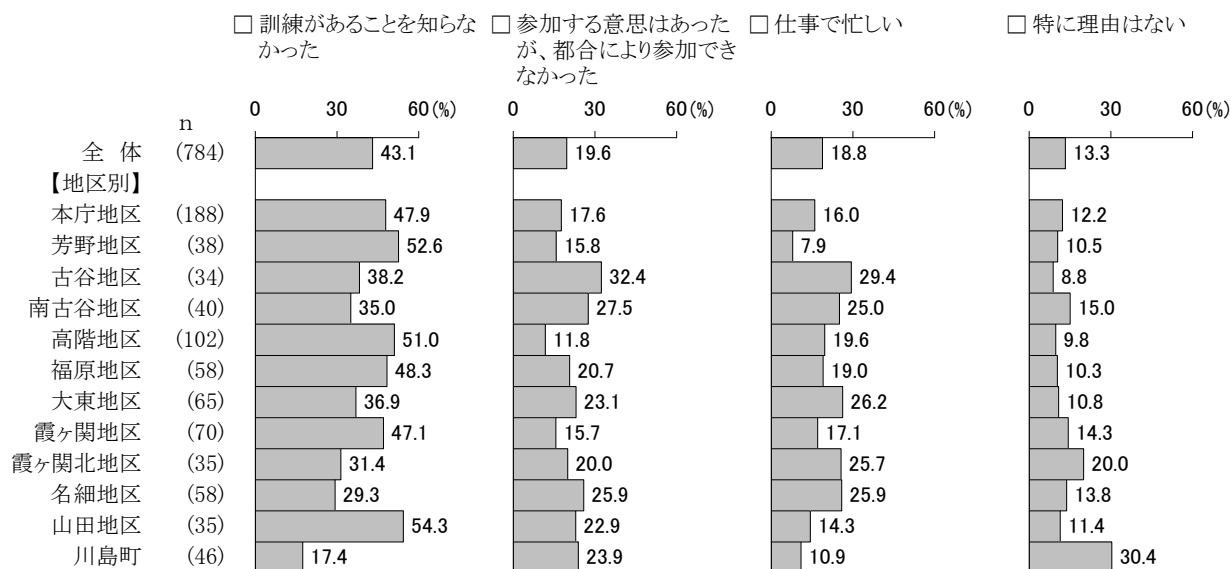
性別にみると、「仕事で忙しい」は男性（25.0%）が女性（14.9%）を10.1ポイント上回っている。
 年代別にみると、「訓練があることを知らなかった」は20～29歳、30～39歳で6割前後と多くなっている。「仕事で忙しい」は20～29歳、40～49歳で3割前後となっている。

性別／年代別 （上位3項目＋特に理由はない）



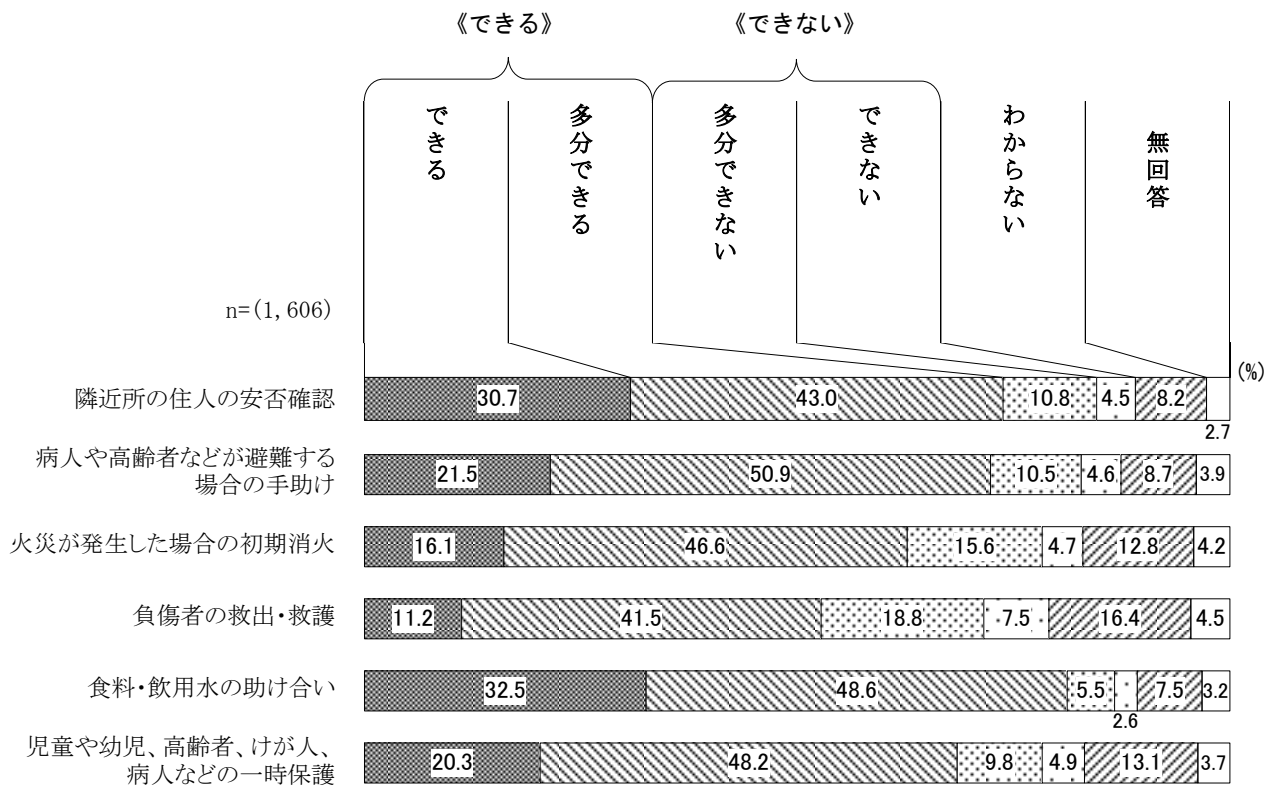
地区別にみると、参加状況の低かった芳野地区、高階地区、本庁地区、福原地区では「訓練があることを知らなかった」が5割前後と多くなっている。

地区別 （上位3項目＋特に理由はない）



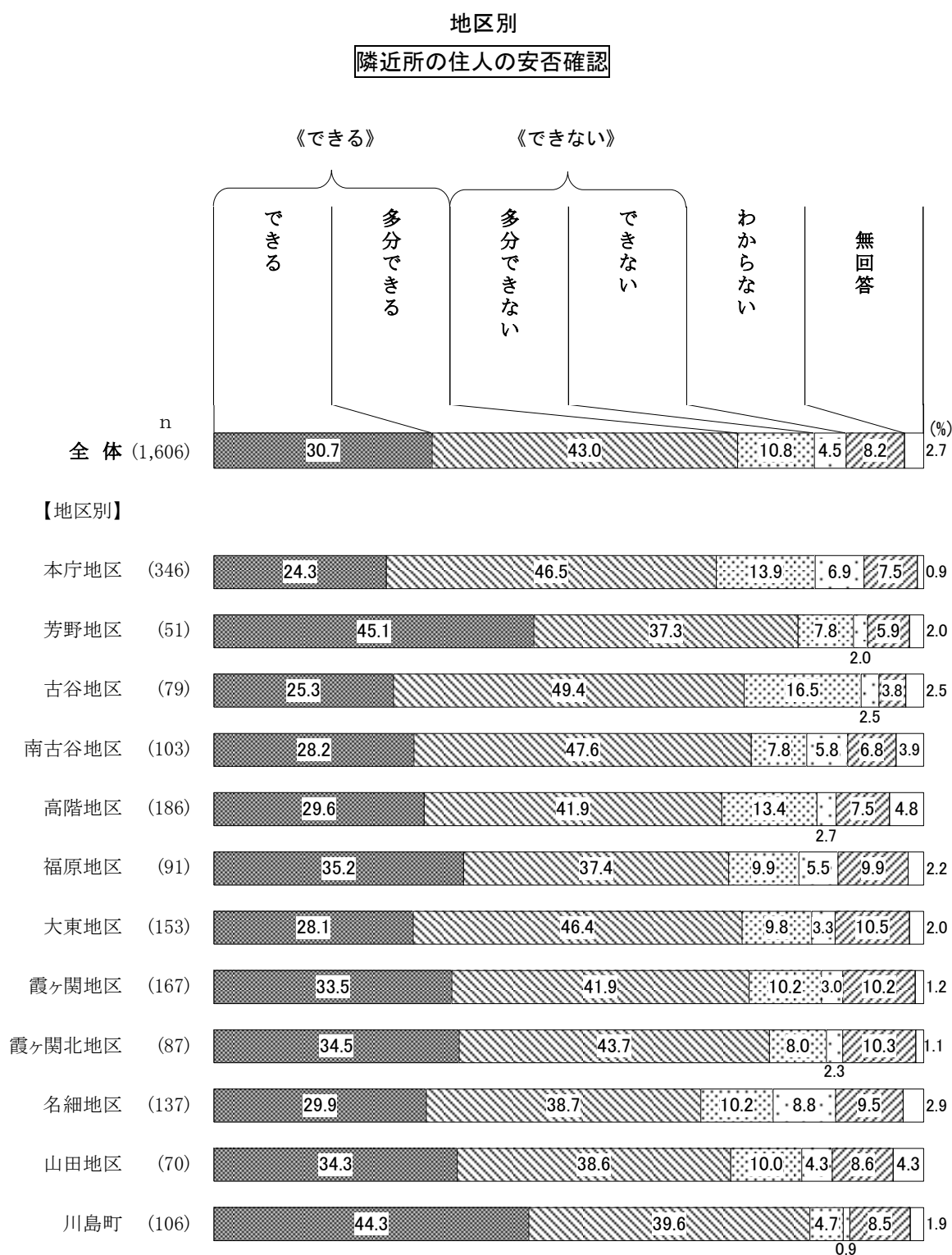
(7) 大地震等による被害発生時の助け合いや協力の可否

問15 あなたは、大地震などで大きな被害が発生したとき、次の事柄について隣近所の方々と助け合いや協力ができると思いますか。項目ごとに1つずつ選んでください。
(○はそれぞれ1つずつ)



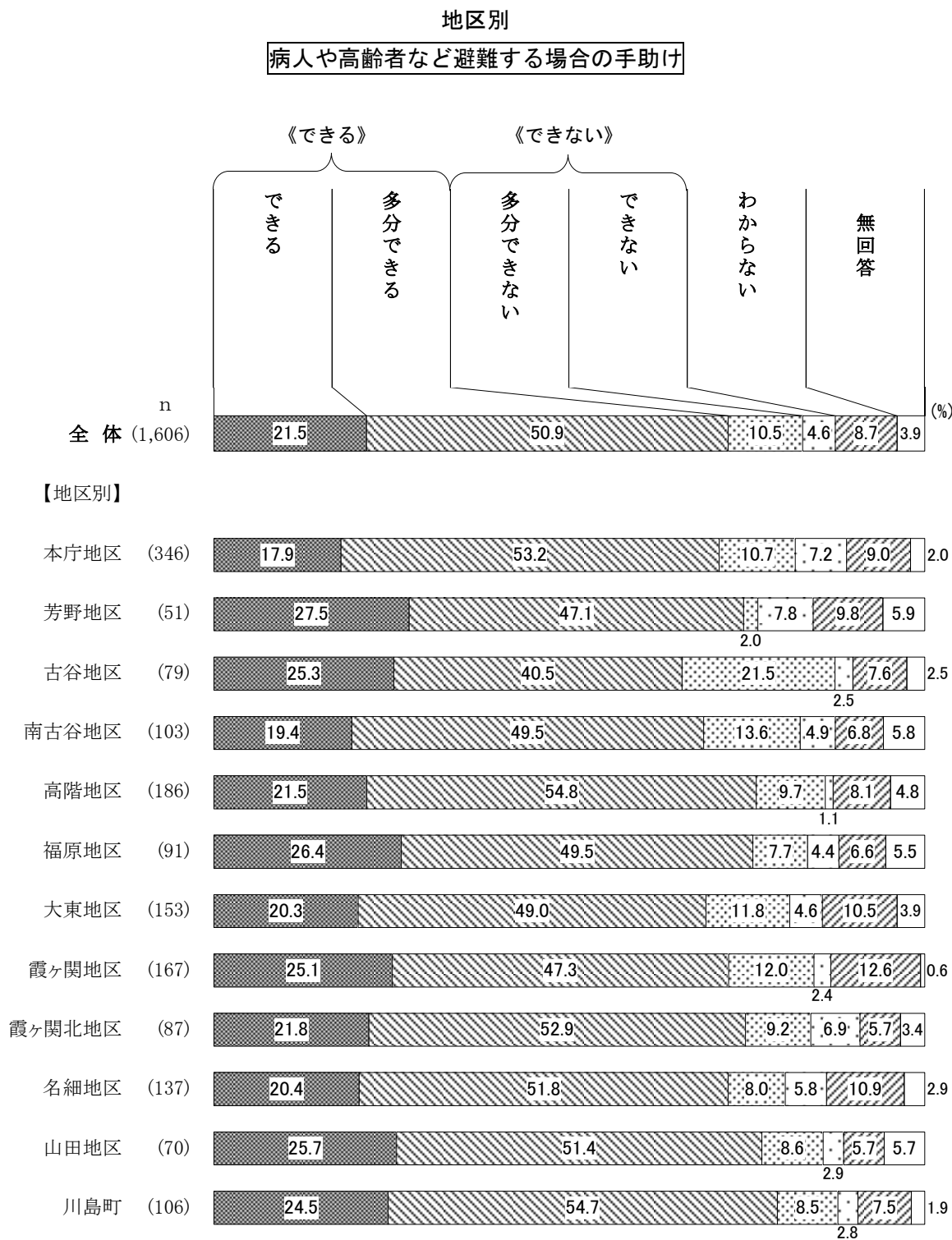
大地震などで大きな災害が発生したとき、隣近所の方々と助け合いや協力ができるかどうか聞いた。「できる」という回答は「食料・飲用水の助け合い」(32.5%)、「隣近所の住人の安否確認」(30.7%)で3割台となっている。また、《できる》(「できる」と「多分できる」の計)では、「食料や飲用水の助けあい」は81.1%、「隣近所の住人の安否確認」(73.7%)や「病人や高齢者などが避難する場合の手助け」(72.4%)では7割台となっている。一方、「火災が発生した場合の初期消火」(62.7%)、「負傷者の救出・救護」(52.7%)では他の項目に比べやや低く、《できない》(「できない」と「多分できない」の計)が2割台となっている。

“隣近所の住人の安否確認”を地区別にみると、《できる》は芳野地区（82.4%）、川島町（83.9%）で8割台と多く、他の地域でも7割程度となっている。一方、《できない》は本庁地区（20.8%）と古谷地区（19.0%）で2割前後と比較的多くなっている。

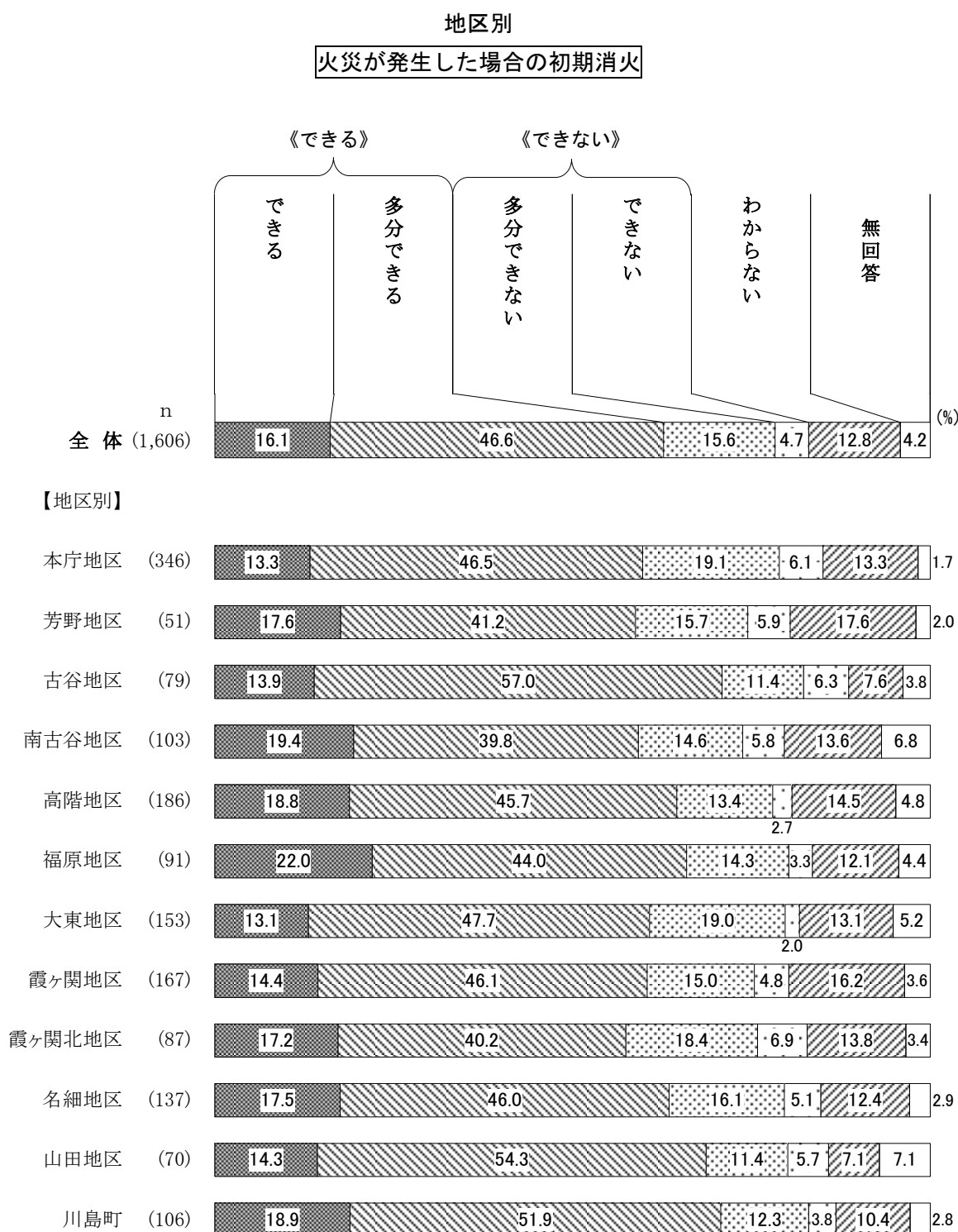


第2章 調査結果の詳細

“病人や高齢者など避難する場合の手助け”を地区別にみると、《できる》は多くの地区で7割台を占め、川島町（79.2%）、山田地区（77.1%）など75%を超える地区もみられる。一方、古谷地区は65.8%にとどまり、《できない》が24.0%と他の地区より多くなっている。

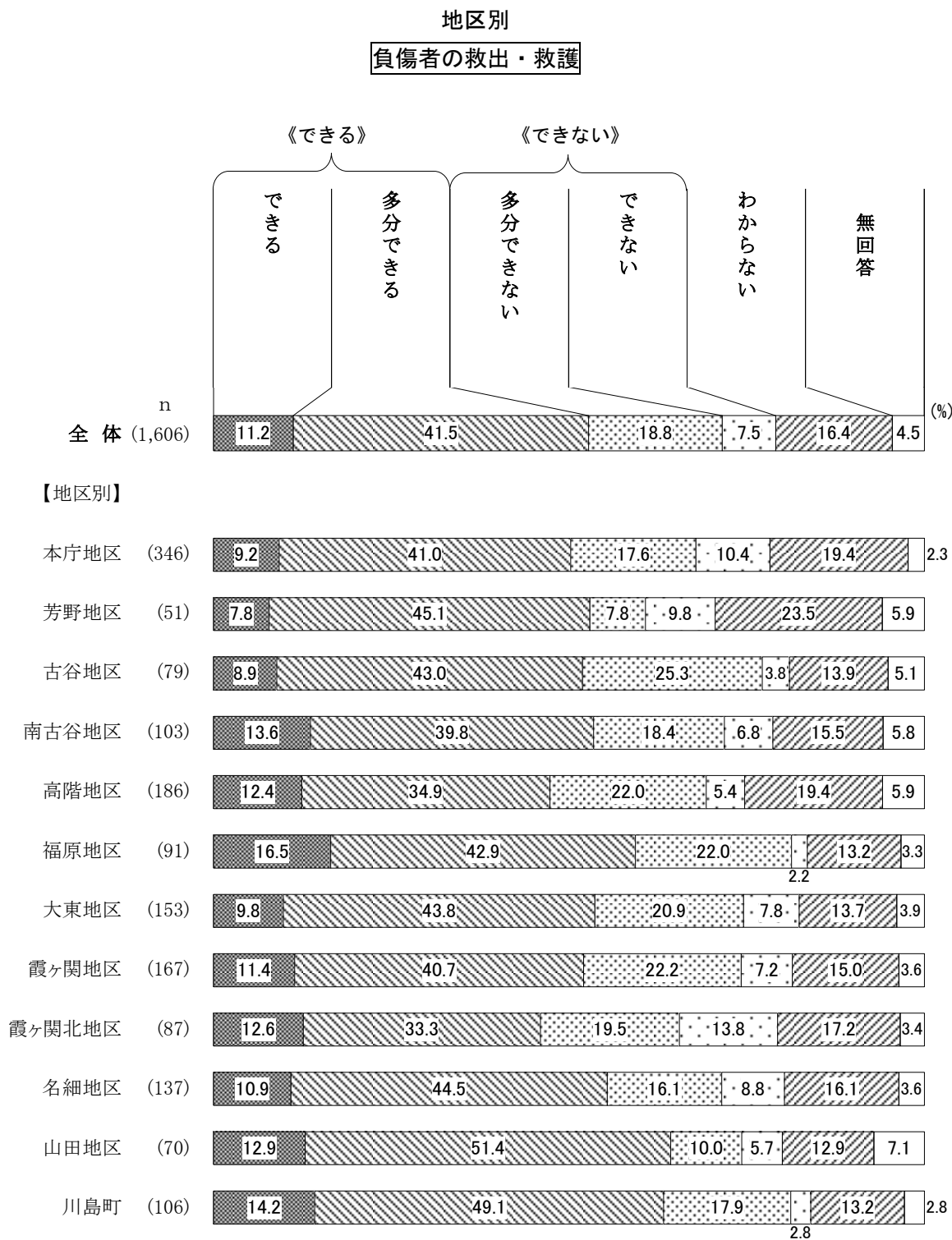


“火災が発生した場合の初期消火”を地区別にみると、《できる》は古谷地区（70.9%）と山田地区（68.6%）、川島町（70.8%）で7割前後と多く、他の地区では6割前後となっている。一方、《できない》は本庁地区（25.2%）と霞ヶ関北地区（25.3%）で2割台半ばと比較的多くなっている。

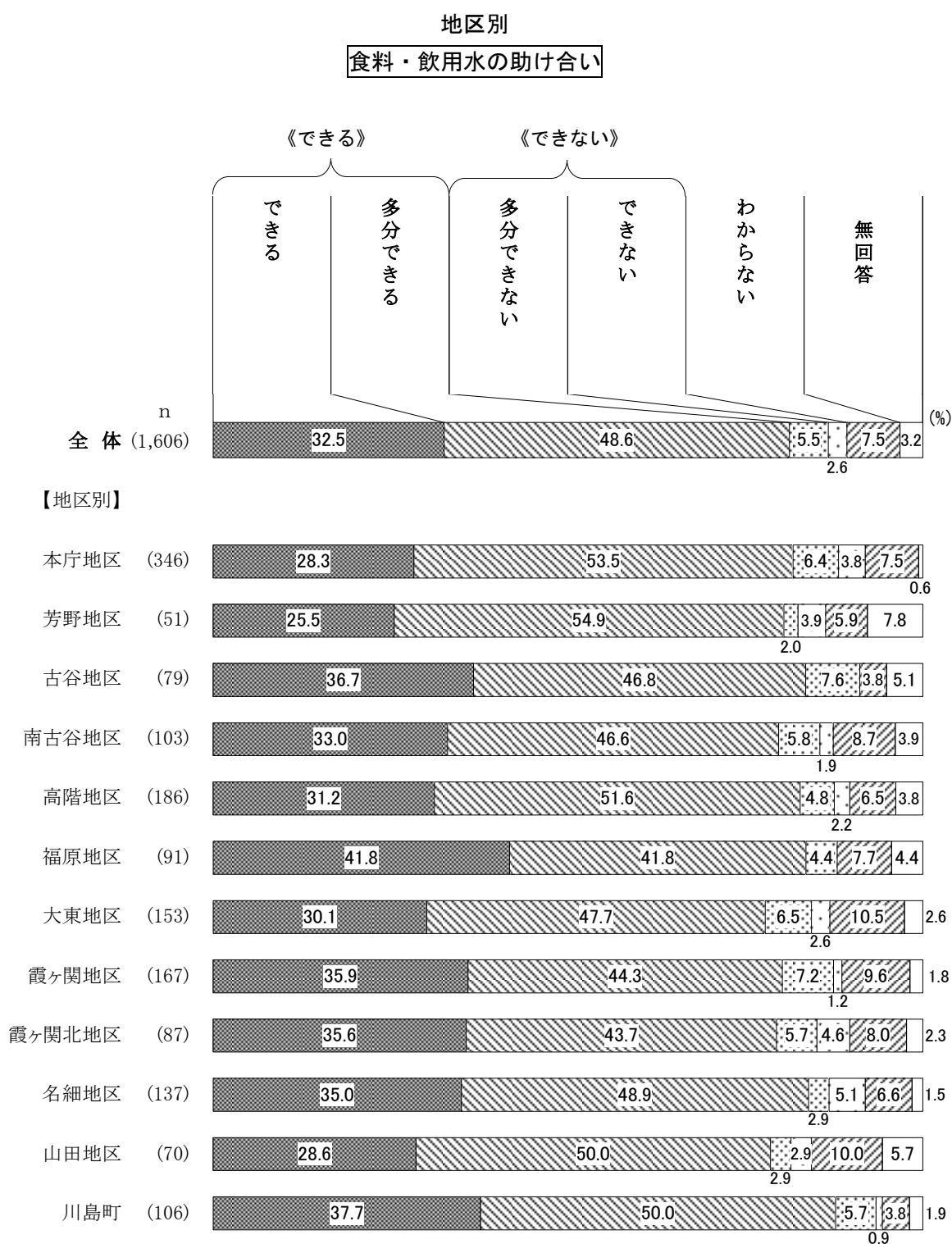


第2章 調査結果の詳細

“負傷者の救出・救護”を地区別にみると、《できる》は山田地区（64.3%）と川島町（63.3%）で6割台と多くなっている。他の地区は5割台が多いが、高階地区（47.3%）と霞ヶ関北地区（45.9%）では4割台と半数以下となっている。

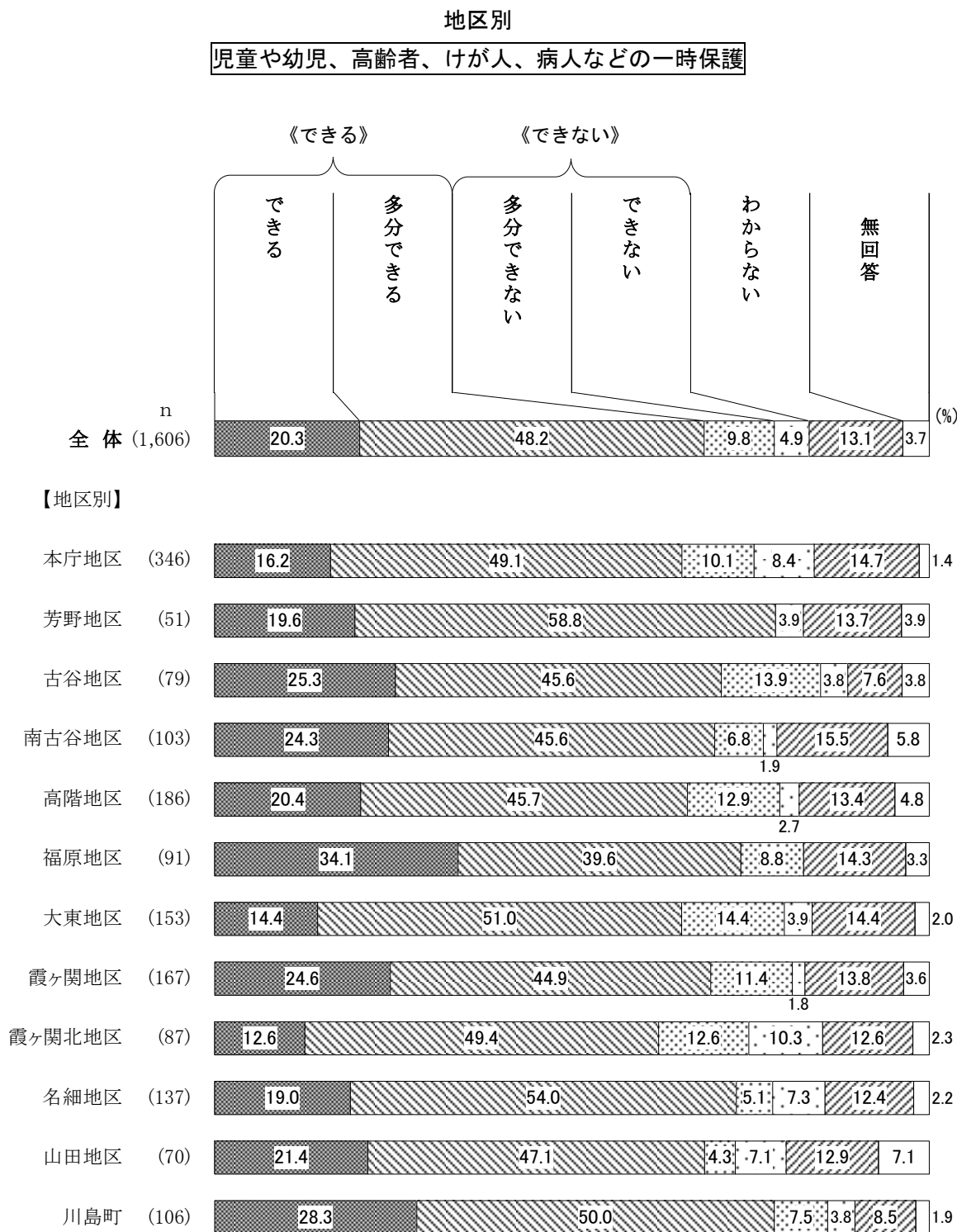


“食料・飲用水の助けあい”を地区別にみると、《できる》はいずれの地区でも7割から8割台となっている。特に川島町では87.7%と9割近くに達している。



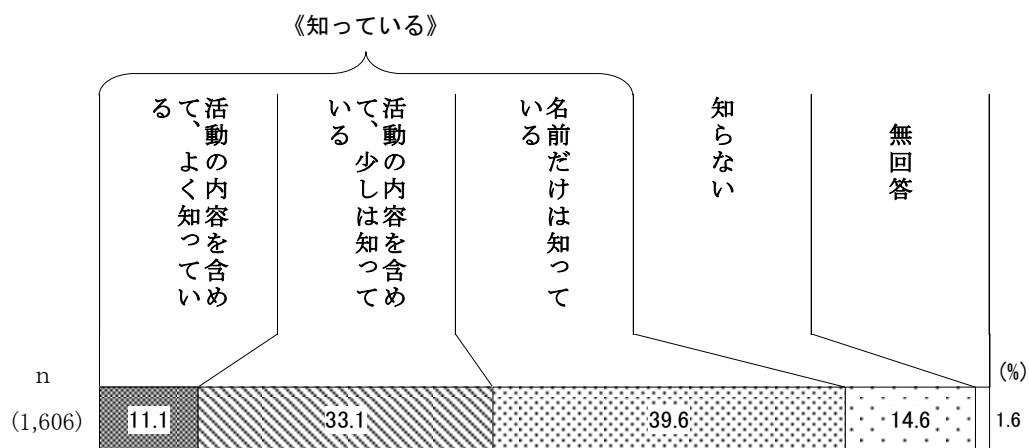
第2章 調査結果の詳細

“児童や幼児、高齢者、けが人、病人などの一時保護”を地区別にみると、《できる》は芳野地区(78.4%)、川島町(78.3%)で8割近くと多い。他の地区は7割前後となる地区が多いが、本庁地区(65.3%)、高階地区(66.1%)、大東地区(65.4%)、霞ヶ関北地区(62.0%)では、65%程度となっている。また、霞ヶ関北地区では《できない》が22.9%と他の地区より多くなっている。



(8) 消防団の認知

問16 あなたは、普段は生業を持ちながらも、自らの地域は自らが守るというボランティア精神に基づき活動する「消防団」を知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。
(○は1つ)

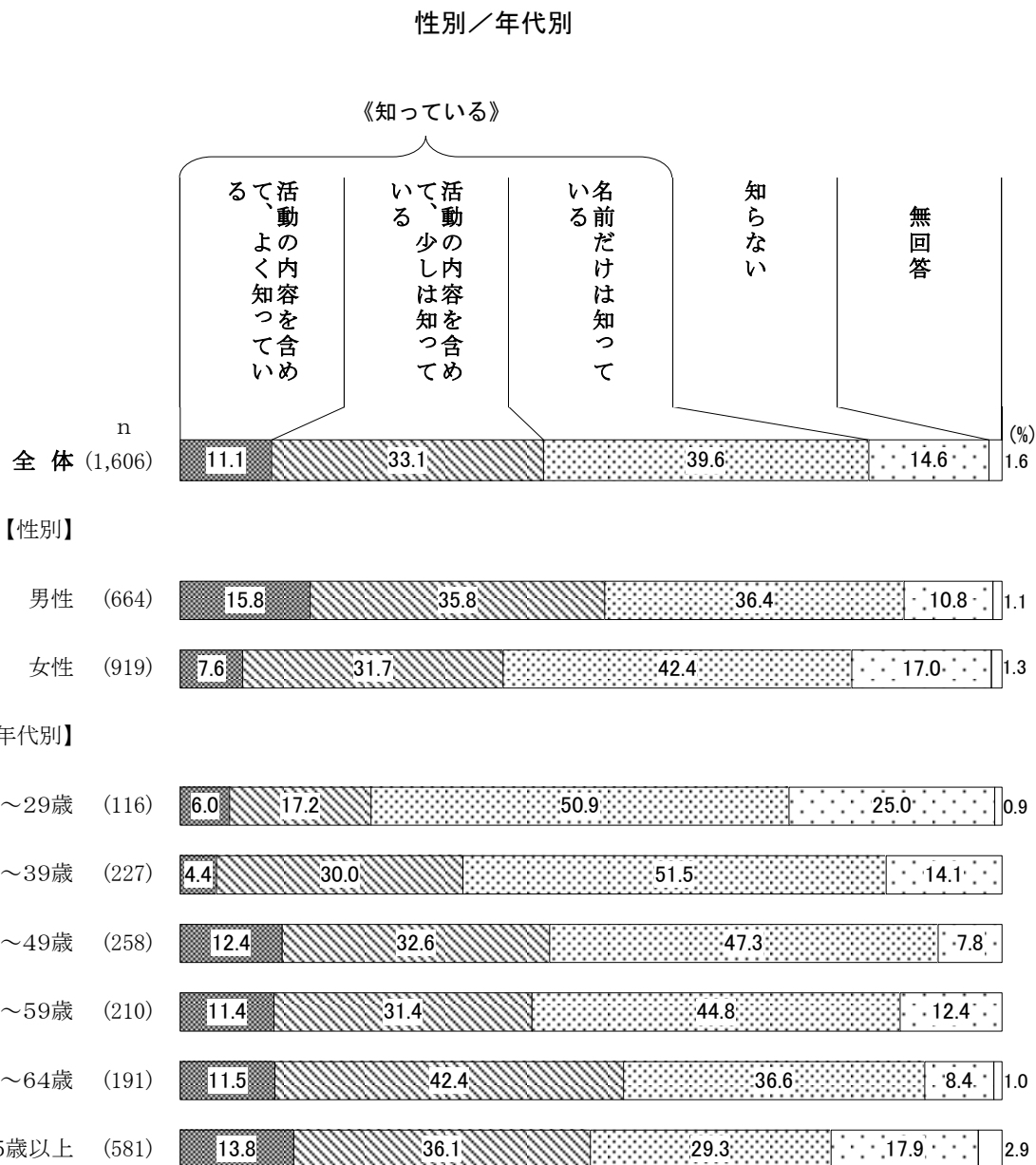


普段は生業を持ち、ボランティア精神に基づき活動する「消防団」の認知について聞いたところ、「活動の内容を含めて、よく知っている」は11.1%にとどまる。「活動の内容を含めて、少しは知っている」は33.1%、「名前だけは知っている」は39.6%となり、これらを合わせた《知っている》では83.8%を占める。

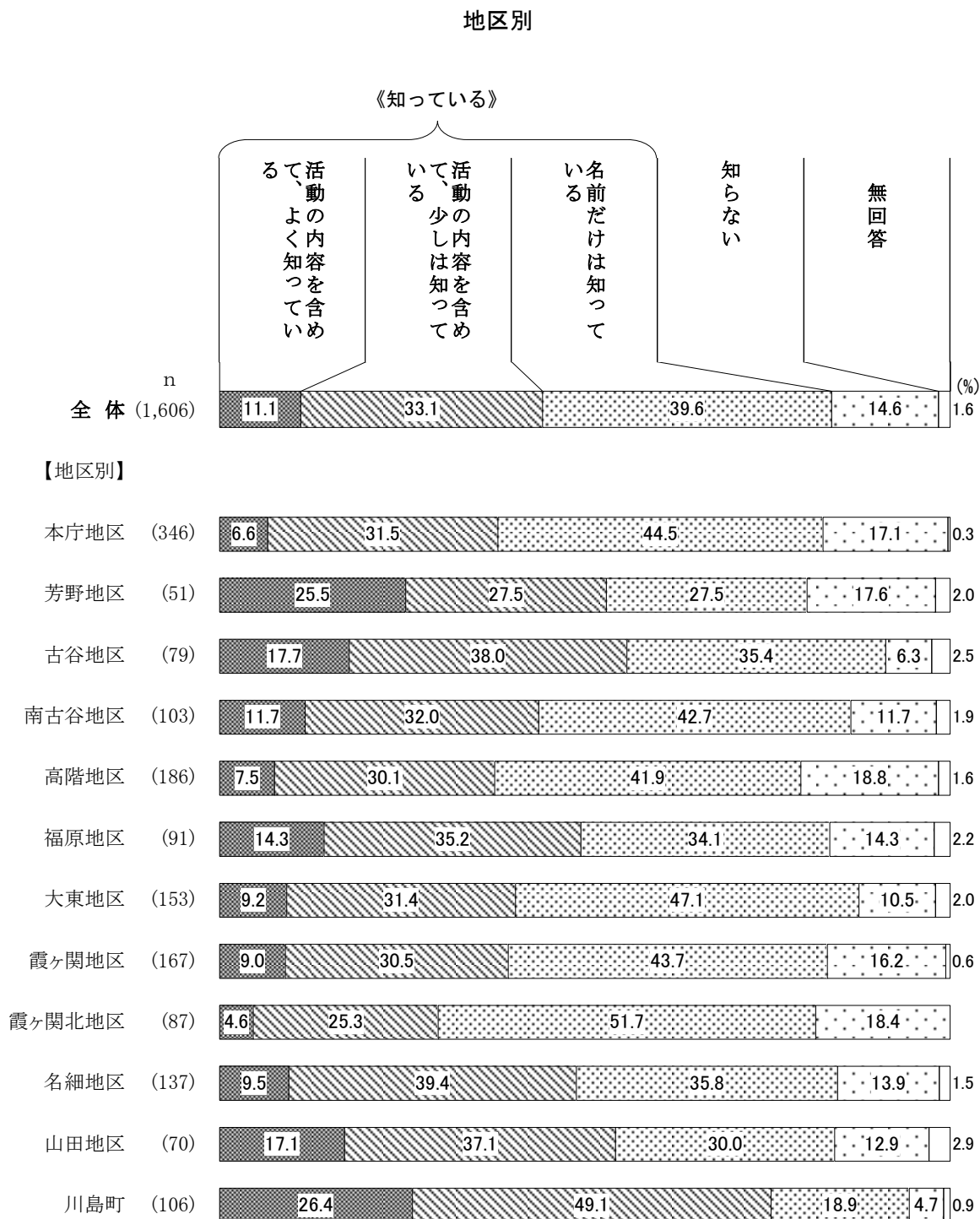
第2章 調査結果の詳細

性別にみると、《知っている》は男性で88.0%、女性で81.7%といずれも8割台を占めている。

年代別にみると、「活動の内容を含めて、よく知っている」は40歳代以上で1割台となっている。《知っている》では、20～29歳では74.1%にとどまるが、30歳代以上は8割以上となり、特に40～49歳では92.3%と多くなっている。

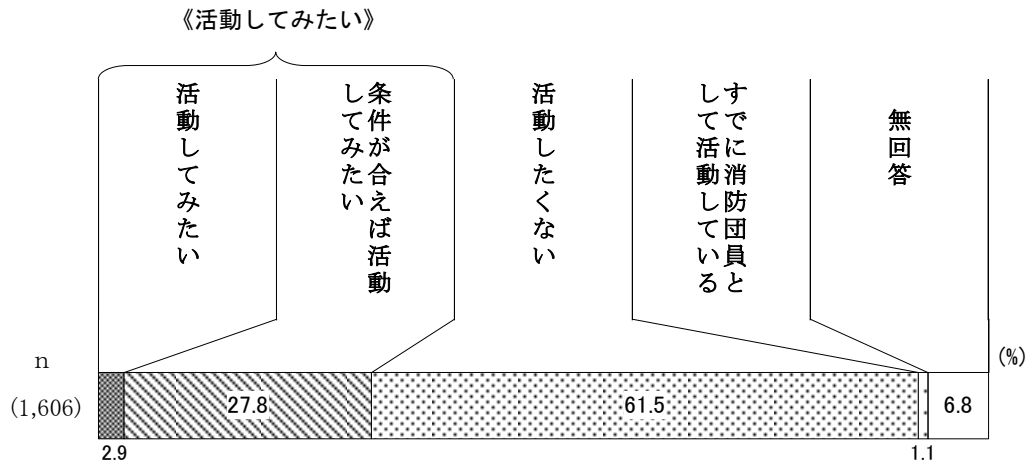


地区別にみると、「活動の内容を含めて、よく知っている」は芳野地区（25.5%）と川島町（26.4%）で2割台となっている。《知っている》はほぼすべての地区で8割以上となっており、特に古谷地区（91.1%）と川島町（94.4%）では9割台を占めている。



(9) 消防団活動への参加意向

問17 あなたは、消防団に参加して消防団員として活動してみたいですか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

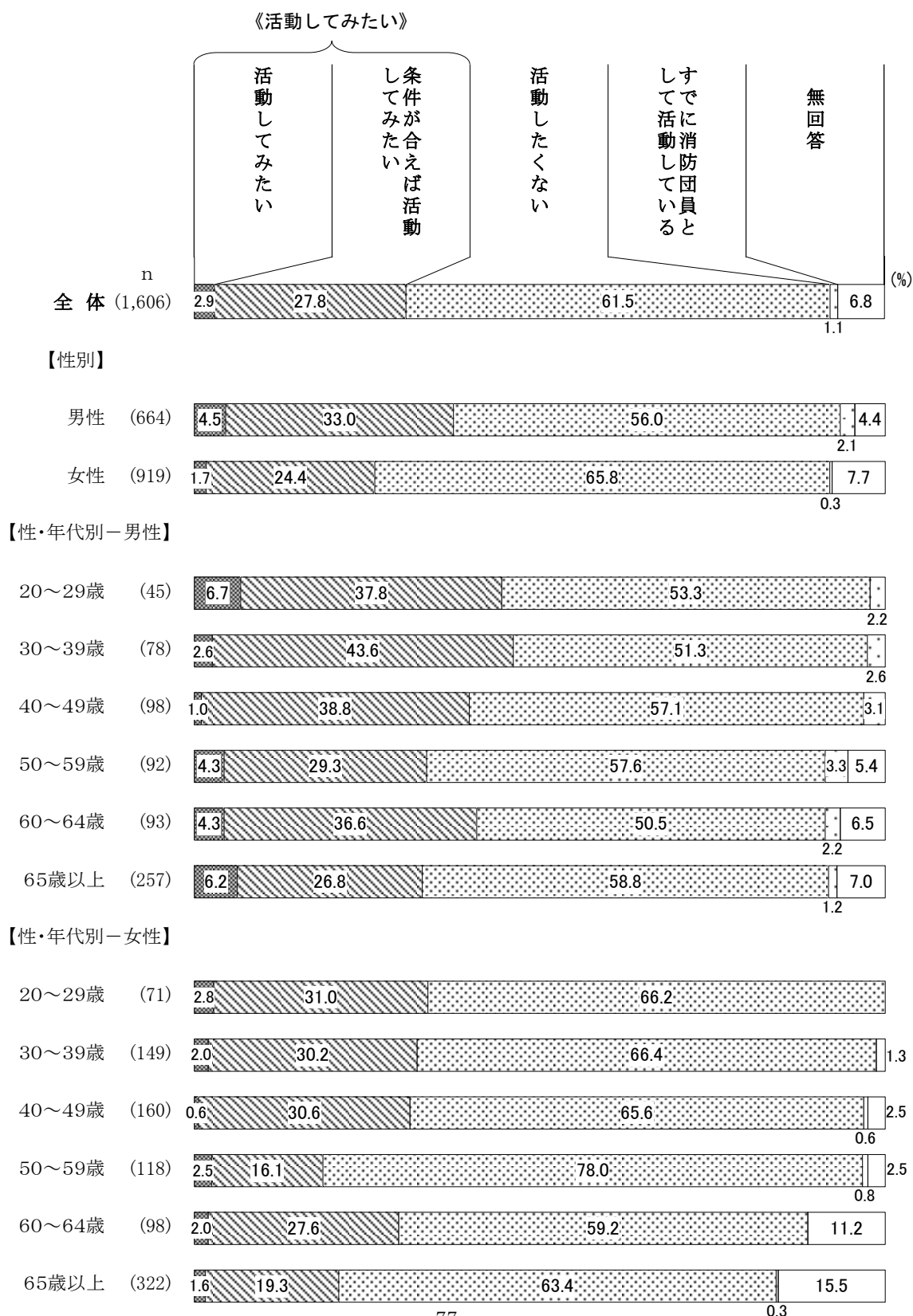


消防団に参加して消防団員として活動してみたいかどうかでは、「活動してみたい」は2.9%にとどまっている。「条件が合えば活動してみたい」は27.8%となり、両者を合わせた《活動してみたい》は30.7%となっている。一方、「活動したくない」は61.5%となっている。

性別にみると、参加意向は男性（37.5%）の方が多く、「活動したくない」は女性（65.8%）が男性（56.0%）を9.8ポイント上回っている。

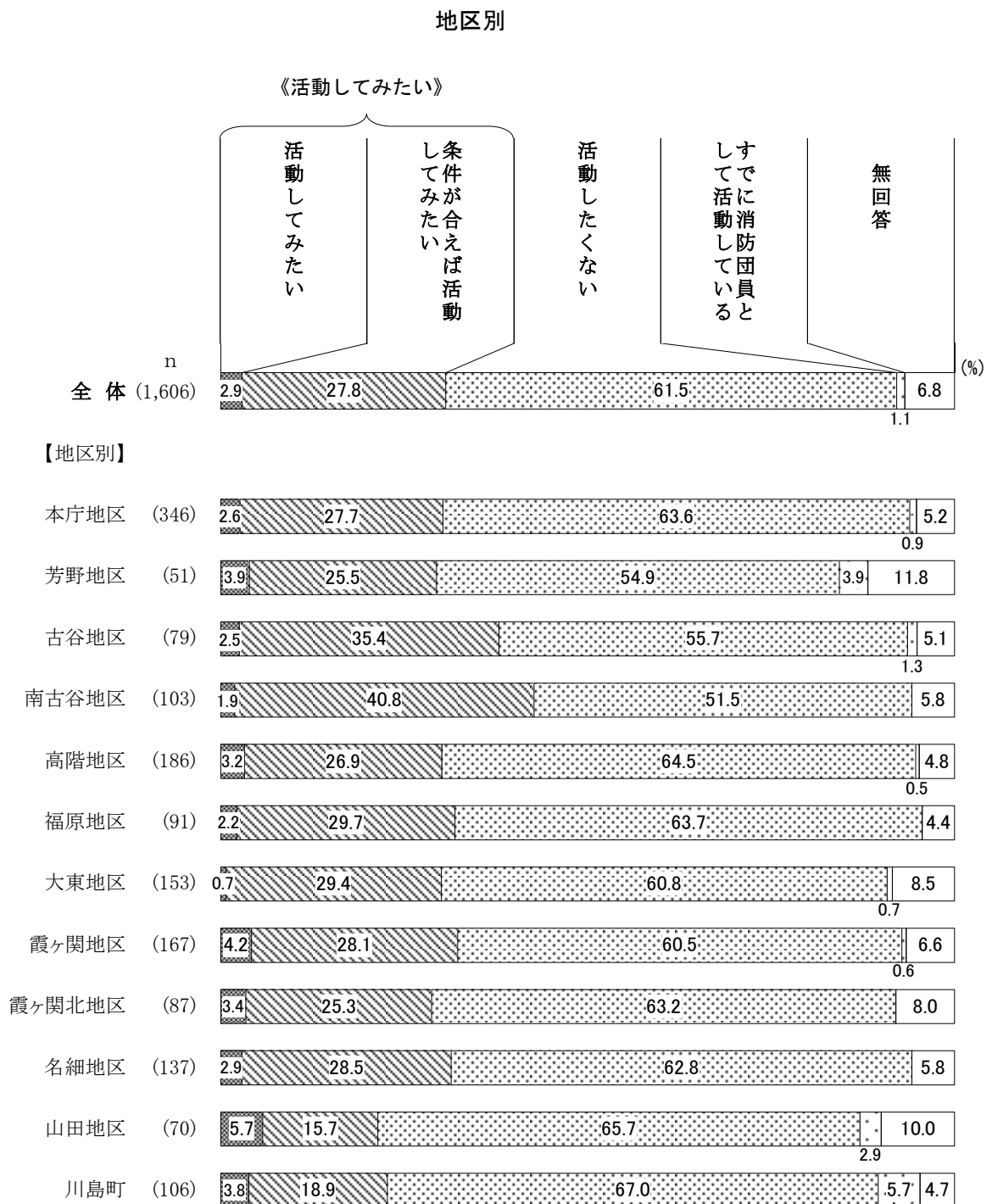
性・年代別にみると、「活動してみたい」は男性20～29歳、30～39歳及び男性60～64歳で4割台と多くなっている。

性別／性・年代別

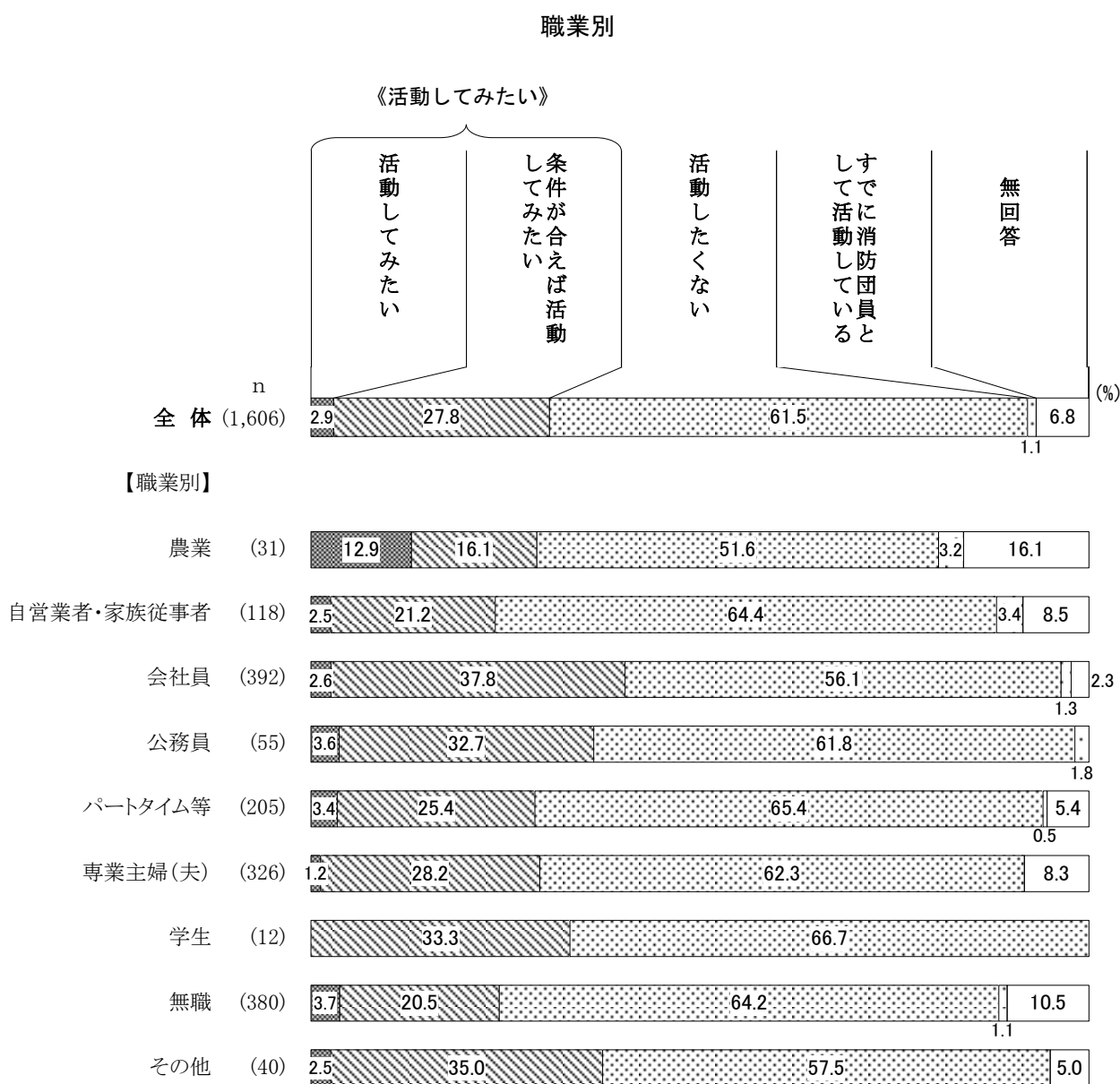


第2章 調査結果の詳細

地区別にみると、《活動してみたい》は南古谷地区で42.7%と多く、本庁地区、古谷地区、高階地区、福原地区、大東地区、霞ヶ関地区、名細地区で3割台となっている。



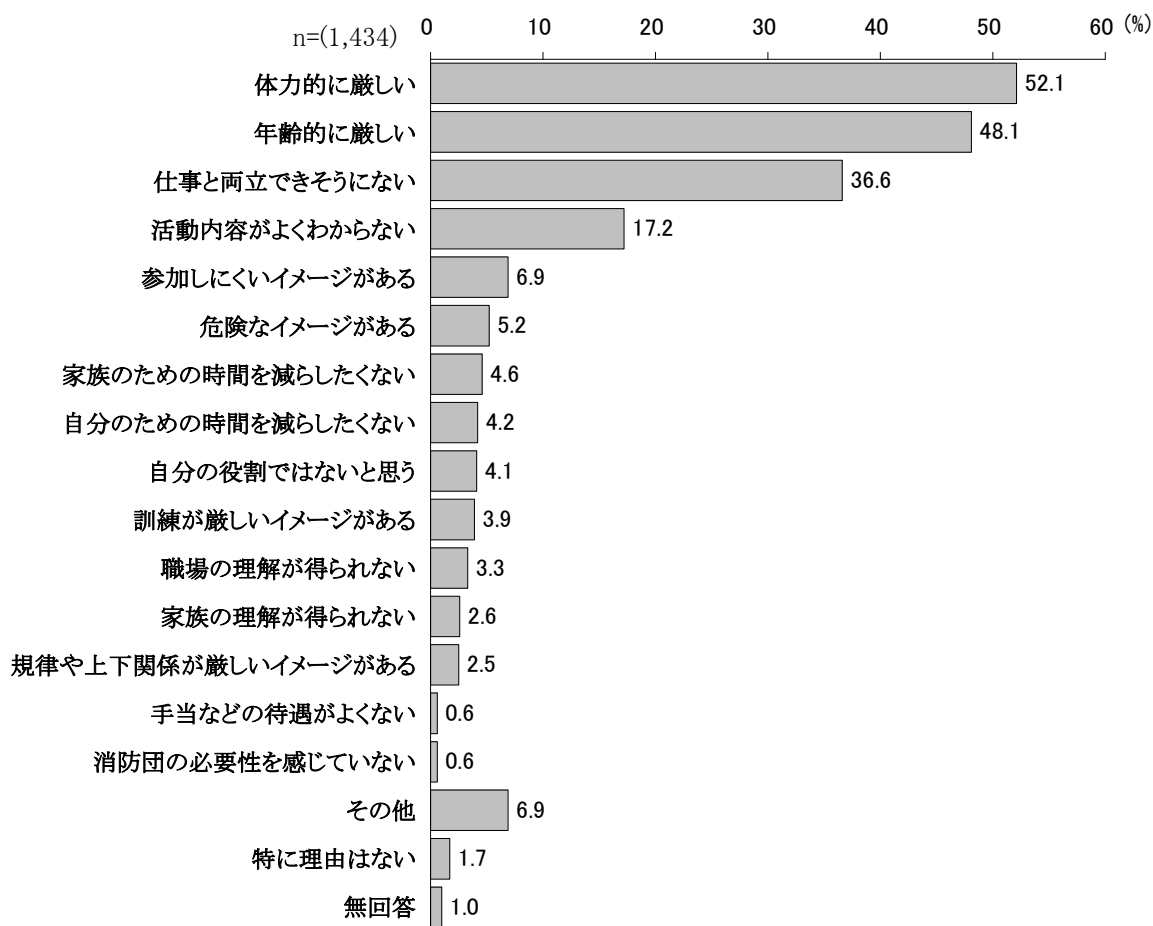
職業別にみると、「活動してみたい」は農業で12.9%と比較的多くなっている。《活動してみたい》では会社員で40.4%となっており、公務員でも36.3%、農業で29.0%となっている。



(10) 活動に積極的でない理由

【問17で「条件が合えば活動してみたい」または「活動したくない」と答えた方におたずねします。】

問17-1 その理由は何ですか。次の中からあてはまるものを3つ以内で選んでください。
(○は3つまで)

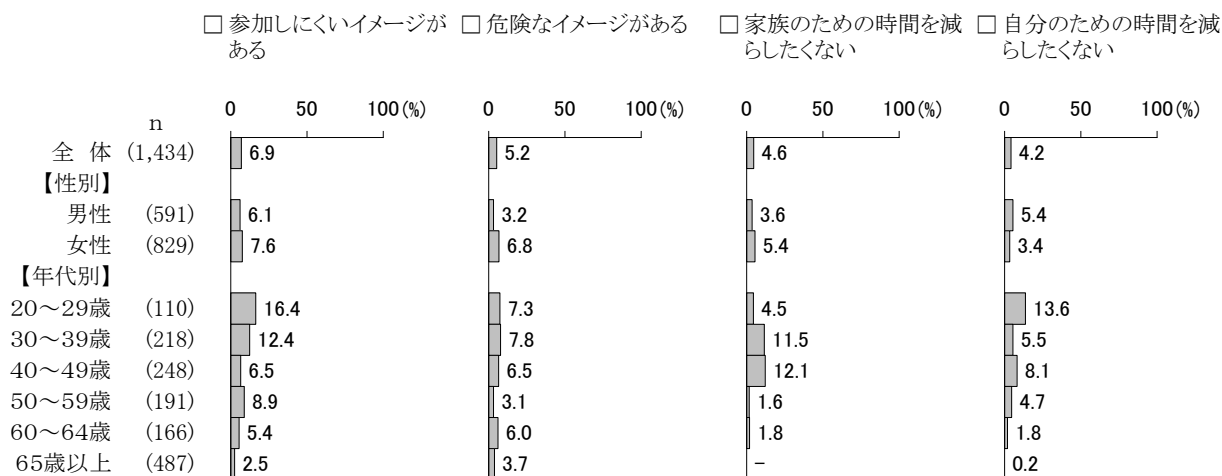
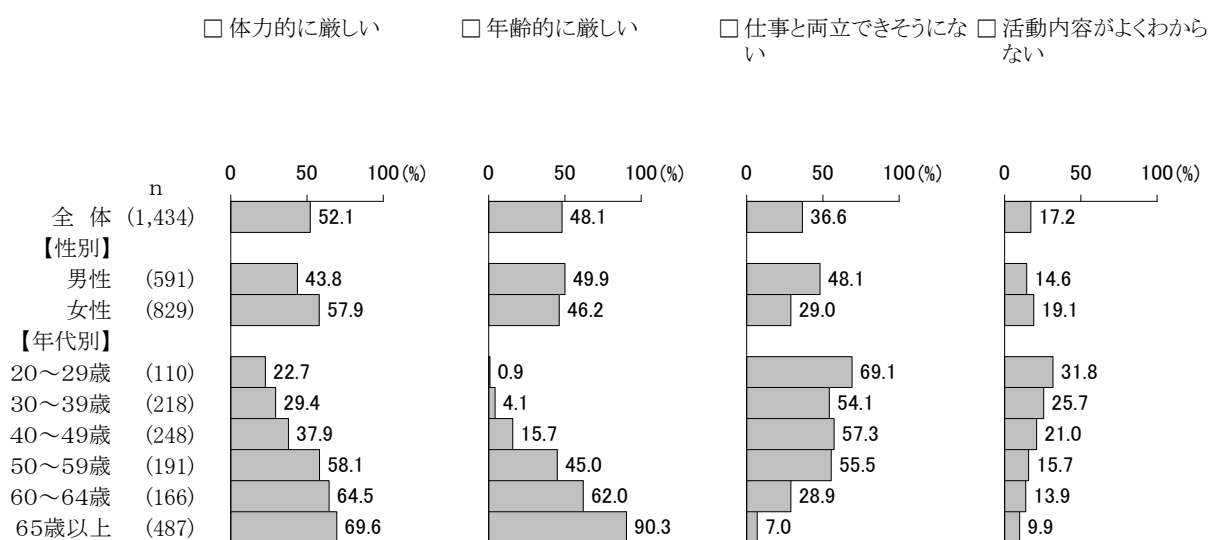


条件が合えば活動してみたい、あるいは活動したくない理由としては、「体力的に厳しい」(52.1%)、「年齢的に厳しい」(48.1%)が5割前後と多く、これに「仕事と両立できそうにない」(36.6%)が続いている。

性別にみると、男性では「仕事と両立できそうにない」（男性：48.1%、女性：29.0%）が、女性では「体力的に厳しい」（男性：43.8%、女性：57.9%）がより多くあげられている。

年代別にみると、「体力的に厳しい」や「年齢的に厳しい」は年代が上がるにつれて多くなっている。「仕事と両立できそうにない」や「活動内容がよくわからない」は若年層ほど多い傾向がみられる。

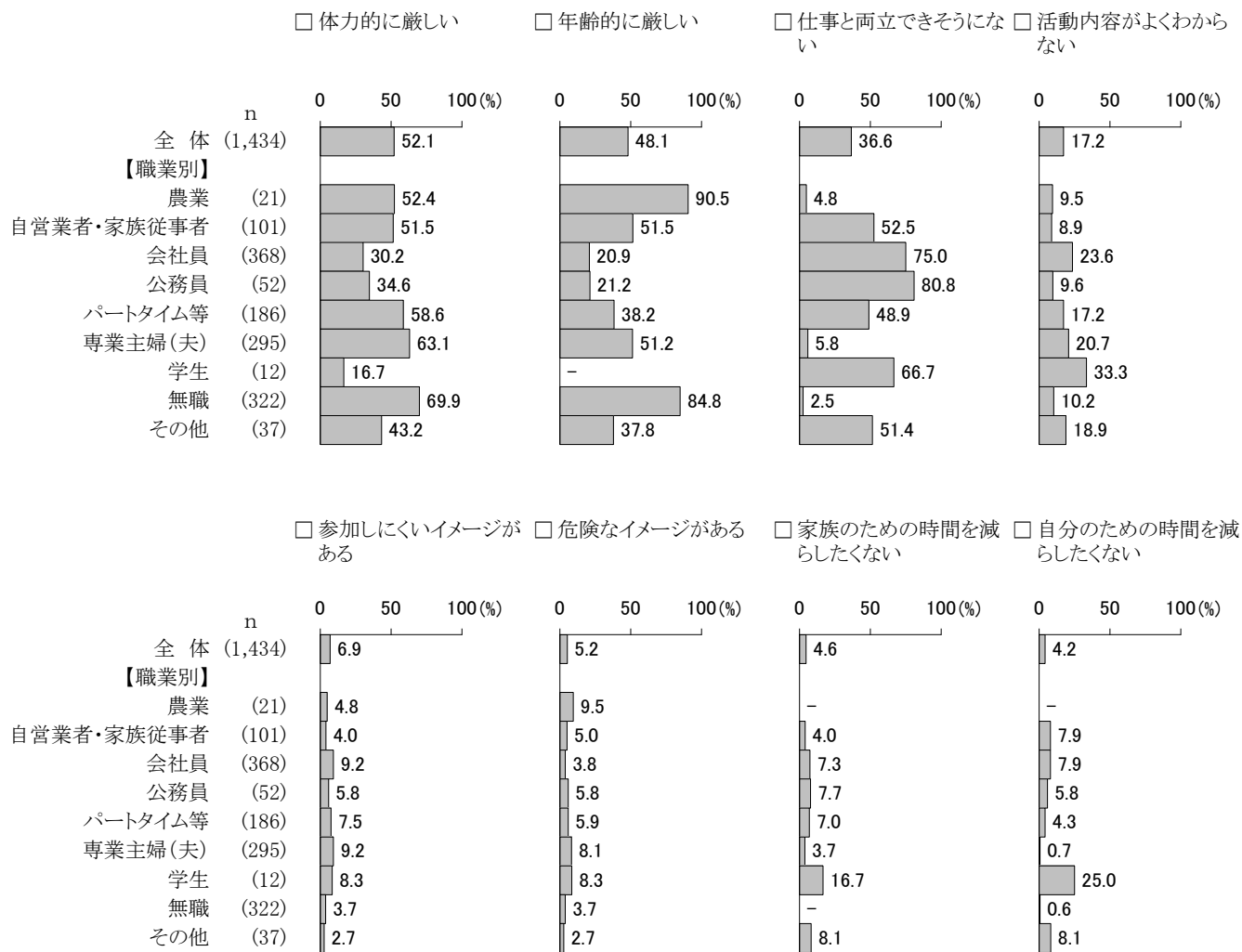
性別／年代別（上位8項目）



第2章 調査結果の詳細

職業別にみると、「体力的に厳しい」と「年齢的に厳しい」は農業と自営業者・家族従事者、パートタイム等と専業主婦（夫）、無職で多く、「仕事と両立できそうにない」は会社員、公務員や学生で多くあげられている。なお、「活動内容がよくわからない」は学生（33.3%）と会社員（23.6%）で比較的多くなっている。

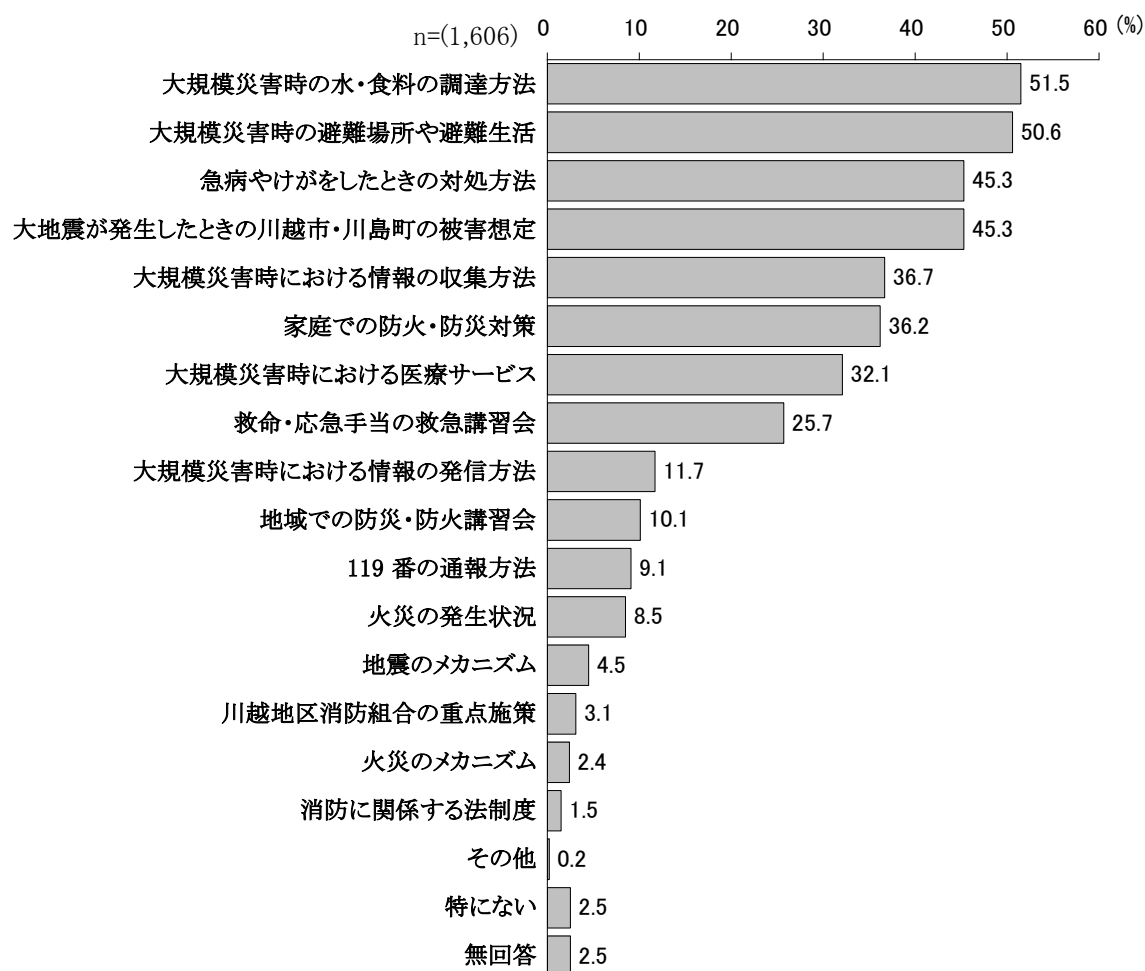
職業別（上位8項目）



5. 消防・救急・防災情報について

(1) 興味のある情報の分野

問18 あなたは、消防・救急・防災に関する情報のうち、どのような分野の情報に興味がありますか。次の中から5つ以内で選んでください。(〇は5つまで)



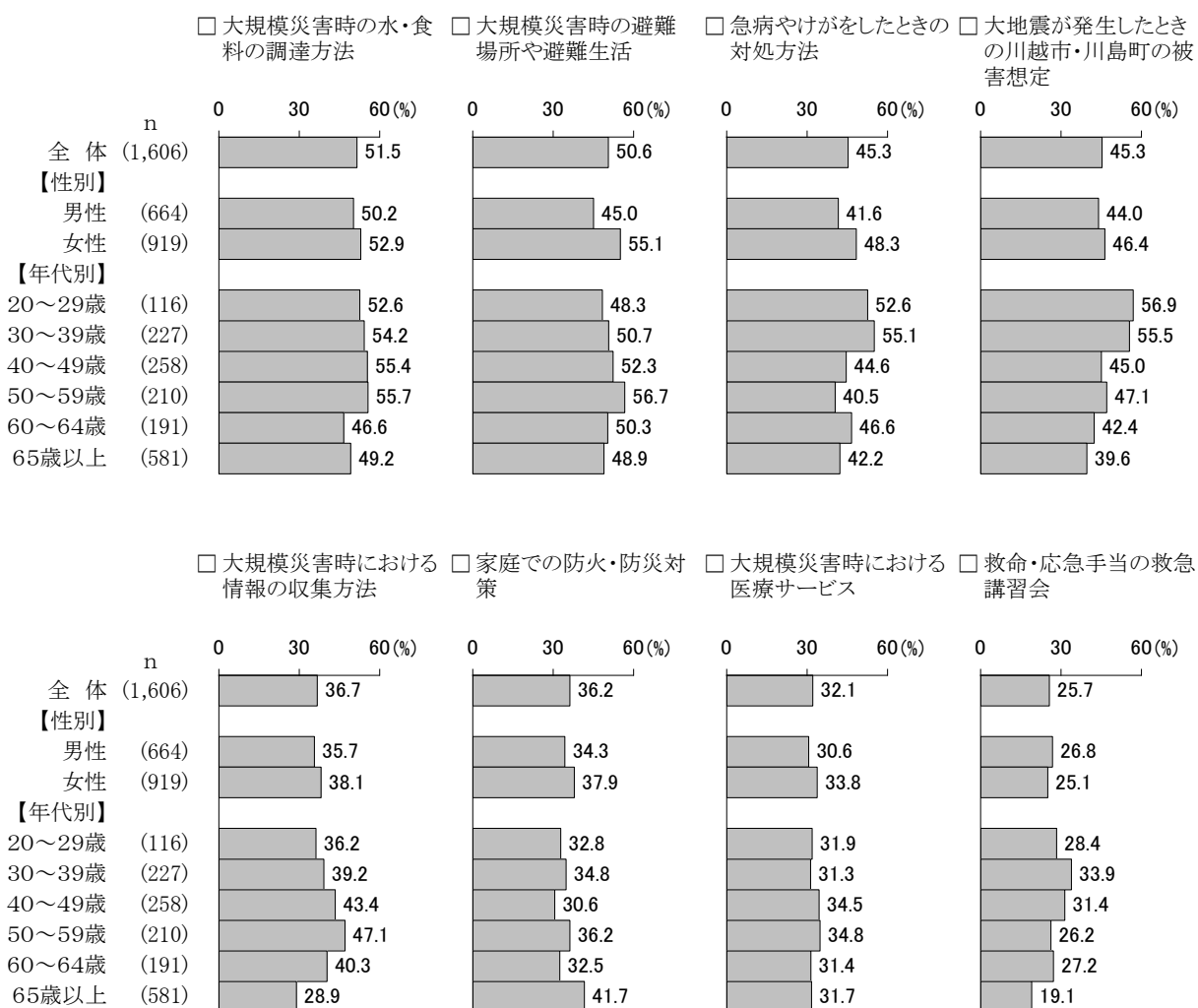
消防・救急・防災に関する情報のうち、興味のある分野を聞いたところ、「大規模災害時の水・食料の調達方法」(51.5%)、「大規模災害時の避難場所や避難生活」(50.6%)が5割台、「急病やけがをしたときの対処方法」、「大地震が発生したときの川越市・川島町の被害想定」(ともに45.3%)が4割台、「大規模災害時における情報の収集方法」(36.7%)、「家庭での防火・防災対策」(36.2%)、「大規模災害時における医療サービス」(32.1%)が3割台で続いている。上位項目には大規模災害に関するものが多くあげられており、関心の高さがうかがえる結果となっている。

第2章 調査結果の詳細

性別にみても傾向に違いはみられないが、「大規模災害時の避難場所や避難生活」（男性：45.0%、女性：55.1%）、「急病やけがをしたときの対処方法」（男性：41.6%、女性：48.3%）などでは女性でより多くあげられている。

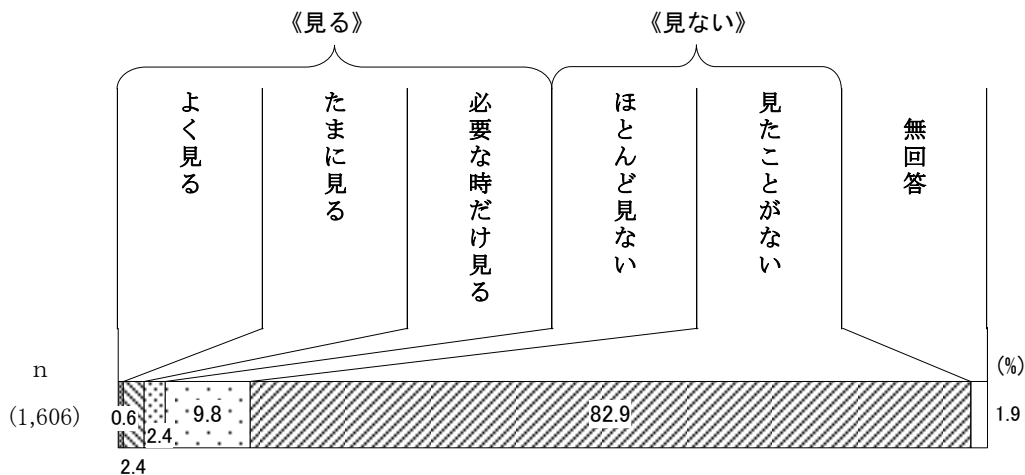
年代別にみても、ほとんどの年代で「大規模災害時の水・食料の調達方法」、「大規模災害時の避難場所や避難生活」、「大地震が発生したときの川越市・川島町の被害想定」及び「急病やけがをしたときの対処方法」が上位4項目となっている。また、「大規模災害時における情報の収集方法」は50～59歳（47.1%）を中心に広い年代で4割前後と多くなっている。

性別／年代別 上位8項目



(2) 川越地区消防組合の公式ホームページの閲覧経験

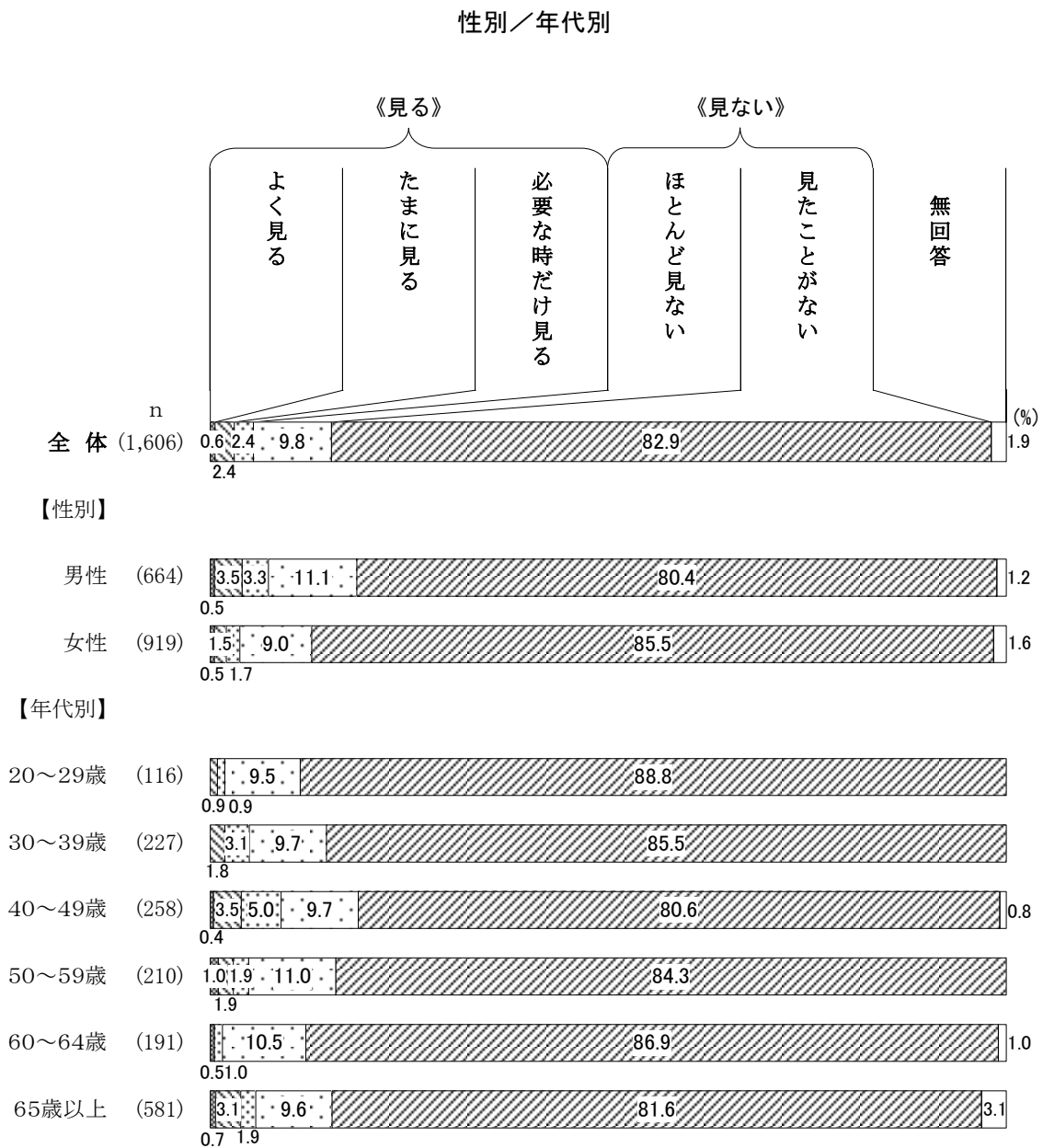
問19 川越地区消防組合では公式ホームページを開設していますが、あなたはこれまでに川越地区消防組合の公式ホームページを見たことがありますか。(〇は1つ)



川越地区消防組合の公式ホームページ (<https://www.119kawagoechiku.jp/>) の閲覧経験は、「見たことがない」が82.9%と多く、これに「ほとんど見ない」(9.8%)を合わせた《見ない》が92.7%を占める。一方、《見る》(「よく見る」、「たまに見る」、「必要な時だけ見る」の計)は5.4%にとどまる。

第2章 調査結果の詳細

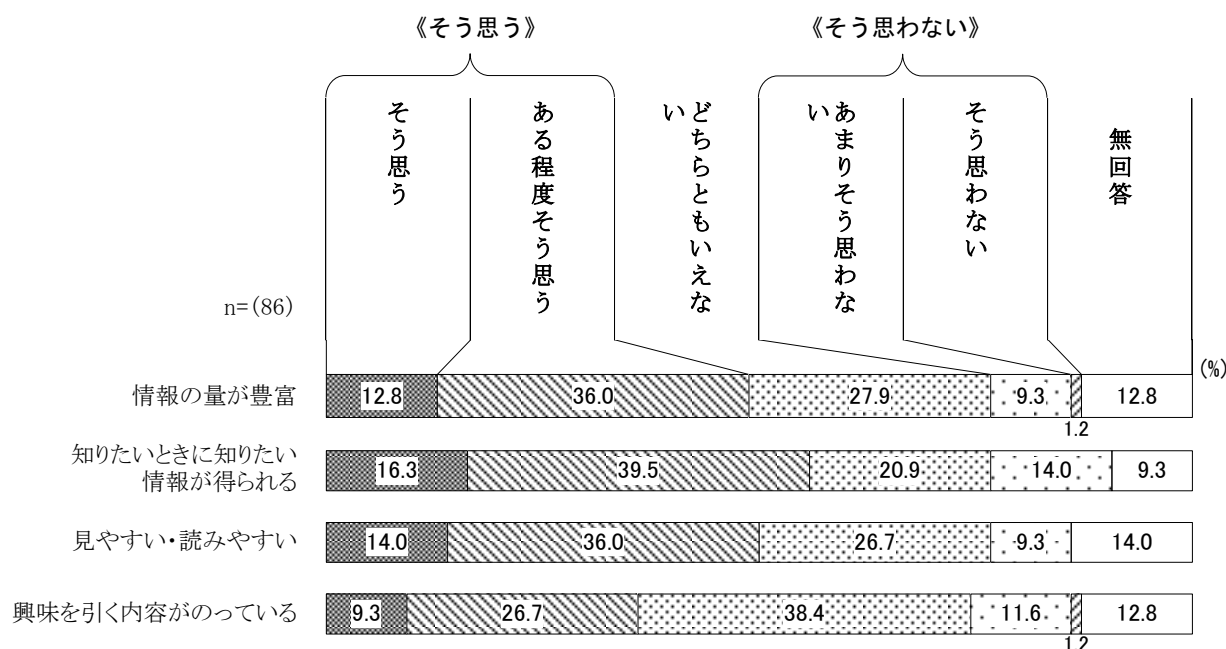
性別、年代別にみても、いずれの層でも《見る》は1割未満にとどまり、《見ない》が多数を占めている。



(3) ホームページを見た感想

【問19で「よく見る」「たまに見る」「必要な時だけ見る」と答えた方におたずねします。】

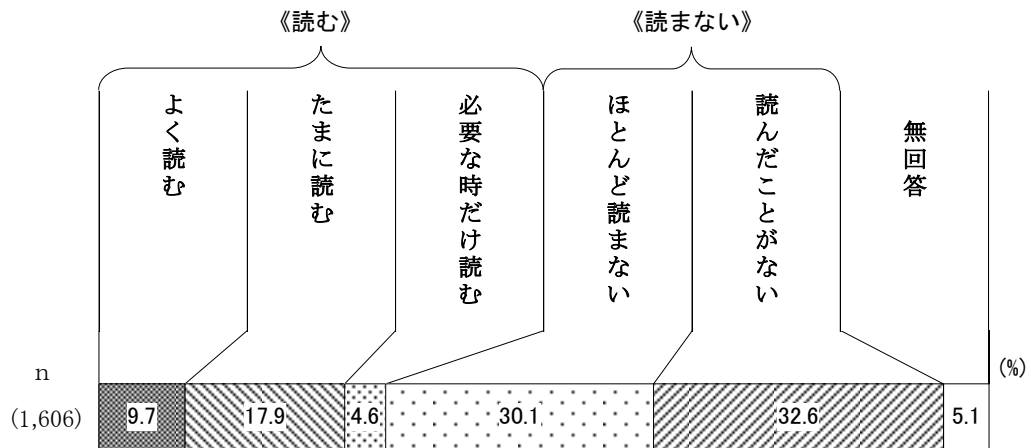
問19-1 川越地区消防組合の公式ホームページを見て、どのように感じましたか。それぞれの項目について、あてはまるものをお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)



川越地区消防組合の公式ホームページを見た感想を《そう思う》(「そう思う」と「ある程度そう思う」の計)で整理すると、《そう思う》が5割を超えるのは、“知りたいときに知りたい情報が得られる”(55.8%)と“見やすい・読みやすい”(50.0%)の2項目となっている。“情報の量が豊富”は48.8%で5割近いが、“興味を引く内容がのっている”は36.0%にとどまっている。

(4) 川越地区消防組合の広報紙の閲読経験

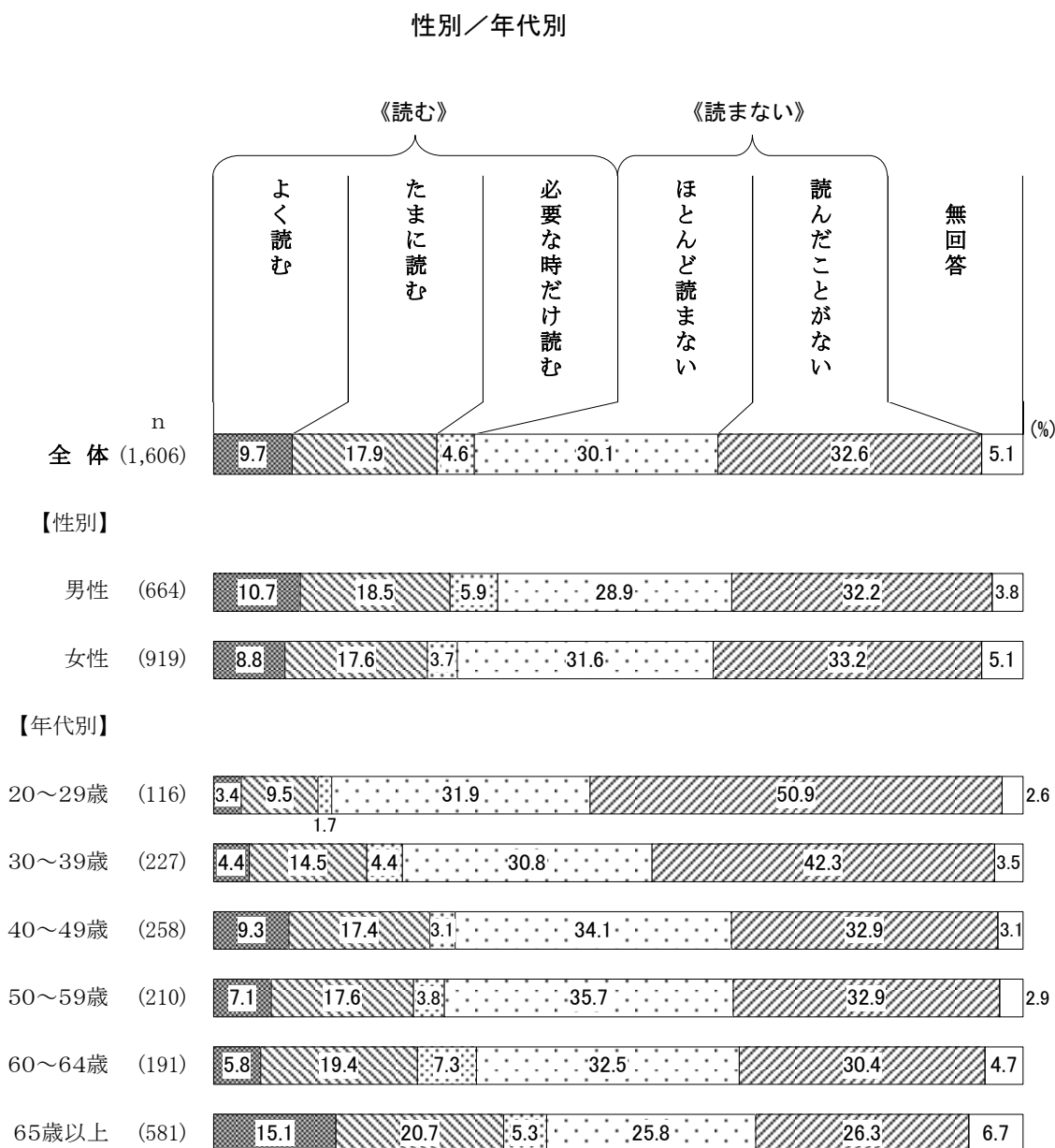
問20 川越地区消防組合では、2月頃、6月頃、11月頃の年3回、広報紙（虹のマーチ）を広報川越・広報かわじまに折り込んで配布していますが、これまでに読んだことはありますか。（○は1つ）



川越地区消防組合の広報紙（虹のマーチ）の閲読経験は、「よく読む」は9.7%、「たまに読む」は17.9%となっており、「必要な時だけ読む」（4.6%）を合わせた《読む》は32.2%となっている。一方、「読んだことがない」（32.6%）と「ほとんど読まない」（30.1%）を合わせた《読まない》は62.7%となっている。

性別にみると、《読む》はいずれも3割台だが、男性（35.1%）が女性（30.1%）を5.0ポイント上回っている。

年代別にみると、《読む》は20～29歳の14.6%から65歳以上の41.1%へと年代が上がるにつれて多くなる傾向となっている。一方、《読まない》はいずれの年代も半数以上となっており、特に20～29歳で82.8%、30～39歳で73.1%となっている。

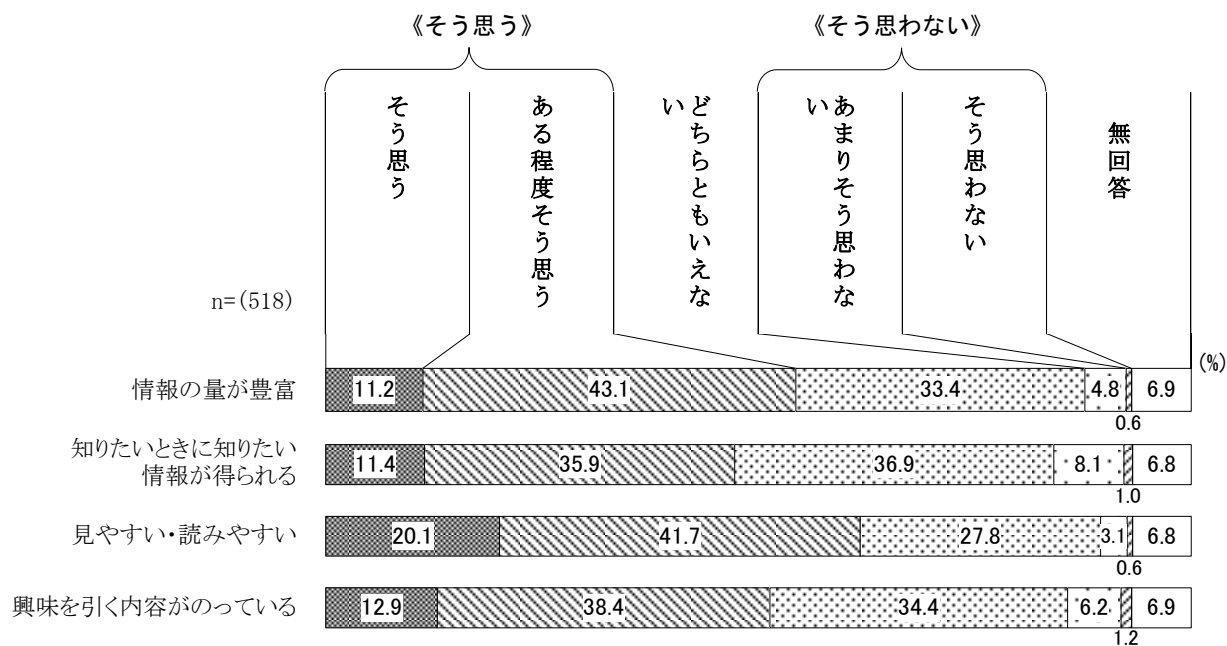


(5) 広報紙を読んだ感想

【問20で「よく読む」「たまに読む」「必要な時だけ読む」と答えた方におたずねします。】

問20-1 川越地区消防組合の広報紙（虹のマーチ）を読んで、どのように感じましたか。それぞれの項目について、あてはまるものをお答えください。

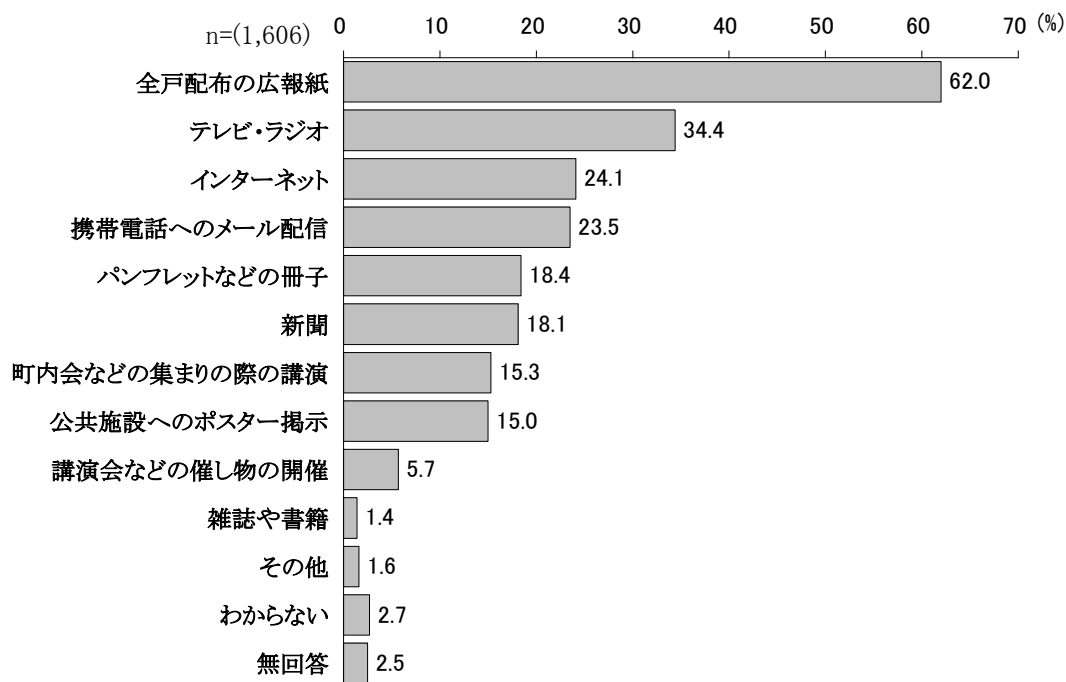
(○はそれぞれ1つずつ)



広報紙（虹のマーチ）を読んだ感想を《そう思う》（「そう思う」と「ある程度そう思う」の計）で整理すると、《そう思う》が5割を超えるのは“見やすい・読みやすい”（61.8%）、“情報の量が豊富”（54.3%）、“興味を引く内容がのっている”（51.3%）の3項目となっている。一方、“知りたいときに知りたい情報が得られる”は47.3%と5割を下回っている。

(6) 望ましい情報提供手段

問21 あなたは、どのような提供手段であれば、消防・救急・防災に関する情報を得やすいと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。(○は3つまで)



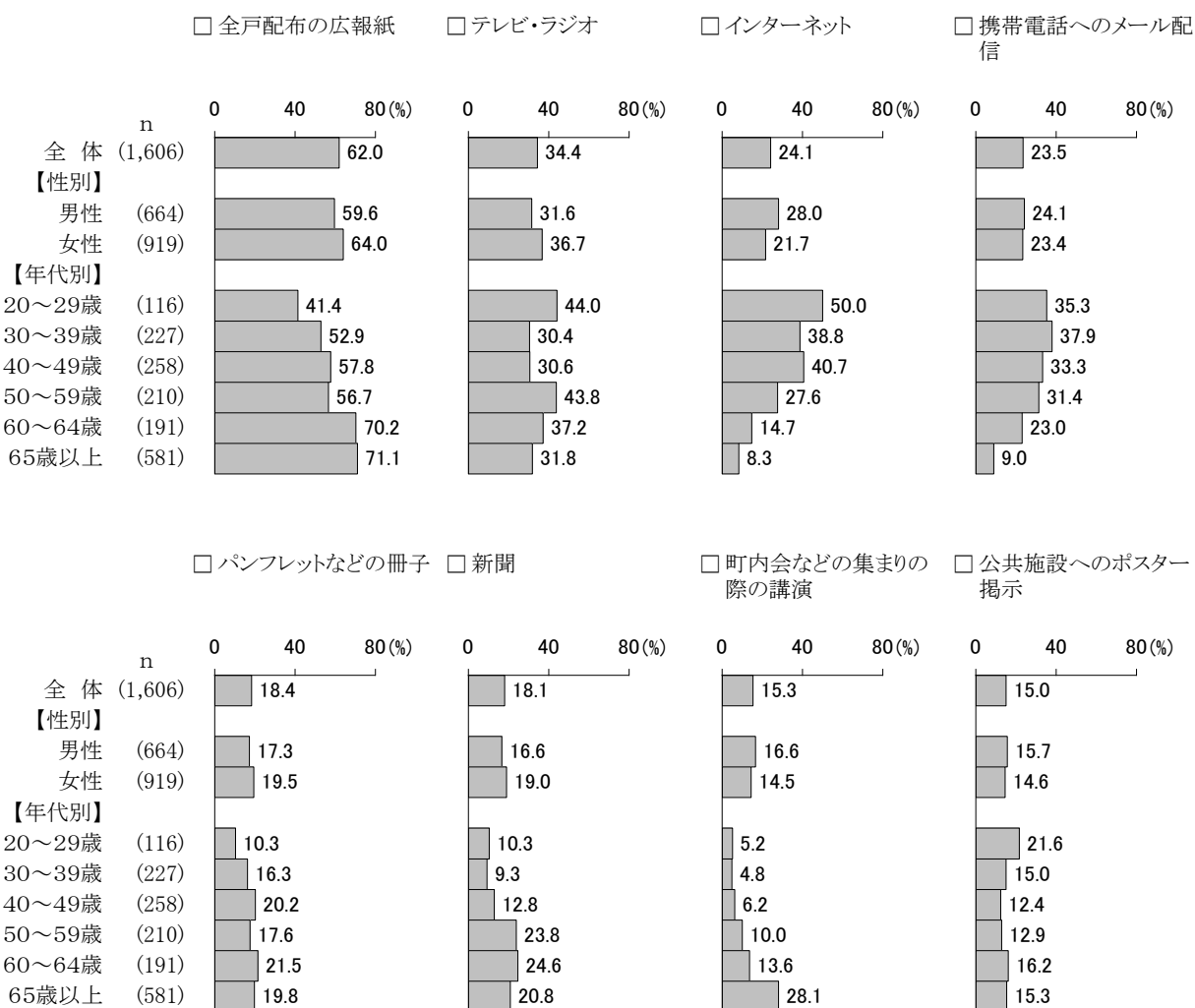
どのような提供手段であれば、消防・救急・防災に関する情報を得やすいと思うか聞いたところ、「全戸配布の広報紙」が62.0%で特に多く、以下、「テレビ・ラジオ」が34.4%、「インターネット」(24.1%)、「携帯電話へのメール配信」(23.5%)が2割台、「パンフレットなどの冊子」(18.4%)、「新聞」(18.1%)、「町内会などの集まりの際の講演」(15.3%)、「公共施設へのポスター掲示」(15.0%)が1割台で続いている。

第2章 調査結果の詳細

性別にみると、「インターネット」は男性（28.0%）が女性（21.7%）を6.3ポイント上回り、「テレビ・ラジオ」は女性（36.7%）が男性（31.6%）を5.1ポイント上回っている。この他は大きな違いはみられない。

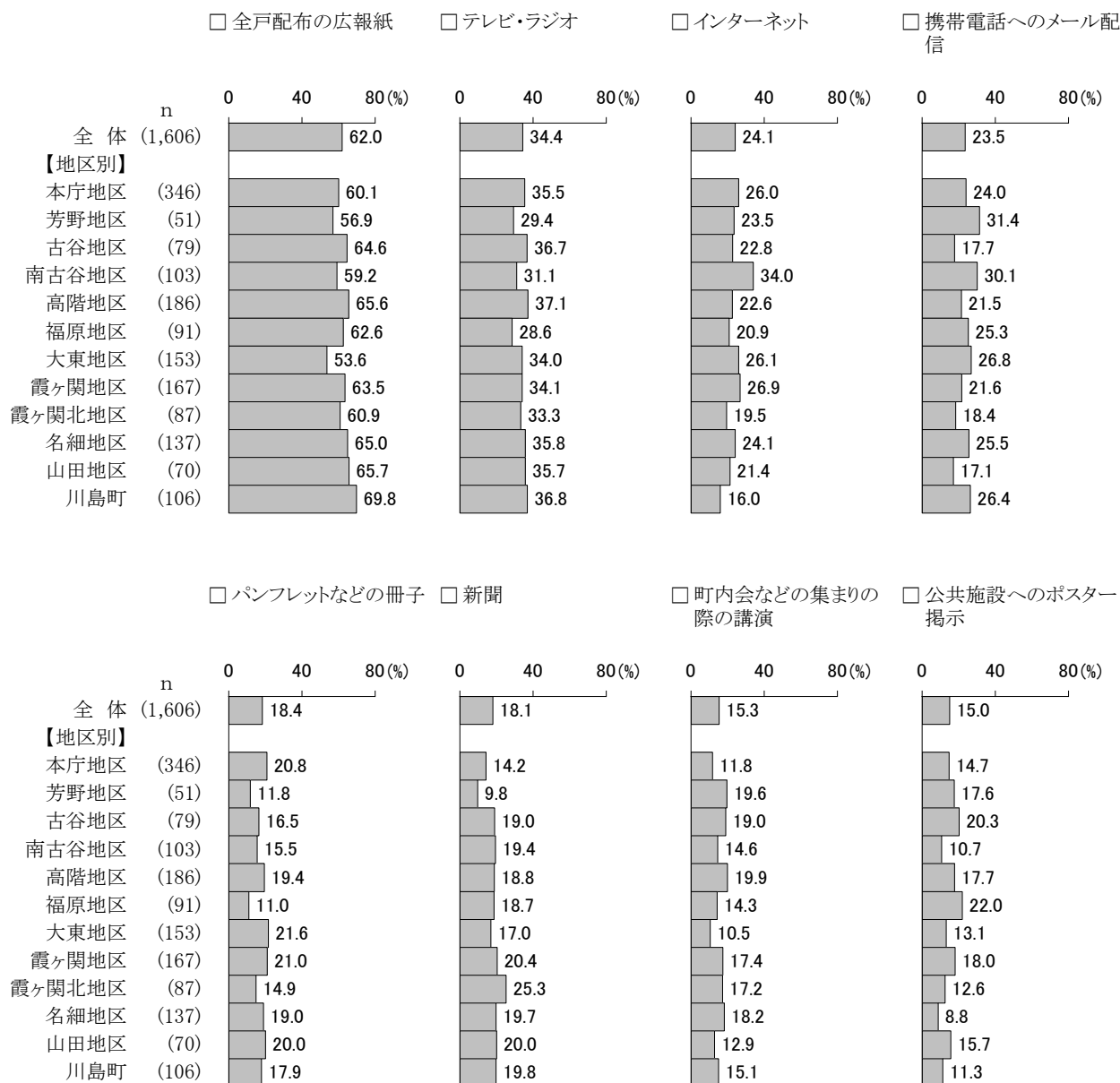
年代別にみると、「全戸配布の広報紙」は20～29歳の41.4%から65歳以上の71.1%へと年代が上がるにつれて多くなる傾向がみられる。「インターネット」、「携帯電話へのメール配信」は若年層ほど多い傾向となっており、特に「インターネット」は20～29歳では50.0%となっている。「町内会などの集まりの際の講演」は65歳以上で28.1%と他の年代より多くなっている。

性別／年代別 上位8項目



地区別にみると、「全戸配布の広報紙」はいずれの地区でも5割から6割台と多く、居住する地区に関わらず必要な情報提供手段としてあげられている。「インターネット」は南古谷地区で、「携帯電話へのメール配信」は芳野地区、南古谷地区でそれぞれ3割台と他の地区より多くなっている。

地区別 上位8項目

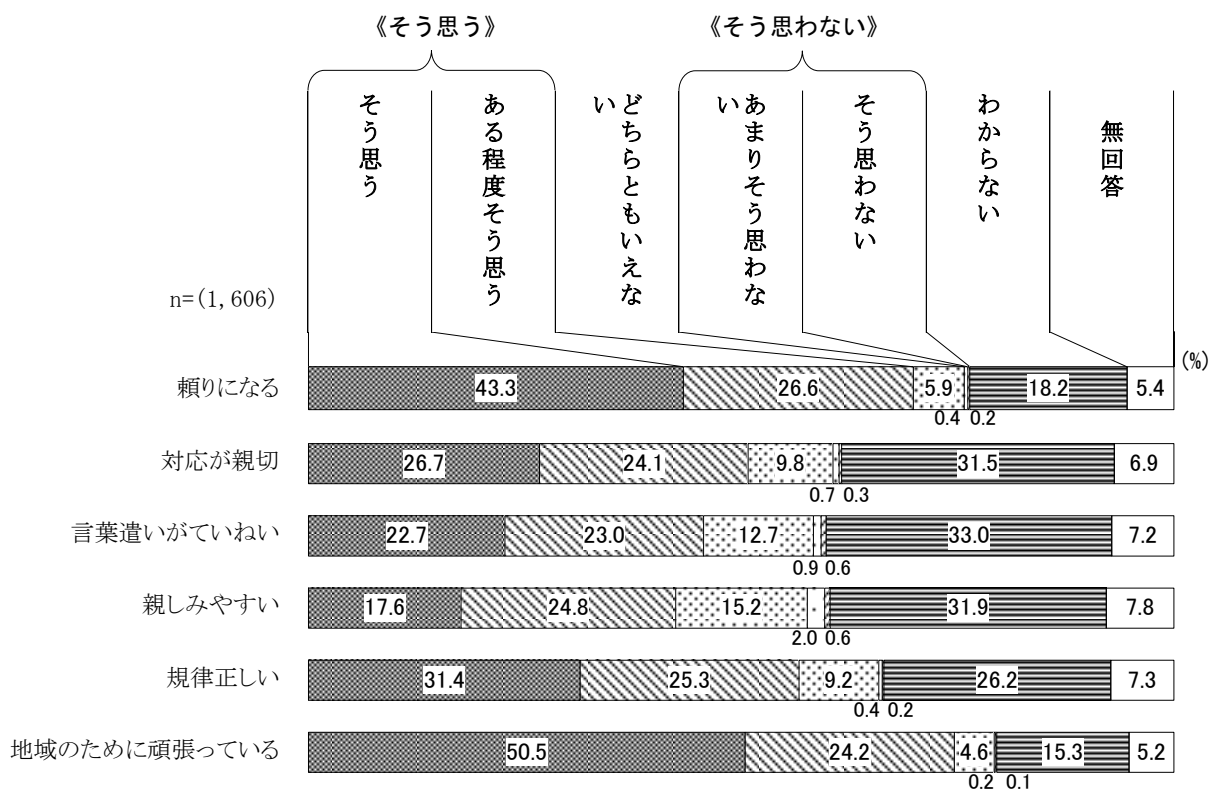


6. 消防組合の取り組みなどについて

(1) 消防職員に対するイメージ

問22 あなたは、川越地区消防組合の消防職員に対し、どのような印象（イメージ）を持っていますか。それぞれの項目について、あてはまるものをお答えください。

(○はそれぞれ1つずつ)

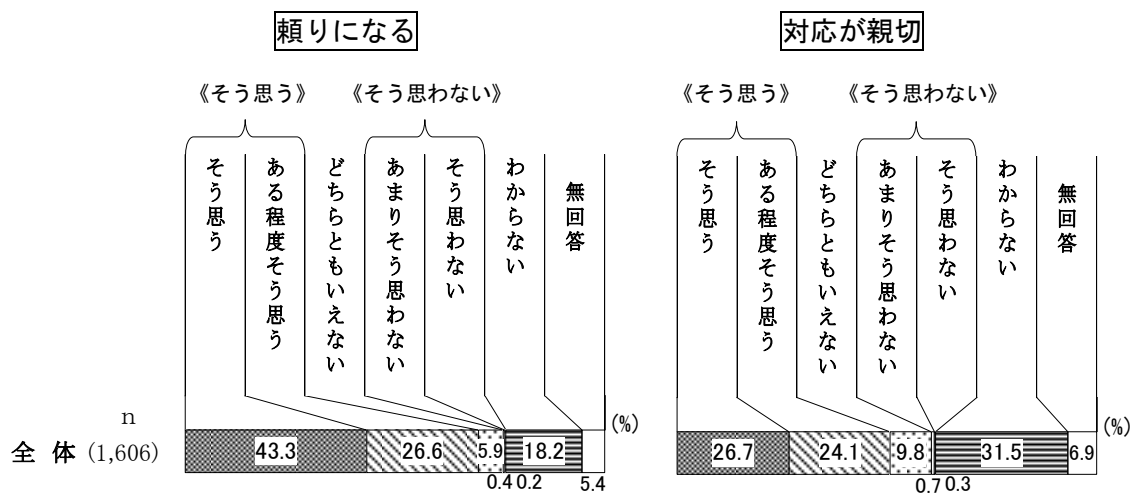


川越地区消防組合の職員に対するイメージを《そう思う》(「そう思う」と「ある程度そう思う」の計)で整理すると、「地域のために頑張っている」が74.7%で特に多く、「頼りになる」(69.9%)も約7割に達している。この他、「規律正しい」(56.7%)、「対応が親切」(50.8%)なども5割台となっている。「言葉遣いがいい」、「親しみやすい」は4割台であった。一方、《そう思わない》(「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計)は、いずれも1割未満となっている。

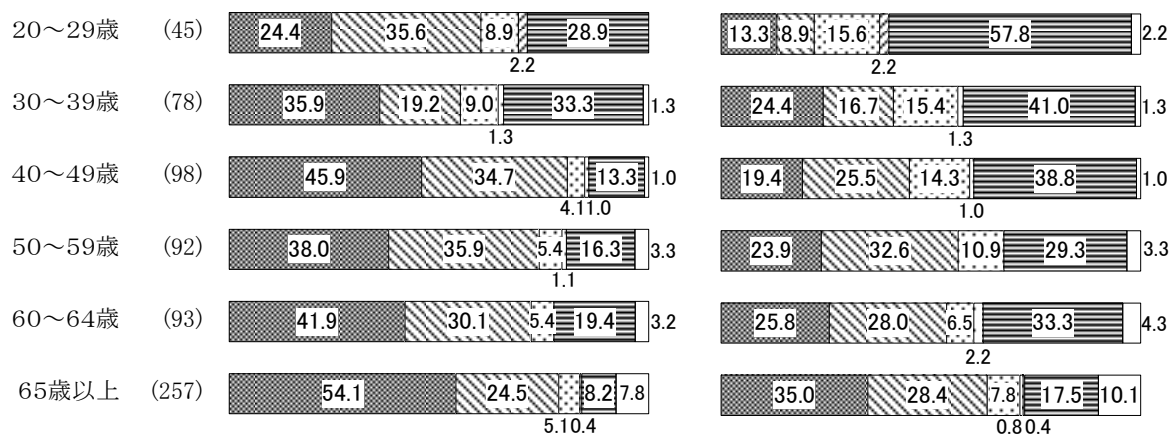
性・年代別にみると、多くの項目で男女とも40歳代以上の《そう思う》が多くなっている。

20～29歳、30～39歳では「わからない」が比較的多くなっているが、《そう思わない》はすべての項目において、いずれの層でも1割未満となっており、消防職員に対して否定的な印象を持つ人は極めて少ない。

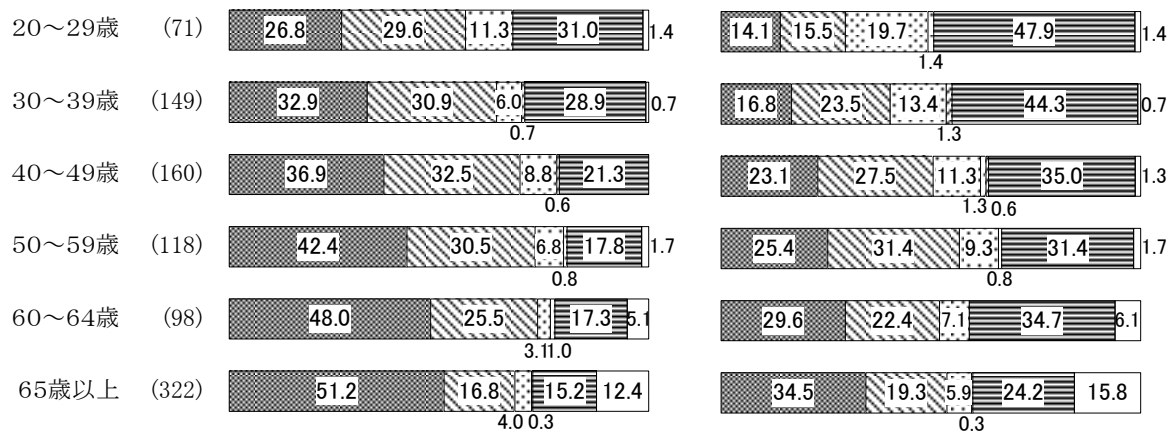
性・年代別



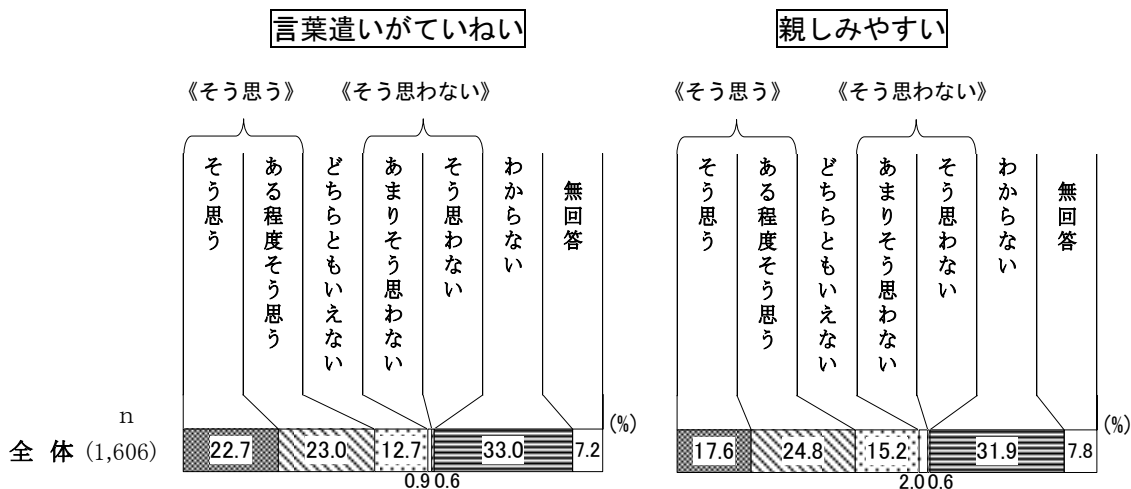
【性・年代別－男性】



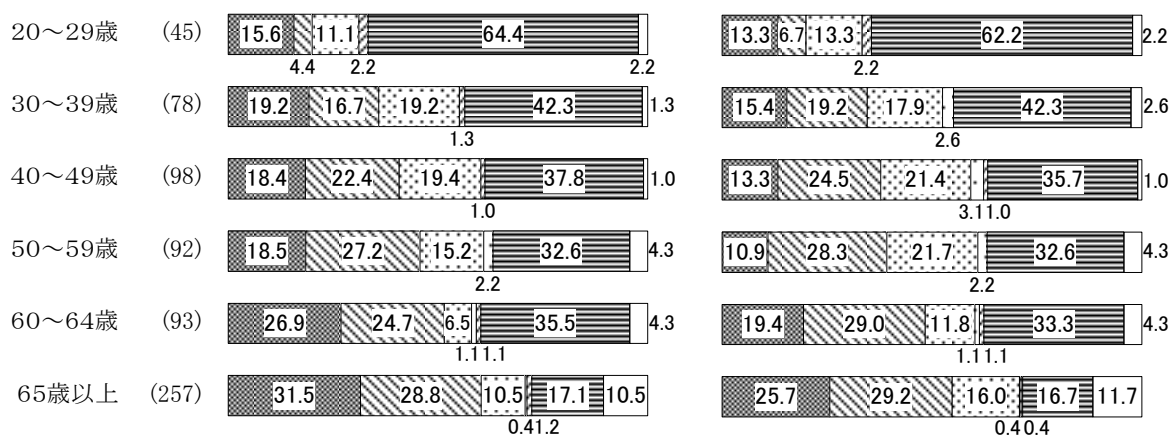
【性・年代別－女性】



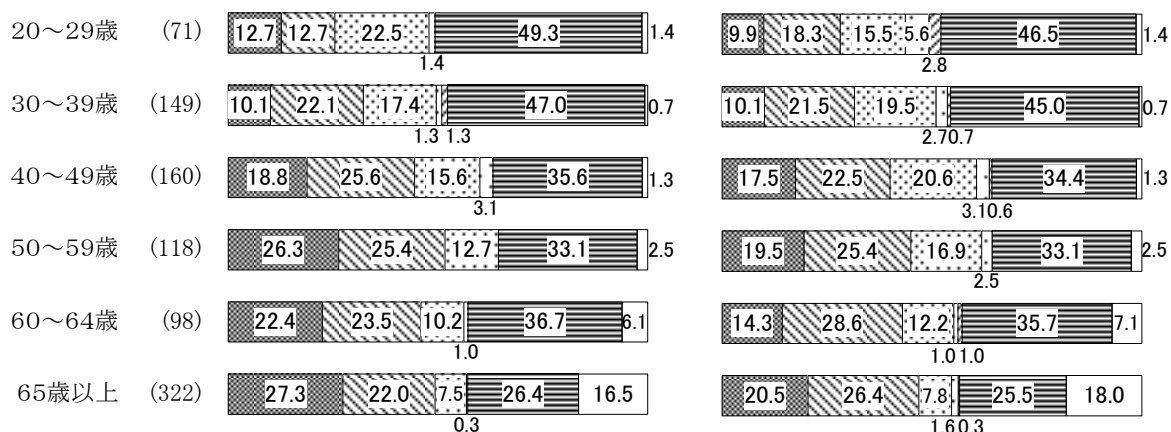
性・年代別



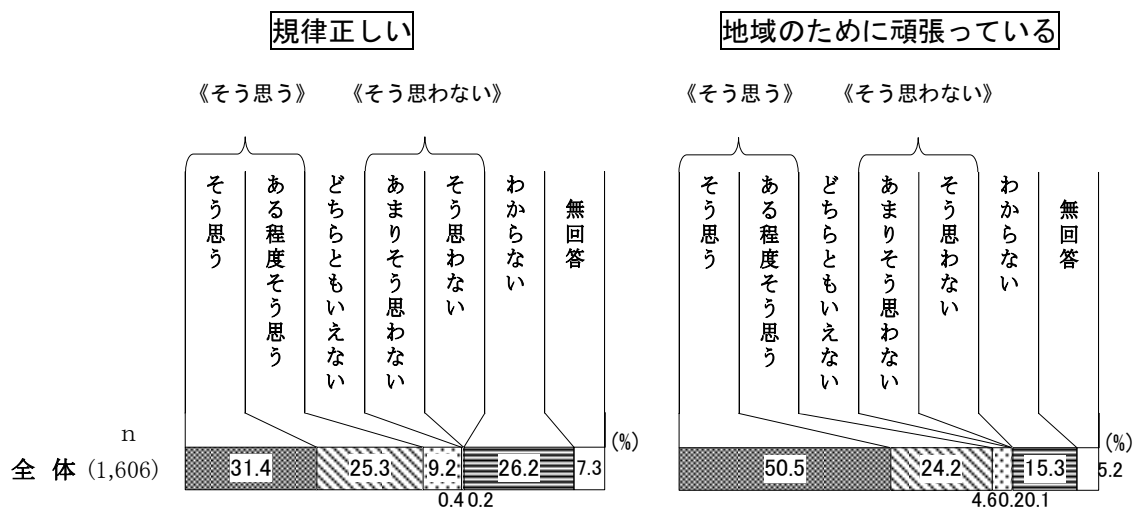
【性・年代別—男性】



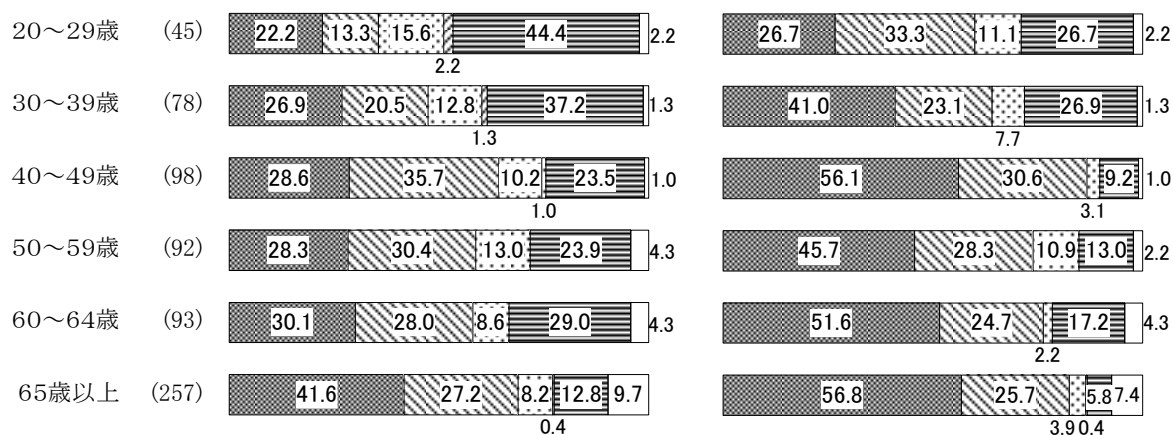
【性・年代別—女性】



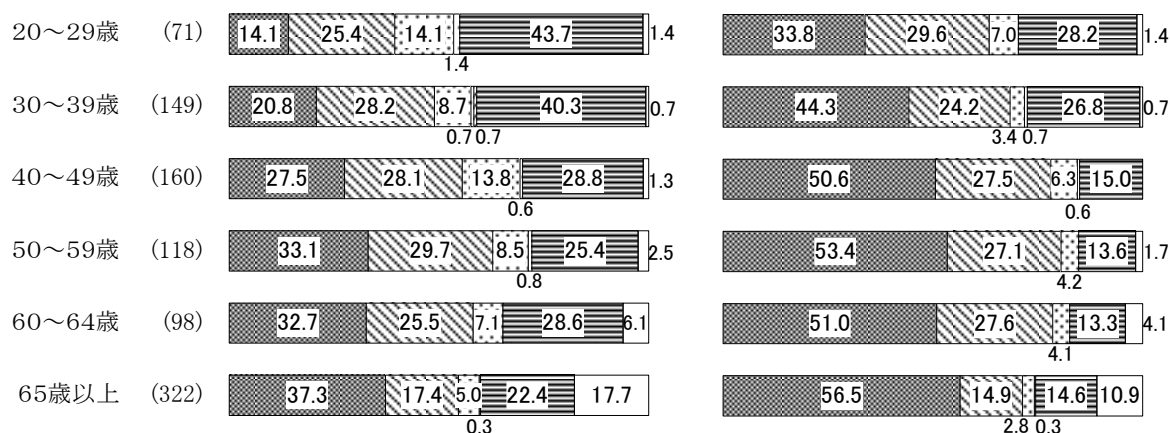
性・年代別



【性・年代別—男性】

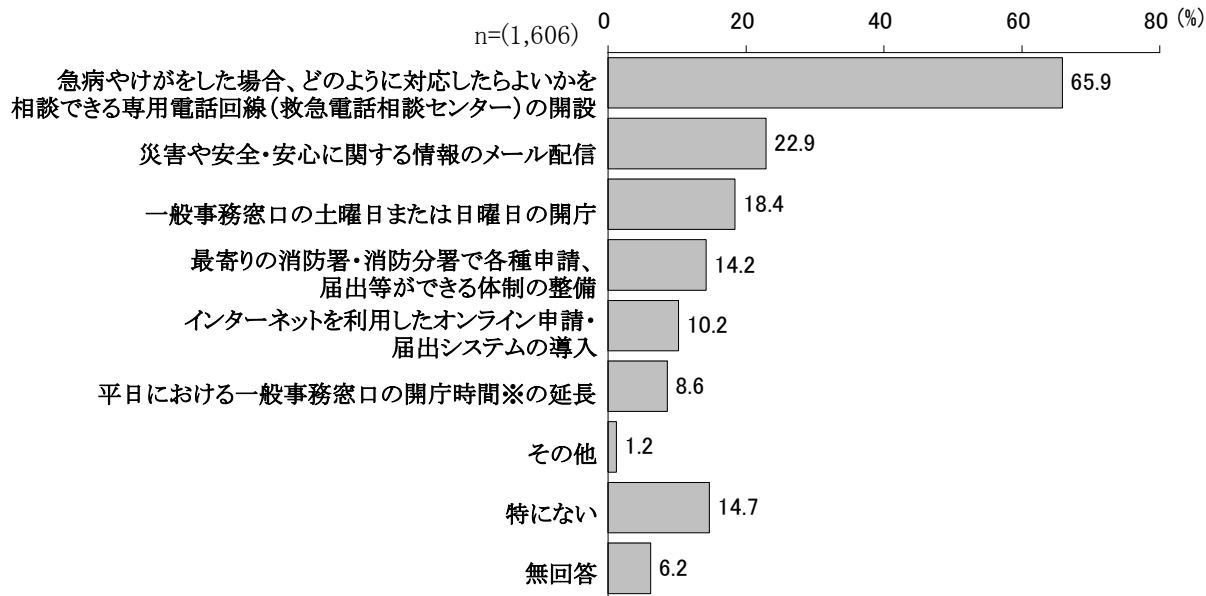


【性・年代別—女性】



(2) 導入してほしい行政サービス

問23 あなたが、川越地区消防組合に実施または導入してほしいと考える行政サービスはどのようなものですか。次の中から3つ以内で選んでください。(〇は3つまで)



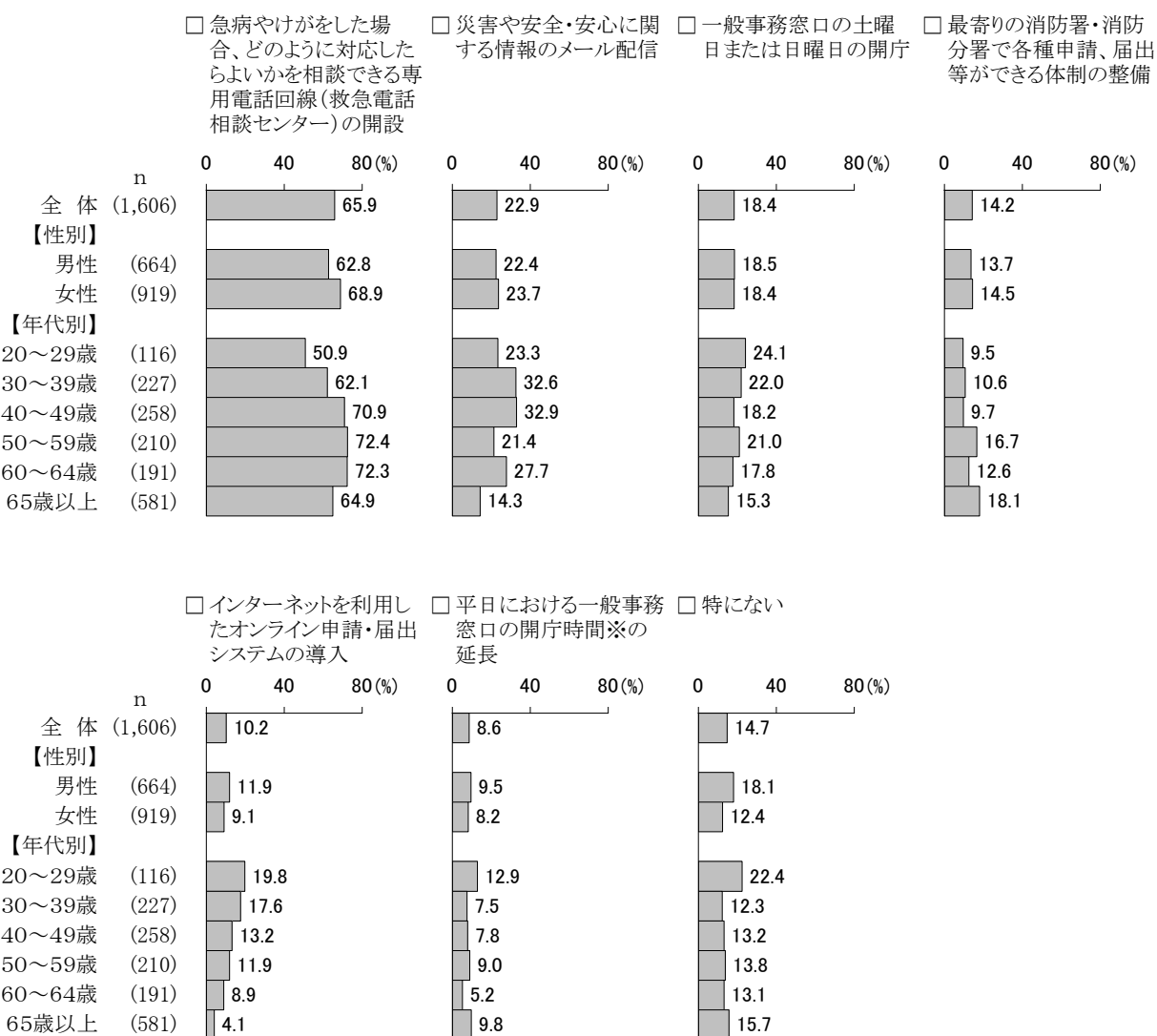
※現在の開庁時間は、8:30から17:15まで

川越地区消防組合に実施または導入してほしいと考える行政サービスは、「急病やけがをした場合、どのように対応したらよいかを相談できる専用電話回線（救急電話相談センター）の開設」が65.9%で特に多くなっている。以下、「災害や安全・安心に関する情報のメール配信」（22.9%）、「一般事務窓口の土曜日または日曜日の開庁」（18.4%）、「最寄りの消防署・消防分署で各種申請、届出等ができる体制の整備」（14.2%）などが続いている。

性別にみると、男女ともに「急病やけがをした場合、どのように対応したらよいかを相談できる専用電話回線（救急電話相談センター）の開設」が特に多くなっている。

年代別にみても、「急病やけがをした場合、どのように対応したらよいかを相談できる専用電話回線（救急電話相談センター）の開設」は各年代で最も多くあげられている。また、40歳から64歳まででは7割台と特に多くなっている。この他、「災害や安全・安心に関する情報のメール配信」は30～39歳（32.6%）、40～49歳（32.9%）で3割台、「インターネットを利用したオンライン申請・届出システムの導入」は20～29歳（19.8%）、30～39歳（17.6%）で2割近くとなっている。

性別／年代別 上位6項目＋特にない

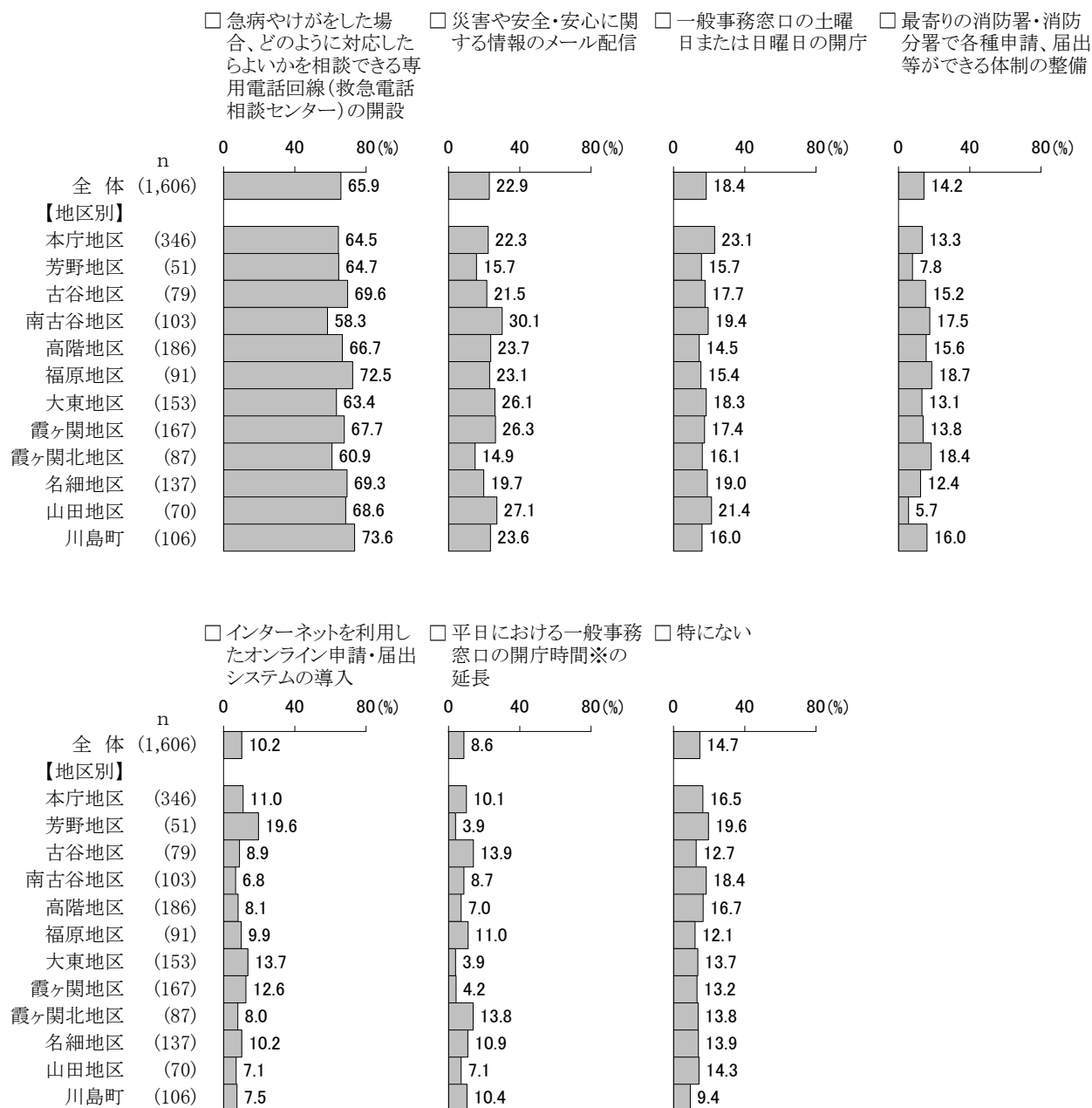


※現在の開庁時間は、8:30から17:15まで

第2章 調査結果の詳細

地区別にみても、「急病やけがをした場合、どのように対応したらよいかを相談できる専用電話回線（救急電話相談センター）の開設」はすべての地区で最も多くあげられている。全体的に各地区で共通した傾向となっているが、その中では南古谷地区では、「災害や安全・安心に関する情報のメール配信」が30.1%、芳野地区は「インターネットを利用したオンライン申請・届出システムの導入」が19.6%と比較的多くなっている。

地区別 上位6項目+特にな

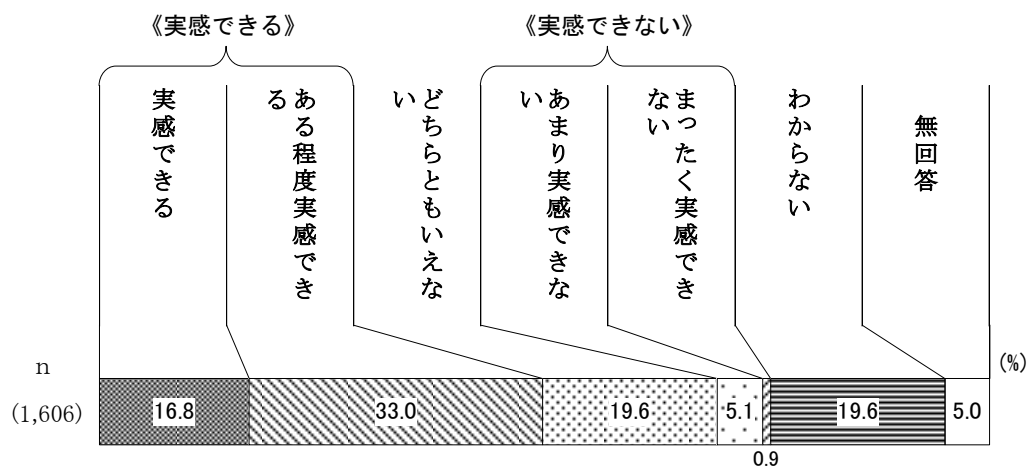


※現在の開庁時間は、8:30から17:15まで

(3) 消防・救急・防災面での安全・安心の実感度

問24 あなたは、川越地区消防組合の管内（川越市・川島町）に住んでいて、消防・救急・防災の面で「安全・安心」を実感できますか。次の中から1つだけ選んでください。

（○は1つ）

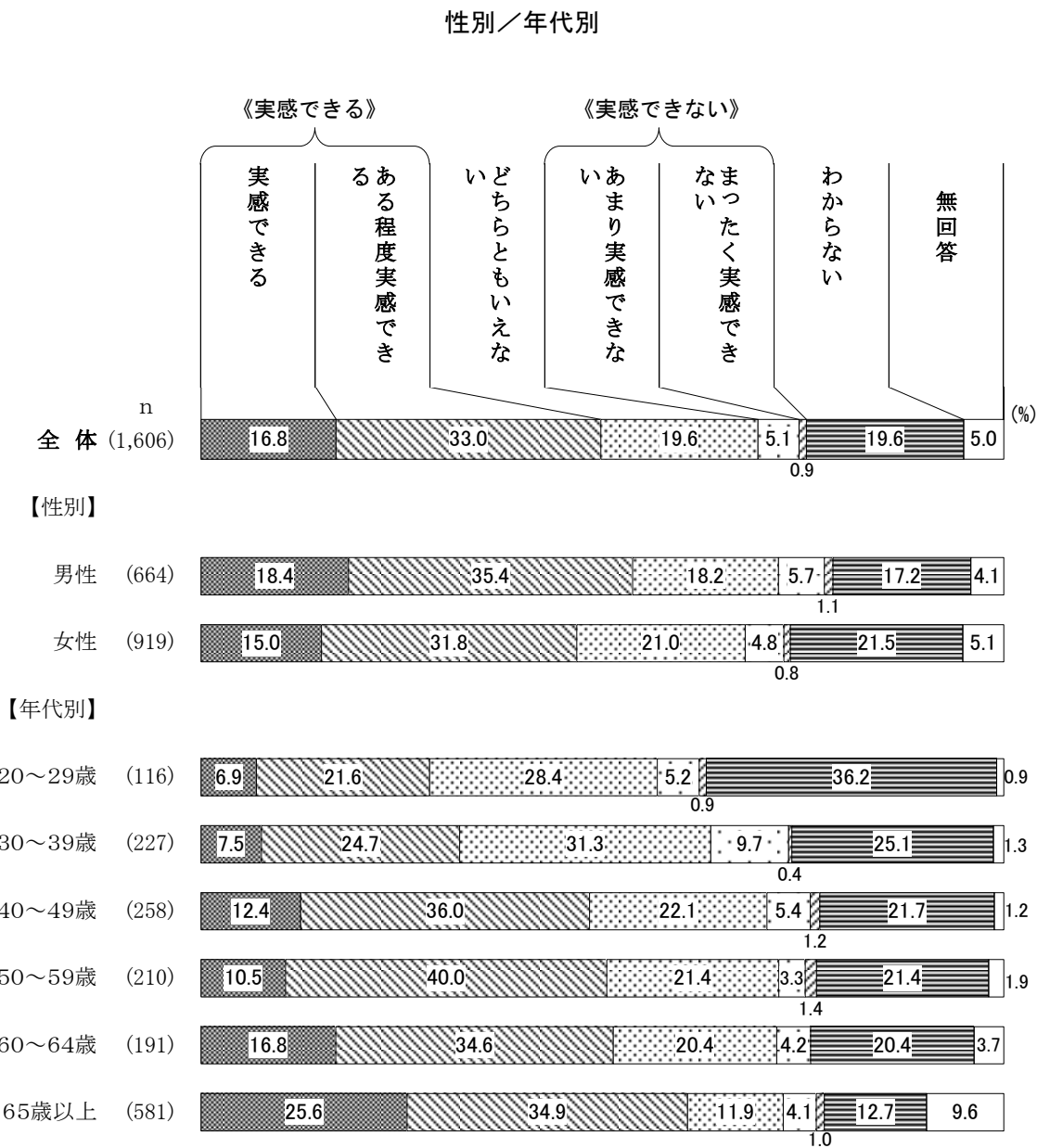


川越地区消防組合の管内（川越市・川島町）に住んでいて、消防・救急・防災の面で『安全・安心』を実感できるかでは、「実感できる」が16.8%で、これに「ある程度実感できる」（33.0%）を合わせた《実感できる》は約半数（49.8%）となっている。一方、《実感できない》（「まったく実感できない」と「あまり実感できない」の計）は6.0%にとどまる。なお、「どちらともいえない」、「わからない」がともに19.6%と比較的多くなっている。

第2章 調査結果の詳細

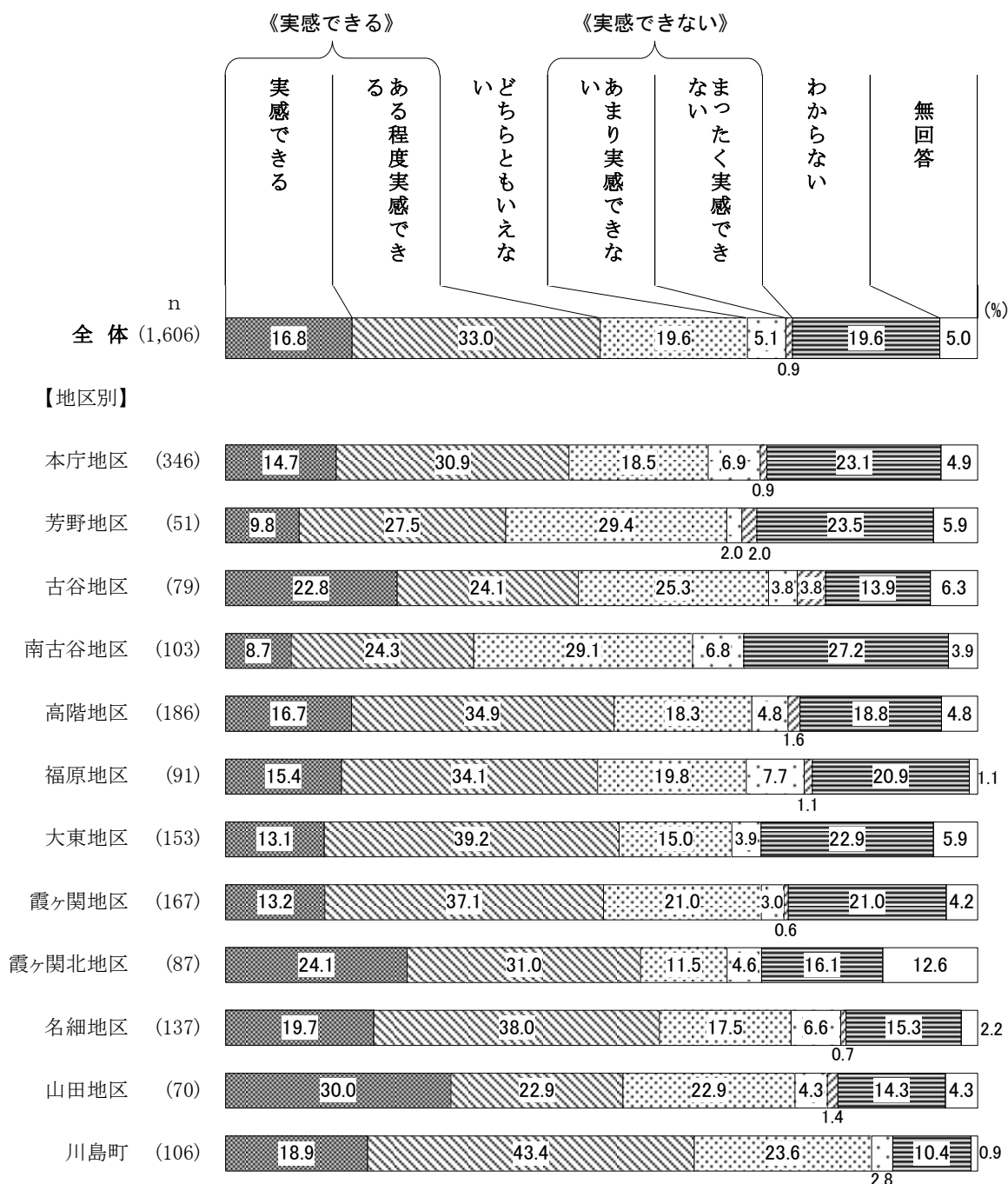
性別にみると、《実感できる》は男性では53.8%、女性では46.8%となっている。

年代別にみると、《実感できる》は20～29歳では28.5%にとどまるが、年代が上がるにつれて上昇し、65歳以上では60.5%と多くなっている。一方、《実感できない》はどの年代でも少数だが30～39歳では10.1%と唯一1割を超えている。



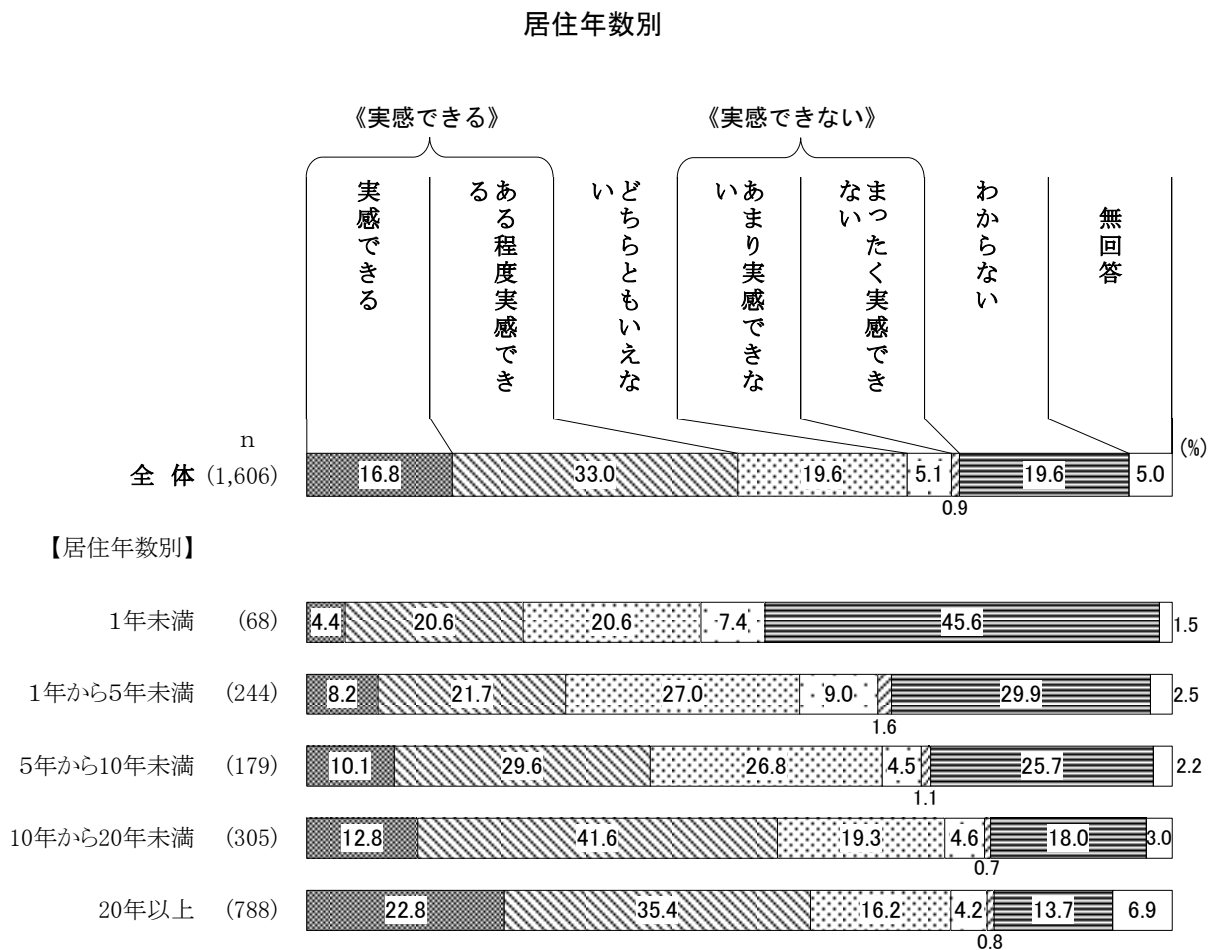
地区別にみると、《実感できる》は川島町が62.3%と多く、名細地区、霞ヶ関北地区、山田地区、大東地区、高階地区、霞ヶ関地区でも5割台となっている。一方、芳野地区（37.3%）、南古谷地区（33.0%）では3割台となっている。なお、《実感できない》はいずれも1割未満である。

地区別



第2章 調査結果の詳細

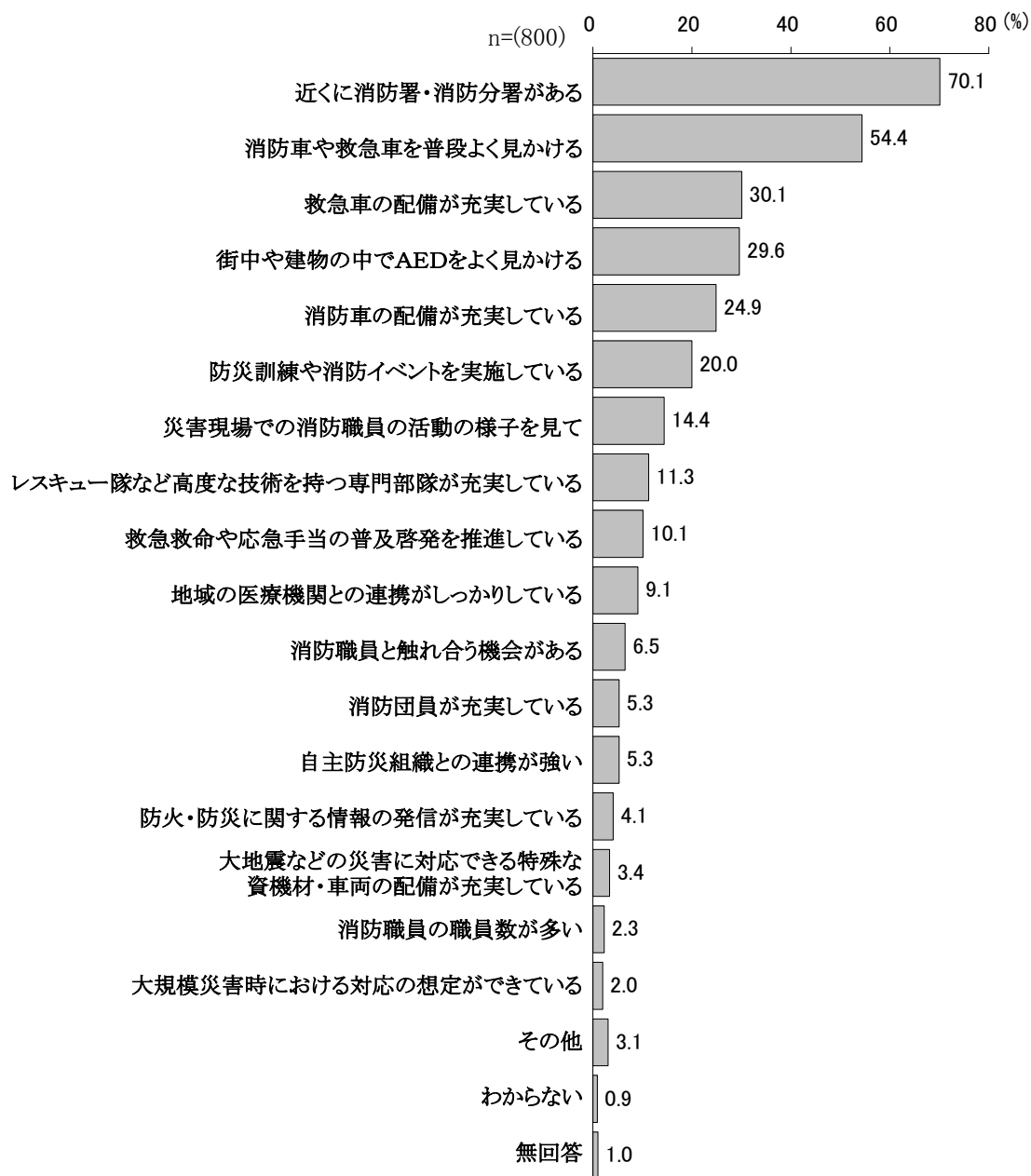
居住年数別にみると、《実感できる》は居住年数が長いほど割合が高く、1年未満では25.0%にとどまるが、10年から20年未満（54.4%）で5割を超え、20年以上では58.2%となっている。なお、《実感できない》は1年から5年未満で10.6%と唯一1割を超えている。



(4) 安全・安心を実感できる理由

【問24で「実感できる」または「ある程度実感できる」と答えた方におたずねします。】

問24-1 「安全・安心」を実感できる理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(○はあてはまるものすべて)



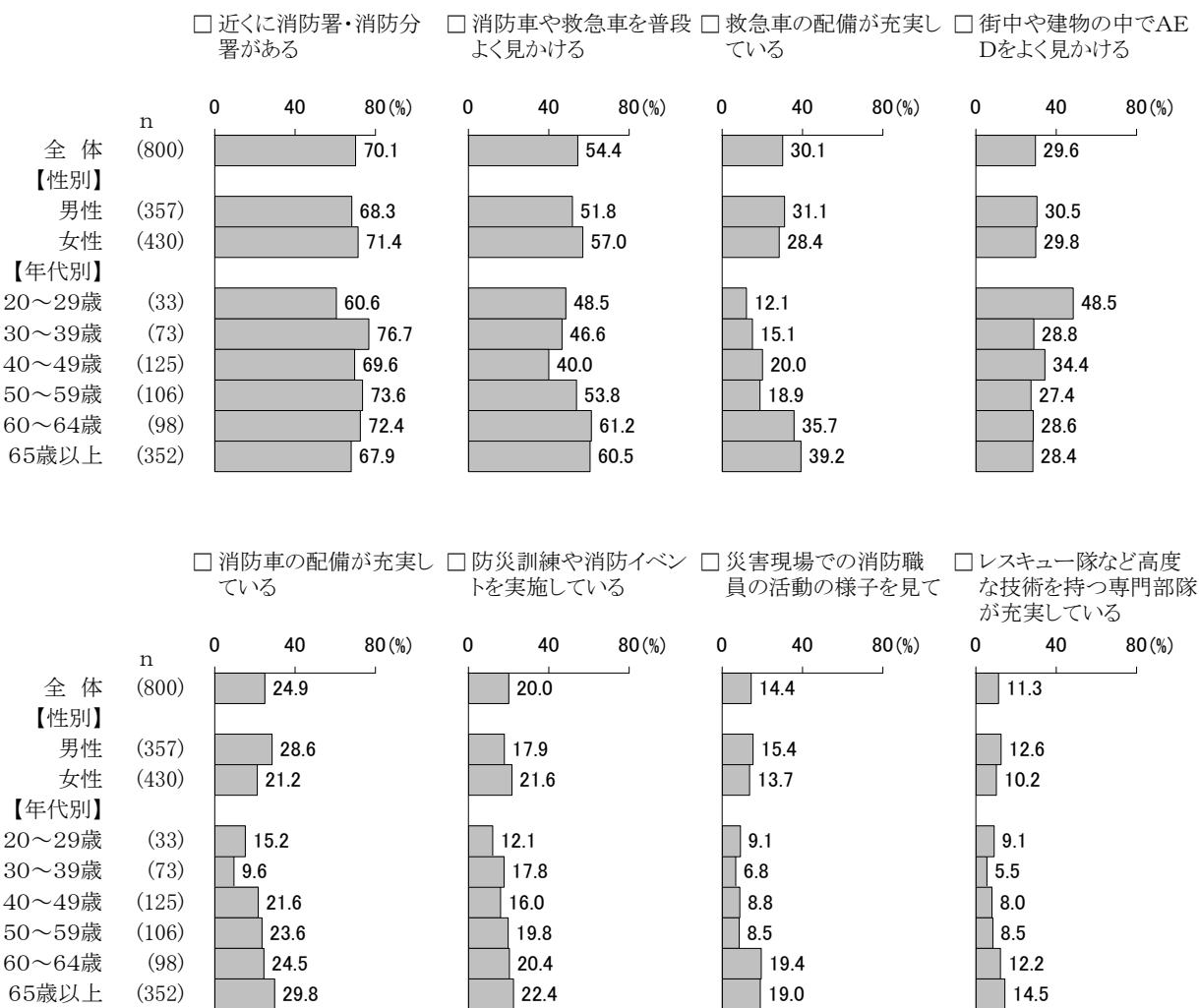
『安全・安心』を実感できる理由は、「近くに消防署・消防分署がある」が70.1%で最も多く、これに「消防車や救急車を普段よく見かける」が54.4%で続いている。以下、「救急車の配備が充実している」が30.1%、「街中や建物の中でAEDをよく見かける」(29.6%)、「消防車の配備が充実している」(24.9%)、「防災訓練や消防イベントを実施している」(20.0%)が2割台で続いている。

第2章 調査結果の詳細

性別にみても顕著な違いはないが、「近くに消防署・消防分署がある」、「消防車や救急車を普段よく見かける」、「防災訓練や消防イベントを実施している」では女性からより多くあげられている。

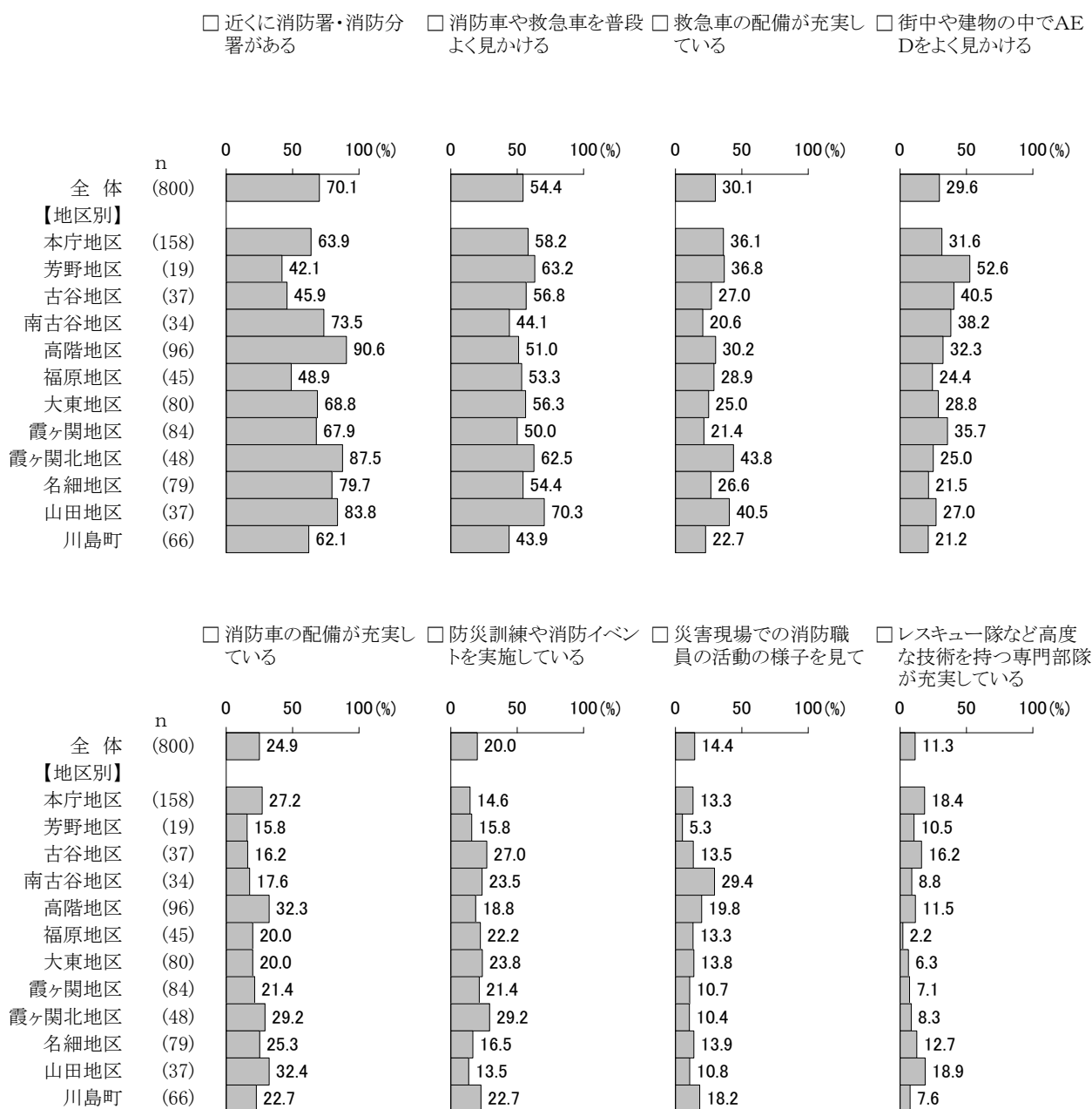
年代別にみると、「近くに消防署・消防分署がある」は各年代で最も多くなっている。また、60歳代以上では「消防車や救急車を普段よく見かける」や「救急車の配備が充実している」などの緊急車両の配置や日頃の活動に関する項目も比較的多くあげられている。一方、20～29歳では「街中や建物の中でAEDをよく見かける」が48.5%と5割近くに達している。

性別／年代別（上位8項目）



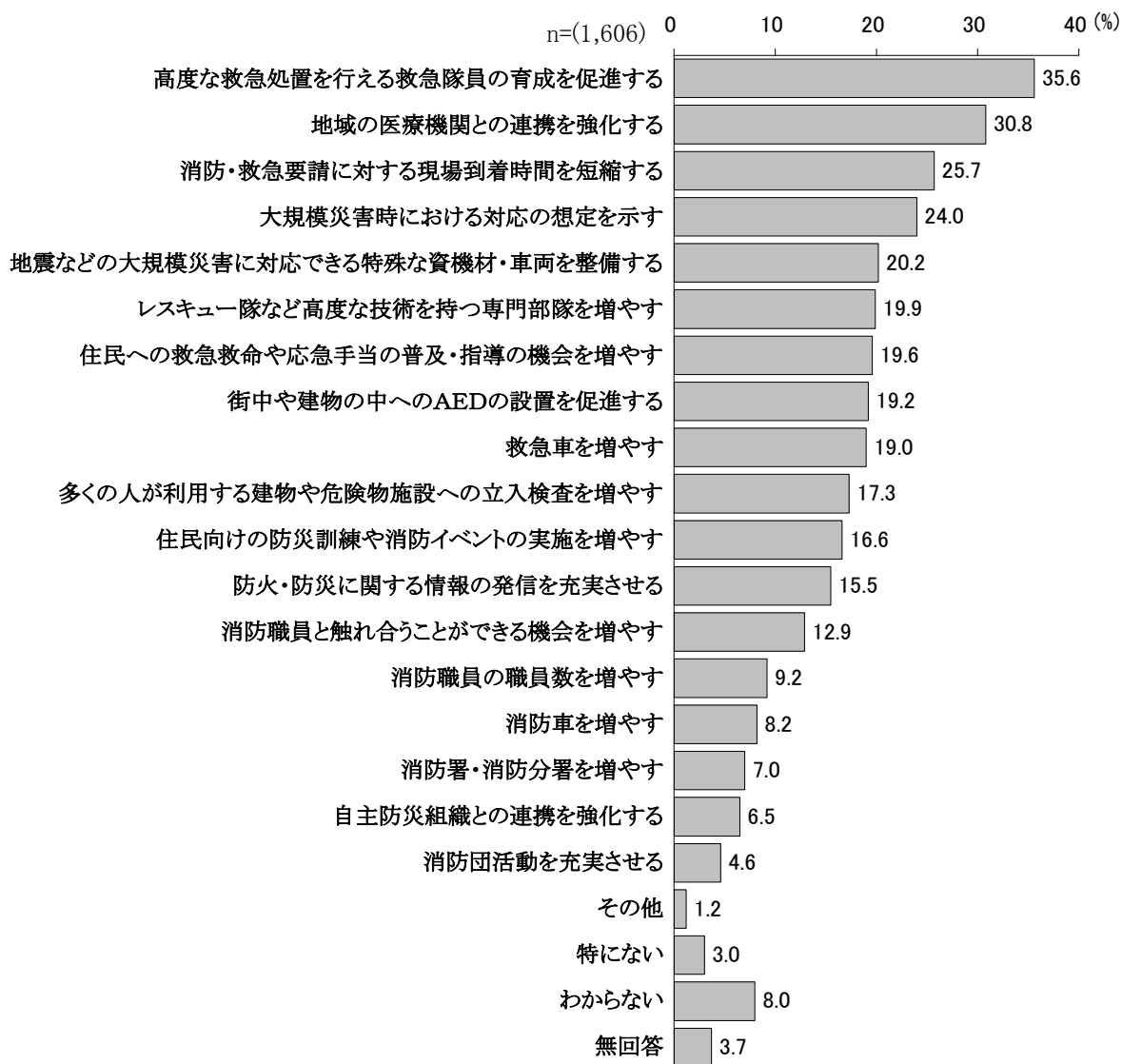
地区別にみると、「近くに消防署・消防分署がある」は高階地区で90.6%に達し、霞ヶ関北地区と山田地区で8割台、南古谷地区と名細地区でも7割台と多くなっているが、芳野地区、古谷地区および福原地区では4割台と少なく、地区による違いが大きい。「消防車や救急車を普段よく見かける」と「救急車の配備が充実している」は霞ヶ関北地区と山田地区で、「街中や建物の中でAEDをよく見かける」は芳野地区や古谷地区などで比較的多くなっている。この他、「防災訓練や消防イベントを実施している」は古谷地区と霞ヶ関北地区で3割弱、「災害現場での消防職員の活動の様子を見て」は南古谷地区で29.4%と比較的多くなっている。

地区別（上位8項目）



(5) 充実すべき施策

問25 消防・救急・防災の面で「安全・安心」をより一層実感できるよう、川越地区消防組合が今後、特に力を入れて取り組むべきと思うことは何ですか。次の中から5つ以内で選んでください。(〇は5つまで)



消防・救急・防災の面で、『安全・安心』をより一層実感できるよう、川越地区消防組合が今後、特に力を入れて取り組むべきことを聞いたところ、「高度な救急処置を行える救急隊員の育成を促進する」が35.6%で最も多く、以下、「地域の医療機関との連携を強化する」が30.8%、「消防・救急要請に対する現場到着時間を短縮する」(25.7%)、「大規模災害時における対応の想定を示す」(24.0%)、「地震などの大規模災害に対応できる特殊な資機材・車両を整備する」(20.2%)が2割台で続いている。

性別に上位5項目をみると、第1位から第4位までは男女とも同じ項目があげられている。第5位には、男性では「地震などの大規模災害に対応できる特殊な資機材・車両を整備する」、「住民への救急救命や応急手当の普及・指導の機会を増やす」（ともに22.3%）が、女性では「レスキュー隊など高度な技術を持つ専門部隊を増やす」（20.6%）があげられている。

年代別に上位5項目をみると、「高度な救急医療を行える救急隊員の育成を促進する」、「地域の医療機関との連携を強化する」、「消防・救急要請に対する現場到着時間を短縮する」及び「大規模災害時における対応の想定を示す」は多くの年代で5位以内にあげられており、世代を超えた要望となっている。その中で、「大規模災害時における対応の想定を示す」の位置付けは若年層では高いが、年代が上がるにつれて順位を下げ、「高度な救急処置を行える救急隊員の育成を促進する」、「地域の医療機関との連携を強化する」、「消防・救急要請に対する現場到着時間を短縮する」といったより身近な対応の充実がより上位となっている。また、20～29歳では、「街中や建物の中へのAEDの設置を促進する」が唯一第2位となり、更なる促進に取り組むべきものとしてあげられている。

性別／年代別 上位5位表

(%)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
【性別】	男性	救急隊員の育成 n=664 34.0	地域医療機関との連携強化 30.0	現場到着時間の短縮 24.8	大規模災害時における対応の想定 23.2	特殊な資機材・車両の整備／救急救命や応急手当の普及・指導 22.3
	女性	救急隊員の育成 n=919 37.6	地域医療機関との連携強化 32.2	現場到着時間の短縮 27.0	大規模災害時における対応の想定 25.2	高度な技術を持つ専門部隊 20.6
【年代別】	20～29歳	大規模災害時における対応の想定 n=116 37.1	街中や建物の中へのAED設置促進 35.3	救急隊員の育成／地域医療機関との連携強化 30.2		現場到着時間の短縮 25.9
	30～39歳	救急隊員の育成 n=227 32.2	大規模災害時における対応の想定 28.6	地域医療機関との連携強化 27.3	現場到着時間の短縮 25.1	救急救命や応急手当の普及・指導 23.3
	40～49歳	救急隊員の育成 n=258 38.4	地域医療機関との連携強化 34.5	大規模災害時における対応の想定 26.7	特殊な資機材・車両の整備 25.2	現場到着時間の短縮 22.5
	50～59歳	救急隊員の育成 n=210 36.2	地域医療機関との連携強化 34.8	現場到着時間の短縮 26.2	大規模災害時における対応の想定 25.7	高度な技術を持つ専門部隊 25.2
	60～64歳	救急隊員の育成 n=191 40.8	地域医療機関との連携強化 36.6	現場到着時間の短縮 28.3	大規模災害時における対応の想定 26.7	救急救命や応急手当の普及・指導 22.0
	65歳以上	救急隊員の育成 n=581 36.3	地域医療機関との連携強化 28.6	現場到着時間の短縮 27.4	救急車を増やす 21.2	救急救命や応急手当の普及・指導 20.1

※便宜上、選択肢は短縮して表示している。

第2章 調査結果の詳細

地区別に上位5項目をみると、「高度な救急処置を行える救急隊員の育成を促進する」、「地域の医療機関との連携を強化する」はすべての地区で5位以内にあげられている。また、「消防・救急要請に対する現場到着時間を短縮する」、あるいは「救急車を増やす」もほとんどの地区であげられており、救急体制の充実の要望を求める声は各地区で共通と言える。この他、「地震などの大規模災害に対応できる特殊な資機材・車両を整備する」、「レスキュー隊など高度な技術を持つ専門部隊を増やす」や「住民への救急救命や応急手当の普及・指導の機会を増やす」といった項目も比較的多くの地区であげられている。一方、「多くの人が利用する建物や危険物施設への立入検査を増やす」が芳野地区では27.5%で第2位、「防火・防災に関する情報の発信を充実させる」が福原地区では29.7%で第3位にあげられているなど、力を入れて取り組むべき施策には地域ごとに違いもみられる。

地区別 上位5位表

(%)

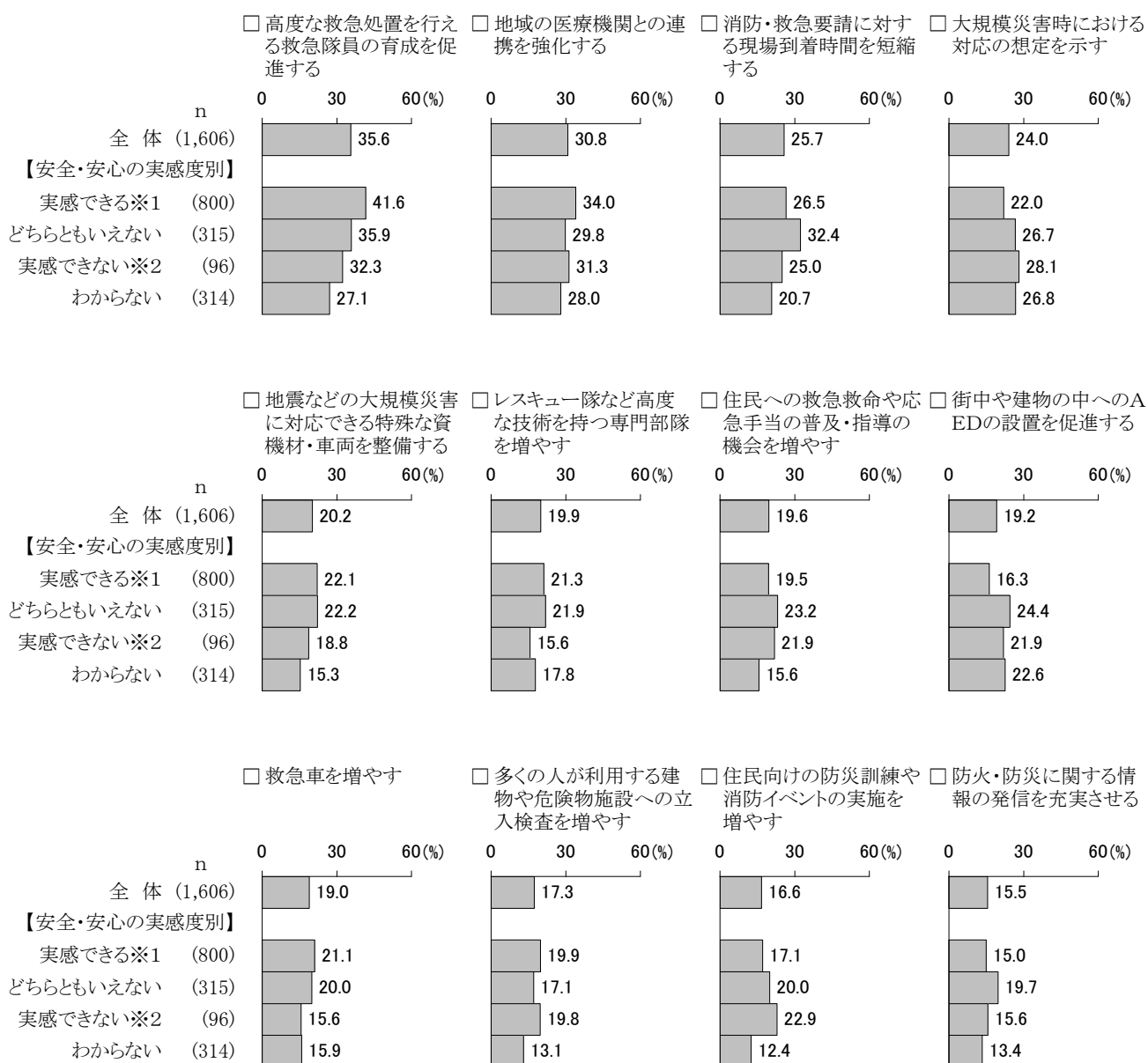
		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
【地区別】	本庁地区 n=346	救急隊員の育成 39.9	地域医療機関との連携強化 32.9	大規模災害時における対応の想定 29.5	現場到着時間の短縮 28.9	街中や建物の中へのAED設置促進 23.4
	芳野地区 n=51	救急隊員の育成 29.4	建物や危険物施設への立入検査を増やす 27.5	大規模災害時における対応の想定 23.5	現場到着時間の短縮／地域医療機関との連携強化 21.6	
	古谷地区 n=79	大規模災害時における対応の想定 31.6	救急隊員の育成 29.1	地域医療機関との連携強化 27.8	現場到着時間の短縮／特殊な資機材・車両の整備 22.8	
	南古谷地区 n=103	救急隊員の育成 32.0	現場到着時間の短縮／大規模災害時における対応の想定 29.1		救急救命や応急手当の普及・指導／地域医療機関との連携強化 23.3	
	高階地区 n=186	救急隊員の育成 34.4	地域医療機関との連携強化 33.3	現場到着時間の短縮 28.0	特殊な資機材・車両の整備 26.3	救急救命や応急手当の普及・指導 24.7
	福原地区 n=91	救急隊員の育成 40.7	地域医療機関との連携強化 37.4	防火・防災に関する情報発信の充実 29.7	救急救命や応急手当の普及・指導 25.3	救急車を増やす 24.2
	大東地区 n=153	救急隊員の育成 36.6	地域医療機関との連携強化 32.7	現場到着時間の短縮 22.9	高度な技術を持つ専門部隊／特殊な資機材・車両の整備 21.6	
	霞ヶ関地区 n=167	救急隊員の育成 32.3	地域医療機関との連携強化 31.1	大規模災害時における対応の想定 26.3	現場到着時間の短縮 22.8	防災訓練や消防イベントの実施 22.2
	霞ヶ関北地区 n=87	救急隊員の育成 29.9	地域医療機関との連携強化 28.7	特殊な資機材・車両の整備／街中や建物の中へのAED設置促進 25.3		救急車を増やす 21.8
	名細地区 n=137	救急隊員の育成 40.9	現場到着時間の短縮 32.8	地域医療機関との連携強化 32.1	高度な技術を持つ専門部隊を増やす 29.9	救急車を増やす 24.1
	山田地区 n=70	救急隊員の育成 32.9	救急車を増やす 28.6	大規模災害時における対応の想定 25.7	街中や建物の中へのAED設置促進／地域医療機関との連携強化 24.3	
	川島町 n=106	救急隊員の育成 43.4	地域医療機関との連携強化 35.8	現場到着時間の短縮 30.2	特殊な資機材・車両の整備／救急救命や応急手当の普及・指導 22.6	

※便宜上、選択肢は短縮して表示している。

問24で尋ねた安全・安心の実感度別にみると、「実感できる」では、「高度な救急処置を行える救急隊員の育成を促進する」(41.6%)、「地域の医療機関との連携を強化する」(34.0%)などへの要望が比較的多い。

「実感できない」では、「大規模災害時における対応の想定を示す」(28.1%)、「住民向けの防災訓練や消防イベントの実施を増やす」(22.9%)、「住民への救急救命や応急手当の普及・指導の機会を増やす」(21.9%)が2割台と比較的多くなっている。

安全・安心の実感度別（上位12項目）



※1 実感できる：「実感できる」と「ある程度実感できる」の計
 ※2 実感できない：「まったく実感できない」と「あまり実感できない」の計

7. 自由記述

最後に、川越地区消防組合に対するご意見や安全・安心のまちづくりについて消防行政へのご希望がありましたら、ご自由にお書きください。

川越地区消防組合に対する意見や安全・安心のまちづくりについて消防行政への希望を自由に記述していただいたところ、334人の方から401件の貴重な記述が寄せられた。1人で2つ以上の内容にわたって記述している場合はそれぞれ1としてカウントするため、件数は延べ件数となる。

消防組合（職員・隊員・署）について	177
・応援、感謝、励まし、ねぎらいの言葉	156
・署員の増員や消防車・救急車の増車が必要だ	7
・消防署が近くにない地区の増設や対応の迅速化が必要だ	7
・一層の人材、組合力の強化に取り組んでほしい	5
・電話通報への対応は丁寧であってほしい	2
今回のアンケート調査について	32
・今回のアンケートで啓発された／知らないことがわかった／参考になった	19
・調査の手法／設問設計への意見など	5
・接点がないなかで回答がしにくかった	4
・今回の結果を報告、反映してほしい	4
自然災害・大規模災害について	31
・自然・大規模災害を想定した住民の行動指針を示してほしい	13
・自然災害・大規模災害に対する十分な対策をしてほしい	10
・自然・大規模災害に備えるため情報をうまく活用してほしい	4
・避難先、避難所生活が不安だ	3
・震災体験者の在宅避難生活の冊子をつくってほしい	1
情報発信・PR、住民との交流機会について	29
・積極的なPR活動をしてほしい	17
・住民と交流する機会や行事があるといい	9
・そもそも消防組合とは何か	2
・緊急時以外は笑顔で接してくれると馴染みやすい	1
各種訓練・指導・講習会等について	26
・事業所、学校、自治会等に対する訓練・指導を増やしてほしい	8
・訓練・指導・講習の必要性を感じる	7
・もっと多く身近で気軽に参加できるといい	7
・今後も継続してほしい	2
・参加して勉強になった	2

火災（災害）予防対策について	25
・防災パトロール、地区巡回を強化してほしい	10
・防災放送が聞こえにくい、何を言っているのかわからない	9
・野外焼却の対策をしてほしい	2
・空き屋放置対策をしてほしい	1
・防火水槽の定期点検を実施してほしい	1
・多くの人々の集まる所の安全指導と積極的な監視活動を行ってほしい	1
・火災の場合、近隣住民の避難も働きかけてほしい	1
病院等関連機関との連携について	20
・搬送先の迅速な決定が実現できるようなシステムの構築を願う	13
・地域医療機関や警察との連携を高めてほしい	3
・県の医療技術、医師の向上を願う	2
・市行政との人材交流を図るべき	1
・救急車搬送の際、かかりつけの病院に搬送してほしい	1
緊急車両とその通行する道路について	19
・狭隘道路や障害物のある道が多く、緊急車両通行の障害にならないよう関連機関と連携し点検と整備をしてはどうか	11
・サイレンの音が気になる	3
・消防車、救急車の出動・到着に時間がかかる	2
・一般道路内に緊急時専用路を整備してほしい	1
・救急車利用後の病院からの帰宅や付き添いの案内があると良い	1
・現在把握している緊急車両通行に困難のある道、場所の情報を公開してほしい	1
住民への防災・救急意識の啓発について	12
・各種手段を利用して住民に対する積極的な防災意識啓発をしてほしい	7
・戸別訪問を実施してほしい	2
・住民自身の防災への意識向上が必要だ	1
・緊急車両に対する住民の意識が低い	1
・救急車利用者の意識向上が必要だ	1
災害時の不安やお願い	10
・高齢者、要介護者、障害者世帯に対する緊急事態対応を充実してほしい	7
・地区の端に居住しているため緊急時の対応が遅れるのではないかと	2
・地区にどんな世帯が居住しているかを把握することで時間短縮が可能になる	1
防災関連用品について	9
・消火器について（詰め替え方法、処分方法、購入場所）	4
・火災報知器について（安価で／わかりやすい設置方法）	3
・AED設置場所をもっと増やしてほしい	2
その他	11

第2章 調査結果の詳細

第3章 使用した調査票











「川越地区消防組合」の紹介



□ 「川越地区消防組合」とは？

- 「川越市」と「川島町」が、お互いの“消防業務”（火災・救急・救助・火災予防・防災など）を協力・共同して行うため、昭和48年に設置した特別な地方公共団体です。

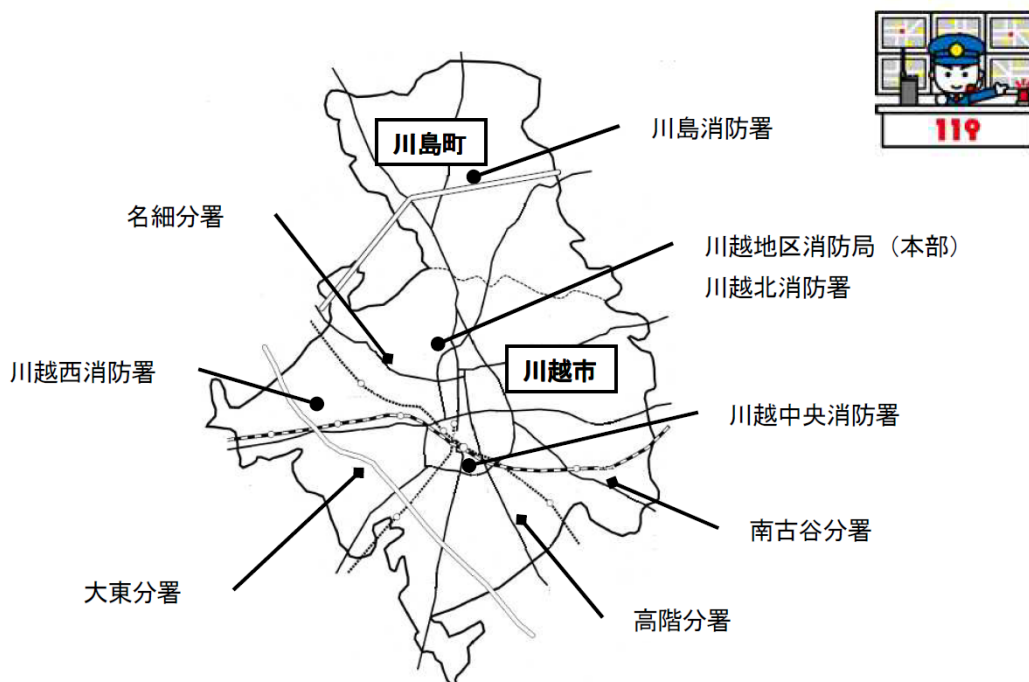
火災	救急	救助	火災予防、防災など
			
			

□ 「川越地区消防組合」の管轄区域は？

- 「川越市」と「川島町」が管轄区域です。
- 川越市・川島町から119番通報すると、川越地区消防組合の通信指令センターにつながります。

□ 消防署はどこにあるの？

- 川越地区消防組合の消防署・消防分署は、川越市に7箇所、川島町に1箇所あります。



川越地区消防組合

消防・救急・防災に関する意識調査

調査ご協力のお願い

日頃は、川越地区消防組合の業務にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

この調査は、川越地区消防組合の管轄する地域（川越市・川島町）にお住まいの方の、消防や救急、防災に関する意識や要望を把握し、地域の安全と安心をより一層充実していくための貴重な資料として活用するために実施するものです。

調査の実施にあたっては、平成25年9月川越市・川島町の住民基本台帳に登録されている満20歳以上の方から、3,000人を無作為に選ばせていただきました。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成25年10月

川越地区消防組合管理者 川合善明

- ◎ 調査結果はコンピュータで統計的に処理しますので、ご回答いただきました個人のお考えが公表されることは一切ございませんのでありのままお答えください。

ご記入にあたってのお願い

1. 対象となったご本人がお答えください。
2. 記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
3. 回答は最初から1問ずつ、最後までお答えください。ただし、質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、ことわり書きをよくお読みください。
4. お答えは、あてはまる番号に○印をつける、または□に数字を記入してください。
5. 質問によって、○をつける数を「1つ」「あてはまるものすべて」などと指定しておりますので、その範囲内でお答えくださるようお願いいたします。
6. 「その他」にあてはまる場合は、() 内にできるだけ具体的にその内容を記入してください。

ご記入がおわりましたら

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒にて10月25日(金)までにご投函ください(切手を貼る必要はありません)。

なお、ご不明な点がございましたら、お気軽に下記までご連絡ください。

【お問い合わせ先】川越地区消防組合 総務課総務担当
〒350-0823 川越市神明町48番地4
電話 (049)222-0741 / Fax (049)226-7291

1 お住まいの火災予防についておたずねします

問1 あなたのお住まいでは、火災への備えとしてどのような対策をしていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。（集合住宅等で管理会社により設置されている場合等も含めてお答えください。）
（○はあてはまるものすべて）

1. 消火器を設置している
2. スプレー式の簡易消火器を設置している
3. 家具、カーテン、寝具、衣類などに防災製品を使用している
4. ロープ・避難はしごなどの避難器具を設置している
5. ガス漏れ警報器を設置している
6. 火災報知器や警報器を設置している
7. コンセントを定期的に清掃している
8. 家の周囲に燃え易いものを置かないようにしている
9. その他（具体的に _____）
10. 特になにもしていない → 問1-2へ

【問1で「1. 消火器を設置している」を選ばなかった方におたずねします。】

問1-1 あなたの家に消火器を備えていない理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。
（○は3つまで）

1. 消火器を販売しているところが見つからない
2. 消火器の値段が高い
3. 消火器の使い方を知らない
4. 消火器の効果に疑問がある
5. 種類が多く、どれを購入したらよいかわからない
6. 消火器を備える必要性を感じない
7. 使用後の廃棄又は詰め替え方法がわからない
8. その他（具体的に _____）
9. 特に理由はない

【問1で「10. 特になにもしていない」と答えた方におたずねします。】

問1-2 なにもしていない理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。
（○は3つまで）

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 火災を意識していない | 5. 機器の効果がわからない |
| 2. 何をして良いかわからない | 6. 火災への備えにお金をかけたくない |
| 3. 機器の値段がどれも高い | 7. その他 |
| 4. どこで機器を販売しているかわからない | （具体的に _____） |
| | 8. 特に理由はない |

問2 あなたは、家具、カーテン、寝具、衣類などに「防災」または「防災製品」の表示が添付してある防災性の高い製品があることを知っていますか。 (○は1つ)

- 1. 知っている
- 2. 知らない



問3 あなたのお宅では、放火を防ぐために何か実施していることはありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。 (○はあてはまるものすべて)

- 1. 家庭ごみは、指定日の朝に出している
- 2. 夜間、日常的に屋外照明を点灯している
- 3. 車やバイクのカバーは、防災性の高いものを使用している
- 4. 屋外に監視センサー又はセンサーライトなどを設置している
- 5. 屋外に置いてある物品等は常に整理整頓している
- 6. 家の周囲に燃えやすいものを置かないようにしている
- 7. その他 (具体的に)
- 8. 特になにもしていない

問4 あなたは、消防法及び川越地区消防組合火災予防条例により、川越地区消防組合管内 (川越市及び川島町) のすべての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務づけられていることを知っていますか。 (○は1つ)

- 1. 知っている
- 2. 知らない

【問4で「1. 知っている」と答えた方におたずねします。】

問4-1 どのような方法で住宅用火災警報器の設置が義務化されたことを知りましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。 (○はあてはまるものすべて)

- 1. ポスターなどの掲示物
- 2. 川越地区消防組合のホームページ
- 3. 川越地区消防組合の広報紙 (虹のマーチ)
- 4. 川越市の広報紙 (広報川越) 又は川島町の広報紙 (広報かわじま)
- 5. 消防職員による街頭広報
- 6. 消防車両によるスピーカー広報
- 7. 新聞・雑誌
- 8. 路線バスの車内アナウンス
- 9. テレビ・ラジオ
- 10. 自治会・町内会等の回覧
- 11. その他 (具体的に)
- 12. おぼえていない

問5 現在、あなたのお住まいに住宅用火災警報器を設置していますか。(集合住宅等で管理会社により設置されている場合等も含めてお答えください。) (○は1つ)

1. 設置している	3. わからない
2. 設置していない	→ 問5-3へ

→【問5で「1. 設置している」と答えた方におたずねします。】

問5-1 住宅用火災警報器をどこに設置していますか。次の中から設置されている場所をすべて選んでください。(○はあてはまるものすべて)

1. 寝室	7. トイレ
2. 居間・リビング・その他の居室	8. 洗面所・脱衣所
3. 廊下	9. 押入れの中
4. 台所	10. 屋根裏
5. 階段	11. その他(具体的に)
6. 玄関	12. わからない

→【問5で「1. 設置している」と答えた方におたずねします。】

問5-2 住宅用火災警報器は、正常に作動するかどうかを点検ボタンを押したり、点検ひもを引いたりして、定期的に点検する必要がありますが、あなたのお宅に設置している住宅用火災警報器の定期点検の状況について、次の中からあてはまるものを1つ選んでください。(集合住宅等で管理会社により点検が行われている場合等も含めてお答えください。) (○は1つ)

1. 月に1回程度は点検している
2. 半年に1回程度は点検している
3. 年に1回程度は点検している
4. 定期的ではないが、気がついたときに点検している
5. 1度くらいは点検したことがある
6. 点検をしたことは1度もない
7. その他(具体的に)
8. わからない

【問5で「2. 設置していない」と答えた方におたずねします。】

問5-3 住宅用火災警報器を設置していない理由は何ですか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。(○はあてはまるものすべて)

1. 今まで義務化されていることを知らなかった
2. 販売している所がわからない
3. 購入してもどこに設置したらよいかわからない
4. 値段が高い
5. 自分で取り付けることがむずかしい
6. 火災の際の効果がわからない
7. 必要性を感じない
8. 設置するのが面倒
9. 住宅用火災警報器ではなく、自動火災報知設備の感知器またはスプリンクラー設備が設置されている
10. 民営借家や賃貸住宅なので、家主が設置するべきと考えている
11. その他（具体的に _____）
12. 特に理由はない

2 救急救命・救急講習についておたずねします

問6 あなたがもし、119番通報で自宅に救急車を呼んだ場合、近くの消防署から救急車が何分くらいでああなたのお宅へ到着すると思いますか。□の中に数字を記入してください。

--	--

分ぐらい

問7 あなたがもし、119番通報で救急車を呼ぶとした場合、心配なことは何ですか。次の中から3つ以内を選んでください。(○は3つまで)

1. 今いる場所が正確に伝えられるかどうか
2. 病気やけがの状態を正確に伝えられるかどうか
3. 救急車が来るまでの処置を適切に行えるかどうか
4. 救急車が早く来てくれるかどうか
5. 高度な救急処置を行える救急隊員が来るかどうか
6. 高度な処置を行うことができる機材を装備した救急車が来るかどうか
7. 救急車のサイレンの音が近所迷惑にならないかどうか
8. 希望する病院へ搬送してくれるかどうか
9. 病院を“たらい回し”にされないかどうか
10. 個人情報を守られるかどうか
11. その他（具体的に _____）
12. 特に心配なことはない

第3章 使用した調査票

問8 急病やけがなど、いざという時には救急車を要請する必要があります。あなたが、救急車を呼ぶ「いざ」という時とは、どのような場合ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。
(○はあてはまるものすべて)

1. 自分の他に、だれも手助けしてくれる人がいないとき
2. 病気やけがの軽症・重症の判断が自分では難しいとき
3. 自分自身が病気やけがで動けないとき
4. 病気やけがの状態が一刻を争うと思えるとき
5. 急病ではないが、とにかく早く病院で診てもらいたいとき
6. 病院に行くべきかどうかを相談できる人がいないとき
7. ひとりで病院に行く交通手段がないとき
8. 病院へ連れて行ってくれる人がいないとき
9. 近くに病院がないとき
10. どの病院へ行ったらよいのかわからないとき
11. ひとりで病院へ行くのは心細いとき
12. その他（具体的に _____)
13. いかなる時でも救急車を呼ぶことはないと思う

問9 あなたはこれまでに、救急・救命講習会または応急手当講習会に参加したことがありますか。
(地域で開催しているものや、お勤めの会社、学校などで行われたものも含まれます。)

(○は1つ)

- | | |
|--------------|----------|
| 1. 参加したことがある | 3. わからない |
| 2. 参加したことはない | |

→ **【問9で「2. 参加したことはない」と答えた方におたずねします。】**

問9-1 参加したことがない理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。
(○は3つまで)

1. 講習会が開催されていることを知らない
2. 参加したいと思うが、時間の都合がつかない
3. ひとりで参加するのは、はずかしい
4. 講習会の会場が遠い
5. 実際には、役に立たないと思うから
6. 面倒だから
7. 関心がない
8. その他（具体的に _____)
9. 特に理由はない

問10 あなたは、今後、どのような救急救命・応急手当の方法を学んでみたいと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。(○は3つまで)

1. 心肺蘇生法（人工呼吸と心臓マッサージ）
2. AEDの使い方
3. のどに物が詰まった時の対処方法
4. 乳児や小児に起こりやすい事故に対する応急手当の方法
5. 高齢者に起こりやすい事故に対する応急手当の方法
6. 止血の方法
7. 骨折や脱臼に対する応急手当の方法
8. やけどに対する応急手当の方法
9. 熱中症に対する応急手当の方法
10. その他（具体的に _____）
11. 特にない

3 災害への備えについておたずねします

問11 あなたは、いざというときに119番通報ができると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. できると思う 2. なんとかできると思う | <ol style="list-style-type: none"> 3. できないと思う 4. わからない |
|--|--|

▶【問11で「3. できないと思う」または「4. わからない」と答えた方におたずねします。】

問11-1 「できない」または「わからない」と思う理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(○はあてはまるものすべて)

1. 何を伝えたらよいのかわからない
2. いざ、そのときになったら気が動転してしまう気がする
3. そのときの状態をうまく伝えられない
4. 現在地をうまく伝えられない
5. 携帯電話やPHSからの通報方法がわからない
6. 119番通報をかけたことがない
7. その他（具体的に _____）
8. 特に理由はない

第3章 使用した調査票

問12 あなたが普段の生活において、不安に思うことのある事故や災害は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。(○は3つまで)

- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| 1. 住宅火災 | 9. 放射能事故 |
| 2. 急病にかかる | 10. 毒物や劇薬などによるテロ災害 |
| 3. 大きなけがをする | 11. 新型のインフルエンザや感染症の流行 |
| 4. 地震による大規模災害 | 12. その他
(具体的に) |
| 5. 豪雨による被害 | 13. 特にない |
| 6. 強風による被害 | |
| 7. 鉄道など公共交通機関の事故 | |
| 8. 危険物や化学薬品などによる工場の
火災・爆発 | |

問13 あなた自身やあなたの周りの方の身に起こり得る万一の事態に備えて、参加しておきたいと思う訓練や体験はどのようなものですか。次の中から3つ以内で選んでください。

(○は3つまで)

- | | |
|--|-----------------------|
| 1. 119番通報訓練 | 8. 起震車(なまず号)による地震体験 |
| 2. 救急救命・応急手当の訓練 | 9. 地域住民と行う防火・防災訓練 |
| 3. スコップや自動車用ジャッキなど
身近にある道具を利用した救出訓練 | 10. 消防職員による防火・防災講演会 |
| 4. 火災や地震を想定した避難訓練 | 11. 台風や集中豪雨に備えた水害対応訓練 |
| 5. 消火器の使用方法を学ぶ消火訓練 | 12. その他
(具体的に) |
| 6. 火災の際に発生する煙の疑似体験 | 13. 特にない |
| 7. はしご車の搭乗体験 | |

問14 あなたが過去5年以内に参加したことのある防災訓練をすべて選んでください。

(○はあてはまるものすべて)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 川越市総合防災訓練 |
| 2. 川島町総合防災訓練 |
| 3. 川越市と川島町以外の市町村が実施する防災訓練 |
| 4. 自治会・町内会や自主防災組織等が主催する地域の防災訓練 |
| 5. 職場が主催する自衛消防訓練 |
| 6. その他(具体的に) |
| 7. 参加したことはない |
- 問14-1へ

【問14で「7. 参加したことはない」と答えた方におたずねします。】

問14-1 参加したことがない理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。
(○は3つまで)

1. 訓練があることを知らなかった 2. 訓練があることは知っていたが、参加できるとは思わなかった 3. 参加する意思はあったが、都合により参加できなかった 4. ひとりで参加するのは、はずかしいから 5. 訓練等の必要がないと思うから 6. 地域住民と関わりたくないから 7. 訓練は実際には役に立たないと思うから 8. 防災に関心がない 9. 面倒だから 10. 仕事で忙しい 11. その他（具体的に) 12. 特に理由はない
--

問15 あなたは、大地震などで大きな被害が発生したとき、次のア～カの事柄について隣近所の方々と助け合いや協力ができると思いますか。項目ごとに1つずつ選んでください。
(○はそれぞれ1つずつ)

	できる	多分できる	多分できない	できない	わからない
ア. 隣近所の住人の安否確認	1	2	3	4	5
イ. 病人や高齢者などが避難する場合の手助け	1	2	3	4	5
ウ. 火災が発生した場合の初期消火	1	2	3	4	5
エ. 負傷者の救出・救護	1	2	3	4	5
オ. 食料・飲用水の助け合い	1	2	3	4	5
カ. 児童や幼児、高齢者、けが人、病人などの一時保護	1	2	3	4	5

問16 あなたは、普段は生業を持ちながらも、自らの地域は自らが守るというボランティア精神に基づき活動する「消防団」を知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。
(○は1つ)

1. 活動の内容を含めて、よく知っている 2. 活動の内容を含めて、少しは知っている 3. 名前だけは知っている 4. 知らない

問17 あなたは、消防団に参加して消防団員として活動してみたいですか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 活動してみたい | 4. すでに消防団員として活動している |
| 2. 条件が合えば活動してみたい | |
| 3. 活動したくない | |

【問17で「2. 条件が合えば活動してみたい」または「3. 活動したくない」と答えた方におたずねします。】

問17-1 その理由は何ですか。次の中からあてはまるものを3つ以内で選んでください。(○は3つまで)

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1. 仕事と両立できそうにない | 10. 活動内容がよくわからない |
| 2. 職場の理解が得られない | 11. 規律や上下関係が厳しいイメージがある |
| 3. 家族の理解が得られない | 12. 訓練が厳しいイメージがある |
| 4. 自分のための時間を減らしたくない | 13. 参加しにくいイメージがある |
| 5. 家族のための時間を減らしたくない | 14. 手当などの待遇がよくない |
| 6. 年齢的に厳しい | 15. 消防団の必要性を感じていない |
| 7. 体力的に厳しい | 16. その他 |
| 8. 自分の役割ではないと思う | (具体的に) |
| 9. 危険なイメージがある | 17. 特に理由はない |

4 消防・救急・防災情報についておたずねします

問18 あなたは、消防・救急・防災に関する情報のうち、どのような分野の情報に興味がありますか。次の中から5つ以内で選んでください。(○は5つまで)

- | | |
|--------------------------------|----------------------|
| 1. 家庭での防火・防災対策 | 10. 大規模災害時の避難場所や避難生活 |
| 2. 急病やけがをしたときの対処方法 | 11. 大規模災害時の水・食料の調達方法 |
| 3. 119番の通報方法 | 12. 火災のメカニズム |
| 4. 救命・応急手当の救急講習会 | 13. 地震のメカニズム |
| 5. 地域での防災・防火講習会 | 14. 消防に関する法制度 |
| 6. 大地震が発生したときの
川越市・川島町の被害想定 | 15. 川越地区消防組合の重点施策 |
| 7. 大規模災害時における医療サービス | 16. 火災の発生状況 |
| 8. 大規模災害時における情報の収集方法 | 17. その他 |
| 9. 大規模災害時における情報の発信方法 | (具体的に) |
| | 18. 特にない |

問19 川越地区消防組合では公式ホームページを開設していますが、あなたはこれまでに川越地区消防組合の公式ホームページを見たことがありますか。 (○は1つ)

1. よく見る	3. 必要な時だけ見る	4. ほとんど見ない
2. たまに見る		5. 見たことがない

▶【問19で「1」～「3」と答えた方におたずねします。】

問19-1 川越地区消防組合の公式ホームページを見て、どのように感じましたか。それぞれの項目について、あてはまるものをお答えください。

(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	ある程度そう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
ア. 情報の量が豊富	1	2	3	4	5
イ. 知りたいときに知りたい情報が得られる	1	2	3	4	5
ウ. 見やすい・読みやすい	1	2	3	4	5
エ. 興味を引く内容がのっている	1	2	3	4	5

問20 川越地区消防組合では、2月頃、6月頃、11月頃の年3回、広報紙（虹のマーチ）を広報川越・広報かわじまに折り込んで配布していますが、これまでに読んだことはありますか。 (○は1つ)

1. よく読む	3. 必要な時だけ読む	4. ほとんど読まない
2. たまに読む		5. 読んだことがない

▶【問20で「1」～「3」と答えた方におたずねします。】

問20-1 川越地区消防組合の広報紙（虹のマーチ）を読んで、どのように感じましたか。それぞれの項目について、あてはまるものをお答えください。

(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	ある程度そう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
ア. 情報の量が豊富	1	2	3	4	5
イ. 知りたいときに知りたい情報が得られる	1	2	3	4	5
ウ. 見やすい・読みやすい	1	2	3	4	5
エ. 興味を引く内容がのっている	1	2	3	4	5

問21 あなたは、どのような提供手段であれば、消防・救急・防災に関する情報を得やすいと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。(〇は3つまで)

1. インターネット	7. 講演会などの催し物の開催
2. 全戸配布の広報紙	8. 町内会などの集まりの際の講演
3. 公共施設へのポスター掲示	9. 雑誌や書籍
4. 新聞	10. パンフレットなどの冊子
5. テレビ・ラジオ	11. その他 (具体的に)
6. 携帯電話へのメール配信	12. わからない

5 消防組合の取り組みなどについておたずねします

※ 川越地区消防組合では、消防に関わる相談や申請の受付、消防・救急・防災に関する情報の提供、訓練や講習会の実施などの消防行政事務も行っていきます。

問22 あなたは、川越地区消防組合の消防職員に対し、どのような印象(イメージ)を持っていますか。それぞれの項目について、あてはまるものをお答えください。

(〇はそれぞれ1つずつ)

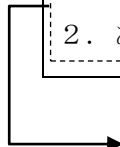
	そう思う	ある程度そう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
ア. 頼りになる	1	2	3	4	5	6
イ. 対応が親切	1	2	3	4	5	6
ウ. 言葉遣いがいい	1	2	3	4	5	6
エ. 親しみやすい	1	2	3	4	5	6
オ. 規律正しい	1	2	3	4	5	6
カ. 地域のために頑張っている	1	2	3	4	5	6

問23 あなたが、川越地区消防組合に実施または導入してほしいと考える行政サービスはどのようなものですか。次の中から3つ以内で選んでください。(○は3つまで)

1. 一般事務窓口の土曜日または日曜日の開庁
2. 平日における一般事務窓口の開庁時間（現在：8：30～17：15まで）の延長
3. 急病やけがをした場合、どのように対応したらよいかを相談できる専用電話回線（救急電話相談センター）の開設
4. 最寄りの消防署・消防分署で各種申請、届出等ができる体制の整備
5. インターネットを利用したオンライン申請・届出システムの導入
6. 災害や安全・安心に関する情報のメール配信
7. その他（具体的に _____）
8. 特にない

問24 あなたは、川越地区消防組合の管内（川越市・川島町）に住んでいて、消防・救急・防災の面で「安全・安心」を実感できますか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

- | | | |
|--------------|--------------|---------------|
| 1. 実感できる | 3. どちらともいえない | 5. まったく実感できない |
| 2. ある程度実感できる | 4. あまり実感できない | 6. わからない |



【問24で「1. 実感できる」または「2. ある程度実感できる」と答えた方におたずねします。】

問24-1 「安全・安心」を実感できる理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(○はあてはまるものすべて)

1. 近くに消防署・消防分署がある
2. 消防車の配備が充実している
3. 救急車の配備が充実している
4. レスキュー隊など高度な技術を持つ専門部隊が充実している
5. 大地震などの災害に対応できる特殊な資機材・車両の配備が充実している
6. 消防職員の職員数が多い
7. 消防職員と触れ合う機会がある
8. 災害現場での消防職員の活動の様子を見て
9. 消防団員が充実している
10. 街中や建物の中でAEDをよく見かける
11. 消防車や救急車を普段よく見かける
12. 防災訓練や消防イベントを実施している
13. 救急救命や応急手当の普及啓発を推進している
14. 地域の医療機関との連携がしっかりしている
15. 防火・防災に関する情報の発信が充実している
16. 自主防災組織との連携が強い
17. 大規模災害時における対応の想定ができています
18. その他（具体的に _____）
19. わからない

第3章 使用した調査票

問25 消防・救急・防災の面で「安全・安心」をより一層実感できるよう、川越地区消防組合が今後、特に力を入れて取り組むべきと思うことは何ですか。次の中から5つ以内で選んでください。

(○は5つまで)

1. 消防車を増やす
2. レスキュー隊など高度な技術を持つ専門部隊を増やす
3. 救急車を増やす
4. 高度な救急処置を行える救急隊員の育成を促進する
5. 消防署・消防分署を増やす
6. 消防職員の職員数を増やす
7. 消防・救急要請に対する現場到着時間を短縮する
8. 地震などの大規模災害に対応できる特殊な資機材・車両を整備する
9. 住民向けの防災訓練や消防イベントの実施を増やす
10. 消防職員と触れ合うことができる機会を増やす
11. 消防団活動を充実させる
12. 街中や建物の中へのAEDの設置を促進する
13. 多くの人々が利用する建物や危険物施設への立入検査を増やす
14. 住民への救急救命や応急手当の普及・指導の機会を増やす
15. 地域の医療機関との連携を強化する
16. 防火・防災に関する情報の発信を充実させる
17. 自主防災組織との連携を強化する
18. 大規模災害時における対応の想定を示す
19. その他（具体的に _____)
20. 特にない
21. わからない

最後に、あなたの属性についておたずねします

※統計的な分析のために必要ですのでお答えください。

F 1 あなたの性別は、どちらですか。 (○は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

F 2 あなたの年齢は、いくつですか。 (○は1つ)

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 20～29歳 | 3. 40～49歳 | 5. 60～64歳 |
| 2. 30～39歳 | 4. 50～59歳 | 6. 65歳以上 |

F 3 あなたの家族構成は、この中のどれに当たりますか。 (○は1つ)

- | | |
|-----------------|-------------------------------|
| 1. 夫婦だけ | 4. 単身世帯 |
| 2. 二世帯世帯（親と子） | 5. その他（ ） |
| 3. 三世帯世帯（親と子と孫） | |

F 4 あなたは、どちらの地区にお住まいですか。 (○は1つ)

《参考：お住まいの「地区」はお送りした封筒のあて名右上に表示されています。》

- | 川越市 | 川島町 |
|----------|-----------|
| 1. 本庁地区 | 7. 大東地区 |
| 2. 芳野地区 | 8. 霞ヶ関地区 |
| 3. 古谷地区 | 9. 霞ヶ関北地区 |
| 4. 南古谷地区 | 10. 名細地区 |
| 5. 高階地区 | 11. 山田地区 |
| 6. 福原地区 | 12. 中山地区 |
| | 13. 伊草地区 |
| | 14. 三保谷地区 |
| | 15. 出丸地区 |
| | 16. 八ツ保地区 |
| | 17. 小見野地区 |

F 5 あなたは、現在の場所に何年くらい住んでいらっしゃいますか。 (○は1つ)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 1年未満 | 4. 10年から20年未満 |
| 2. 1年から5年未満 | 5. 20年以上 |
| 3. 5年から10年未満 | |

第3章 使用した調査票

F6 お住まいの住宅の種類はどれですか。 (〇は1つ)

1. 一戸建持家 (家族の所有も含む)
2. 一戸建以外の持家 (分譲マンションなど)
3. 民営借家 (民営アパートを含む)
4. 公営 (県営、市営、町営、公団、公社) の賃貸住宅
5. 社宅 (独身寮、公務員住宅を含む)
6. その他 ()

F7 あなたのご職業は何ですか。複数ある場合は、主となる職業を1つ選んでください。 (〇は1つ)

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1. 農業 | 6. 専業主婦 (夫)・家事手伝い |
| 2. 自営業者・家族従事者 | 7. 学生 |
| 3. 会社員 (民間企業や団体の役員・職員) | 8. 無職 |
| 4. 公務員 | 9. その他 () |
| 5. パートタイム等の従業員 | |

■ 最後に、川越地区消防組合に対するご意見や安全・安心のまちづくりについて消防行政へのご希望がありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒にて10月25日(金)までに
ご投函ください(切手を貼る必要はありません)。

消防・救急・防災に関する住民意識調査
報告書

平成26年2月

【編集・発行】川越地区消防組合 総務課
〒350-0823 川越市神明町48番地4
電話 (049) 222-0741
